

2022

大 学 院

学 生 便 覧

令 和 4 年 度



日本工業大学

学園讃歌

我が学舎まなびやに栄光さかえあれ

神津善行 作詞・作曲

一、集つどい来て 友よ輪つどを作り

創つくりりゆこう 我等が歴史

ここに学びし その夢が

いつか開ひらくとき

友よまた会あいて 語かたりあおう

たゆまぬ努力こそ 我等の誓ちかい

我が学舎まなびやに 我が学舎まなびやに

我が学舎まなびやに 栄光さかえあれ

二、集つどい来て 友よ手を結び

歩あきゆこう 我等が道を

ここで育てし その花が

いつか咲さいたとき

友よまた会あいて 肩かたをくもう

ゆたかな心こそ 我等の願ねがい

我が学舎まなびやに 我が学舎まなびやに

我が学舎まなびやに 栄光さかえあれ

(一九七七年二月一日制定)

校章の由来

この図柄は、日本工業大学の日と工の字を組合せたものでこの学園のモットーである誠実、勤勉、明朗が色彩で示されている。即ち、白色が誠実、ブルーが明朗、黒が勤勉で色調も工科系にふさわしい。

デザイン 野中宏親氏



日本工業大学 校歌

神保光太郎 作詩
越谷達之助 作曲

一、永遠なる流れ

古利根よ

豊かなみどり

この沃野

ああ われら

ここに 相寄り

たがいに競い 大いなる未来をひらく

輝けり 輝けり 日本工業大学

二、工学の道

限りなく

きたえてやまぬ

この技術

ああ われら ここに 相寄り

希望にもえて しあわせの明日をつくる

輝けり 輝けり 日本工業大学

三、あおげば空を

星は征く

羽搏く夢よ

この使命

ああ われら ここに 相寄り

決意を胸に 新しき世紀をおこす

輝けり 輝けり 日本工業大学

mp ben marcato
1. と わ な る な が れ ふ ー る と ね

mf
よ ゆ た か な み ど り こ ー の よ く ー

p *cresc. molto*
や あ あ ー わ れ ー ら こ こ に ー あ い よ

f
り た が い に き そ い お お い な

ff *mf*
る み ら い を ひ ら く か が や け り か が

poco rit. e dim. 1.2. 3.
や け り に つ ぼ ん こ う ぎ ょ う だ い が く

建学の精神・理念等

〔建学の精神・理念〕

実工学の理念にもとづく工学教育と先進的研究により、新たな価値創造と科学技術の発展に寄与する

※実工学の理念

「工学における実学を重んじ、具象を離れることなく、抽象を怠ることなく、単に机上にとどまることなく、真に有用な教育研究を推進し社会に貢献する」

〔建学の精神・理念に基づく人材像〕

確かな専門力と豊かな人間性をもち、社会の発展に貢献し続ける実践的技術創造人材

〔建学の精神・理念に基づく教育目的〕

実体験的学習と、これを裏付ける理論習得を反復することにより、工学を融合的に学び、社会において応用・実践することのできる専門力を身につける

特色ある教育プログラム、課題に取り組む学び、社会との交流・連携を通じ、人々の幸福のために自ら考え行動することのできる人間力を身につける

〔実工学の学び〕（学生諸君へ）

- 1 現実社会に役に立つことを目標に学ぶ**工学**
- 2 実際の技術に触れることによって学ぶ**工学**
- 3 自ら**実践**することによって学ぶ**工学**
- 4 理論を現実化するために学ぶ**工学**
- 5 **実感**となるまで継続して学ぶ**工学**

「実工学の理念」

本学はここに、工学が本来持つ実学の精神を再確認し、
建学の精神の基本に「実工学の理念」を掲げ、
この理念のもとに、人材を育成し、研究を推進し、
その社会的使命を果たして行くことを表明する。

「実工学の理念」とは、つぎの二つである。

- (一) 具象を離れることなく抽象を怠ることなく、技術実践と理論構築を反復循環することにより、真に有用な工学教育と価値創造の研究開発を行い、社会に貢献する。
- (二) 単に机上の営為にとどまることなく、技術の行われる現場を念頭に置き、現実の技術に触れ、技術が現実社会に実現されることを目的として、教育・研究を行う。

これを要言すれば

「工学における実学を重んじ、具象を離れることなく、抽象を怠ることなく、単に机上にとどまることなく、真に有用な教育研究を推進し社会に貢献する」となる。

実工学とは、言うまでもなく工学における実学尊重を意味するものである。理学との差異を論ずるまでもなく、工学とは、実際の社会に存在し、人々のために機能する形において意味のあるものであり、教育も研究も、常にそのことを前提として行われなければならない。

工学教育において、技術実践能力とそれを裏付ける理論理解の修得は、車の両輪の如くどちらも欠くことは出来ない。学生の技術修得と理論の理解を、有機的かつ効果的に結びつけるもの、それが実工学の理念であり、さらに、大学の果たすべき使命である研究及び社会貢献においても、実工学の理念は明快な方向性を与えるものである。また、教学運営・組織運営においても、実工学の理念は活かされなければならない。

教育課程の編成、教学運営、研究の推進さらには施設設備の充実等々、多岐にわたる大学の諸活動を通底する指針、それが「実工学の理念」である。

日本工業大学ポリシー

大学院・工学研究科・博士前期課程・博士後期課程の目的

■日本工業大学大学院学則■

(第1条 目的)

日本工業大学大学院は、学術の理論及び応用を教授・研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

(第5条 研究科の目的)

工学研究科は、工学に関する精深な学識を究め、技術社会に対応し得る実工学的研究をすすめ、もって社会に寄与することを目的とする。

2. 工学研究科博士前期課程は、広い視野に立って工学における先進的かつ実践的な学識および能力を授け、高い専門性と研究能力を有する創造的職業人を養成することを目的とする。
3. 工学研究科博士後期課程は、工学の専門分野において創造性豊かで実践的な研究開発能力を持ち、自立して研究を行うことができる研究者、又は工業技術の進展に寄与し得る実践的研究開発能力を持った高度に専門的な創造的職業人を養成することを目的とする。

工学研究科博士前期課程のアドミッションポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程は、「実工学」の理念のもと、主体的に研究・開発計画を立案し、推進できる能力と素養を有する人物を求めます。研究・開発を進めるために必要な工学の基礎を修得し、高い倫理観をもって目標を達成するために継続して努力できる意欲・姿勢を重視します。

工学研究科博士前期課程のカリキュラムポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程では、これから益々多様化する社会において、変化し続ける科学技術に順応できるよう、堅実な基礎の上で柔軟に思考し、新しい価値を創出できる技術者を養成するための教育課程を用意しています。

1年次には、専門領域毎に配置された選択科目の他に、必修科目として各専攻の特性に合わせて、主体的に学修を進める「演習科目」を配置しています。演習科目では、コミュニケーション能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力などを育みます。

2年次においては、それまでに修得した知識・技能を生かし、主体的に研究・開発を進め、設定した目標を達成し、修士論文や修士設計を完成させます。

工学研究科博士前期課程のディプロマポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士前期課程では、所定の修了要件を満たすことで下記の能力と資質を備えたものと認め、修士（工学）を授与します。

【専門力】

- ・社会において活用できる実践的な技術力を身につけ、幅広い視野から課題発見・解決につなげることができる。
- ・特定分野の深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。

【人間力】

- ・技術者・研究者として高い倫理観を持ち、柔軟に思考し、自律的・持続的に行動することができる。
- ・自らの考えを論理的に説明し、想像力をもって他者の意見を理解し、議論を深めることができる。

工学研究科博士後期課程のアドミッションポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士後期課程には、21世紀の産業界を担う、研究者・開発技術者を養成する大きな目的があり、入学希望者にはその資質を求めます。具体的には、修士論文の内容、独創性を重視するとともに、学会等外部での発表成果と評価も判断材料となります。

工学研究科博士後期課程のカリキュラムポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士後期課程では、創造性豊かで実践的な研究開発能力を持ち、自立して研究を行うことができる研究者、あるいは実践的研究開発能力を持った高度で専門的な創造的職業人を養成することを目標としています。そのため、博士後期課程では、博士前期課程で培った課題発見能力ならびに関連分野を俯瞰する能力を活かしながら、自らの研究テーマの学術的な背景を明確にするとともに、独創的な視点からテーマを深く掘り下げ、博士論文をまとめることを主眼としています。

工学研究科博士後期課程のディプロマポリシー

日本工業大学大学院工学研究科博士後期課程は、自立して研究活動が行え、高度な創造的研究の企画、遂行、成果の発表等が行える能力とその基盤となる学識、技術等を身につけていることを学位授与の要件としています。

各専攻とも、所定の期間在学し、教育と研究の目的に沿った研究を行い、所定の単位を修得し、各専攻が行う博士論文の審査及び試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件です。

目 次

学園讃歌・校章の由来	
日本工業大学校歌	
建学の精神・理念	
日本工業大学ポリシー	
日本工業大学の沿革	10
ポータルサイト「日本工大サポータル」の利用方法について	16
「遠隔授業」について	21
1. 遠隔授業受講上の注意	21
2. 遠隔授業受講の準備	21
3. 日本工大サポータルを利用して遠隔授業を受講する場合	24
4. Teamsを利用して遠隔授業を受講する場合	27
5. その他（遠隔授業で使用できる便利なツール）	30
〔博士前期課程〕	
博士前期課程各専攻の概要と教授陣	35
博士前期課程専攻別授業科目および単位数	40
インターンシップ関連科目	44
修士論文審査手続要領	45
日本工業大学学位論文審査基準	48
〔博士後期課程〕	
博士後期課程各専攻の概要	51
博士後期課程専攻別授業科目および単位数	54
課程博士の学位申請手続要領	56
論文提出による博士の学位申請手続要領	58
日本工業大学学位論文審査基準	60
博士論文のインターネット公表について	61
博士論文 公表確認書	64
〔学生生活の手引〕	
学生生活の基本的なことがらについて	69
1. 事務等の取扱い案内	69
2. 事務等の取扱い内容	69
3. 学生証	71
4. 保証人の変更等は学生支援課へ届け出を	71
5. 学生に対する伝達、連絡について	71
6. 学費の納入について	72
7. 学籍上の届出・願出	74
8. 証明書等一覧	75
9. 自動車・バイクによる通学	75

10. 自転車に関する注意事項	76
11. 交通機関の利用	77
12. 拾得物の扱い	78
13. ATM（現金自動預払機）	78
14. 20歳になったら国民年金—学生納付特例制度について	78
15. アルバイト	78
経済支援について—奨学金など	80
1. 奨学金制度	80
クリーン・グリーン・エコキャンパス～環境にやさしいキャンパスを～	81
1. 学生環境方針	81
2. 喫煙マナーと環境を守ろう	81
3. 迷惑行為はやめましょう	82
一人暮らしの学生諸君へ	83
うまい話にご用心	85
1. 悪質商法あれこれ	85
2. サイバー犯罪	86
3. インターネットでのマナーとルール	86
ハラスメントについて	87
健康管理について	89
1. 健康管理センター（保健室）	89
2. 保険についての基礎知識	89
3. 知っておきたい知識	90
学生相談　こころの健康を求めて	92
1. 学生相談室	92
キャンパスライフの充実を求めて	93
1. 学内施設の利用について	93
2. 宿泊施設	93
3. 学外施設	93
4. スチューデントホール	93
5. スチューデントラボ	94
日本工業大学学生表彰	95
学内ネットワークの利用について	96
1. NITネットアカウント	96
2. 電子メール	96
3. 二段階認証	96
4. 学内Wi-Fi	96
5. 無償で利用できるソフトウェア	96
6. 学内ネットワークサポートデスク	96
LCセンターの利用について	97

1. 入館	97
2. 利用上の注意	97
3. 館内案内	97
4. 所蔵資料の利用	98
5. 利用サービス	99
6. 各階案内図	101
外国人留学生のためのインフォメーション	103
☆日本に滞在するための注意事項	103
1. 在留資格	103
2. 在留カード	103
3. 住居地の（変更）届出	103
4. 住居地以外の（変更）届出	103
5. 「在留カード」を紛失したときは	103
6. 在留期間の更新	103
7. みなし再入国許可	103
☆在留期間更新等の申請取次	103
1. アルバイト	104
☆医療・保険について	104
1. 健康管理	104
2. 国民健康保険	104
☆経済支援について	105
1. 私費外国人留学生授業料減免奨学金制度	105
2. 外国人留学生のための奨学金	106
3. 住居	106
就職支援について	107
1. 就職支援課の業務	107
2. 就職支援課の利用について	107
3. 就職支援課からの要望	107
外郭団体について	108
1. NITクリエイト	108
2. 日本工業大学工友会	108
巻末資料	
学内案内図	109

日本工業大学の沿革

設立の背景

本学の前身である東京工科大学が設立を認可されたのは、明治40年12月18日であった。初代校長に理学博士徳永重康が就任、校舎を小石川水道端に置いた。明治41年2月開校、生徒数は70人、校章には開学の時季に因んで梅花を交錯させた。その主唱とするところは、昼間社会人として働いている者に夜間の工業教育を施して工業界の第一線にたつ中堅技術者を育成することであった。創立時の学科は、電気科、機械科、建築科、採鉱冶金科の4科で、主唱の中に《…教授ハ実施経験ヲ有スル専門ノ学者技術者ヲ網羅シテ…》とあるように、相当高度な厳しい教育がなされていた。

しかし、この順調な出足も数回にわたる火災によって幾度もつまずいた。実習設備の焼失、移転、新築をくり返し、そのたびに仮校舎での授業が続いた。しかし建学以来の一貫した目標は、これらの苦難にも時代の変動にもめげず堅持された。その間、明治44年に我国初の飛行機の製作に着手するなど、いくつかのエポックをきざみながら多くの卒業生を輩出した。

昭和6年、組織を変更して財団法人東京工科大学を設立、理事長に大木喜福が就任。実業学校令による5年制の東京工業学校（甲種）を併設した。

昭和10年、法人名を財団法人東工学園と改称、同時に東京工科大学を東京高等工科大学（乙種）に改め、東京工業学校（甲種）と併設。昭和18年、東京高等工科大学は学制改革により廃校となる。一方、東京工業学校は昭和23年まで続いた。東工学園の学風はこの時代にできたといわれる。

昭和23年、戦後の新学制により東京工業高等学校および東工学園中学校を設置。目黒区駒場の現在地に新校舎を落成した。

昭和26年、私立学校法の施行にともない、財団法人東工学園は学校法人東工学園となり、今日の経営組織が確立した。

昭和30年代の後半に入り、工業の急速な成長とともに量的拡大から質的向上を求める気運が高まり、工学理論を生産の現場に直進しうる新しいタイプの高級技術者の育成が要望されるに至って、本学園の内外にこの社会的要請に応えようとの動きが盛り上がり行っていた。

昭和37年4月の学園理事会において、創立60周年にあたる昭和42年を期して工業大学を設立することを決議し、昭和40年度に入ってこの方針を確認したうえ、具体的な活動が開始され、同年10月日本工業大学設置事務局が開設された。

沿 革

昭和42年 3月	日本工業大学設立 (工学部／機械工学科、電気工学科、建築学科、入学定員各80名)
昭和42年 4月	小野健二、初代学長に就任
昭和42年 4月	日本工業大学開学 第1回入学式を挙行(入学生331名)
昭和42年12月	日本工業大学後援会を設立
昭和43年11月	学校法人東工学園創立60周年記念式典を挙行
昭和44年 4月	工学部に教職課程(工業)認定
昭和45年11月	日本工業大学開学式典を挙行、日本工業大学校歌を制定
昭和46年 1月	学生定員を変更 (機械工学科、電気工学科、建築学科、入学定員各160名)
昭和46年 3月	第1回卒業式を挙行(卒業生205名)
昭和46年 5月	教養科主任教授平野智治、第2代学長に就任
昭和48年 1月	理事浅田寛二、学校法人東工学園理事長に就任
昭和48年 3月	建築学科主任教授藤岡通夫、第3代学長に就任
昭和48年 3月	図書館完工
昭和49年12月	工学部システム工学科を設置(入学定員80名)
昭和51年 2月	学生定員を変更 (機械工学科、電気工学科、建築学科、入学定員各200名)
昭和52年 4月	システム工学科主任教授吉田衛、第4代学長に就任
昭和52年11月	日本工業大学創立10周年記念行事発表会を挙行
昭和52年11月	学校法人東工学園創立70周年記念式典を挙行
昭和53年 1月	システム工学科に教職課程(工業)認定
昭和53年 4月	機械工作センター・電気実験センター・電算機センターを設置
昭和54年 2月	工学部に教職課程(技術)認定
昭和54年 8月	材料試験センターを設置
昭和54年12月	教養科教授三浦勲郎、第5代学長に就任
昭和55年 4月	保健体育センターを設置
昭和55年 7月	副理事長窪田宗英、学校法人東工学園理事長に就任
昭和57年 3月	大学院工学研究科・修士課程を設置 (機械工学専攻・電気工学専攻・建築学専攻、入学定員各8名)
昭和57年 5月	第1回大学院工学研究科・修士課程入学式を挙行 (機械工学専攻5名、電気工学専攻3名、建築学専攻8名)
昭和58年 3月	大学院工学研究科に教職課程(工業)認定
昭和58年 4月	電算機センターを情報技術センターに名称変更
昭和58年10月	華中工学院(中国、現在華中科技大学)との間に「学術交流に関する取り決め」及び「研究協力に関する覚え書き」を締結
昭和58年10月	建築技術センターを設置
昭和58年12月	学長三浦勲郎再任
昭和59年 3月	第1回学位記授与式を挙行(修了生15名)
昭和59年12月	学生定員を変更(システム工学科入学定員120名)
昭和60年 4月	東工学園工業教育研究所を日本工業大学工業教育研究所とする
昭和60年 7月	超高压放電研究センターを設置
昭和62年 2月	電気工学科を電気電子工学科に名称変更
昭和62年 3月	大学院工学研究科・博士後期課程を設置 (機械工学専攻・建築学専攻、入学定員各2名)
昭和62年 4月	第1回大学院工学研究科・博士後期課程入学式を挙行

	(機械工学専攻2名・建築学専攻1名)
昭和62年4月	電気実験センター、材料試験センター及び建築技術センターを電気実験研究センター、材料試験研究センター及び建築技術研究センターに名称変更
昭和62年5月	記念講堂・演習棟(学友会館)完工
昭和62年6月	学校法人東工学園創立80周年記念式典を挙げる
昭和62年12月	機械工学科教授大川陽康、第6代学長に就任
昭和63年4月	日本工業大学工業技術博物館を設置
昭和63年10月	華中理工大学(中国、現在華中科技大学)との間の「学術交流に関する取り決め」再調印
平成元年3月	大学院工学研究科・電気工学専攻博士後期課程を設置(入学定員2名)
平成元年10月	学長大川陽康、学校法人東工学園副理事長に就任
平成2年4月	学校法人の名称を、学校法人東工学園から学校法人日本工業大学に変更
平成2年4月	中華民国高苑工業専科学校との間に学術と技術交流に関する「合作協議書」調印
平成3年2月	理事長窪田宗英、死去
平成3年3月	副理事長大川陽康、学校法人日本工業大学理事長に就任
平成3年4月	工学部システム工学科、臨時学生定員変更 (平成3年度～平成11年度、定員200名)
平成3年4月	大学院工学研究科に教職課程(技術)認定
平成3年12月	学長大川陽康再任
平成3年12月	キングモンクット工科大学トンブリ(タイ)との間に「学術交流と研究協力に関する協定」締結
平成4年11月	日本工業大学同窓会の名称を、日本工業大学工友会に変更
平成4年12月	留学生別科(日本語研修課程)を設置
平成5年3月	大学院工学研究科・システム工学専攻修士課程を設置(入学定員8名)
平成5年10月	華中理工大学との間の「学術交流に関する取り決め」再調印
平成6年3月	大学院システム工学専攻修士課程に教職課程(技術・工業)認定
平成6年12月	工学部情報工学科設置(入学定員120名)
平成6年12月	学生定員変更(システム工学科入学定員100名)
平成6年12月	臨時学生定員変更(平成7年度～11年度) (情報工学科入学定員140名、システム工学科入学定員160名)
平成7年3月	大学院工学研究科システム工学専攻博士後期課程設置(入学定員2名)
平成7年4月	生涯学習センターを設置
平成7年6月	高苑工商専科学校(台湾)との間に「学術文化教育協力協定書」締結
平成7年7月	南台工商専科学校(台湾)との間に「学術文化教育協力協定書」締結
平成7年12月	機械工学科教授神馬敬、第7代学長に就任
平成8年2月	情報工学科に教職課程(技術・工業)認定
平成8年11月	キングモンクット工科大学トンブリ(タイ)との間に「学術交流と研究協力に関する協定」再調印
平成8年11月	学生相談室開設
平成9年4月	国立交通大学(台湾)との間に「協力協定書」締結
平成9年5月	スチューデントセンター完工
平成9年6月	学校法人日本工業大学創立90周年記念式典を挙げる
平成9年11月	学校法人日本工業大学創立90周年記念事業報告会・祝賀会を挙げる
平成10年2月	技術教育国際フォーラム「感性と工学」を開催
平成10年3月	ゲストハウス完工
平成10年4月	産学リエゾンセンター設置
平成10年6月	レスブリッジ・コミュニティー・カレッジ(カナダ)との間に一般教育プログラムの発展・拡大のための「同意書」締結
平成10年10月	華中理工大学(中国、現在華中科技大学)との間の「学術交流についての取り決め」再調印
平成10年12月	大学院工学研究科情報工学専攻修士課程設置承認(入学定員8名)
平成11年3月	イリノイ大学シカゴ校(米国)と学術文化及び教育研究上の交流推進を目的とした「協定」締結
平成11年3月	材料試験研究センター廃止

平成11年 3月	大学院工学研究科情報工学専攻修士課程に教職課程（工業）認定
平成11年 4月	先端材料技術研究センター設置
平成11年10月	スチューデントラボ設置
平成11年10月	臨時学生定員変更認可（システム工学科入学定員 平成12年度 8名、13年度 6名、14年度 4名、15年度 2名、情報工学科定員 平成12年度16名、13年度12名、14年度 8名、15年度 4名）
平成11年12月	学生定員変更認可（システム工学科入学定員150名、情報工学科入学定員200名）
平成11年12月	学長神馬敬再任
平成12年 4月	工学部に教職課程（数学（中学））認定
平成12年12月	大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程設置承認（入学定員 2名）
平成13年 4月	工学部システム工学科、情報工学科に教職課程（情報）認定
平成13年 6月	国際環境規格 ISO14001認証取得
平成14年 2月	キングモンクット工科大学トンブリ（タイ）との間に「学術交流と研究協力に関する協定」再調印
平成14年 2月	カールスルーエ専門大学（ドイツ）との間に「学術交流協定」締結
平成14年 4月	ノッテングラム大学建築環境学科（英国）との間に相互交流を目的とした「協定」締結
平成15年 2月	獨協大学・文教大学との単位互換協定締結（埼玉県東部地区大学単位互換協定）
平成15年 7月	中国技術学院（台湾、現在中国科技大学）との間に「国際学術交流協議書」締結
平成15年10月	華中科技大学（中国）との間に「学術交流についての取り決め」再調印
平成15年10月	国立交通大学（台湾）との間に「協力協定書」再締結
平成15年11月	高苑技術学院（台湾）との間に「学術文化教育協力協定書」再締結
平成15年12月	機械工学科教授柳澤章、第8代学長に就任
平成16年11月	中国技術学院（台湾、現在中国科技大学）との間に「姉妹校締結に関する共同協議書」調印
平成16年11月	大学院技術経営研究科・技術経営専攻専門職学位課程設置認可（入学定員30名）
平成16年11月	学生定員変更認可（システム工学科入学定員200名）
平成17年 3月	大学院工学研究科情報工学専攻博士前期課程に教職課程（情報）認定
平成17年 4月	教職教育センター設置
平成17年 4月	学修支援センター設置
平成18年 3月	産学リエゾンセンター廃止
平成18年 3月	3大学間の単位互換協定（平成15年 2月締結）に埼玉県立大学を加えて4大学間で単位互換協定を再締結（埼玉県東部地区大学単位互換協定）
平成18年 4月	産学連携起業教育センター設置
平成18年 4月	電気実験研究センター、建築技術研究センターを電気実験センター、建築技術センターに名称変更
平成18年 7月	イリノイ大学シカゴ校（アメリカ）「協定書」締結
平成18年 9月	英語教育センター設置
平成19年 2月	チュラロンコン大学（タイ）との間に「学術協力協定」締結
平成19年 2月	キングモンクット工科大学トンブリ（タイ）との間に「学術交流と研究協力に関する協定」再調印
平成19年 4月	共通系を共通教育系に、超高压放電研究センターを超高電圧研究センターに、保健体育センターを健康管理センターに名称変更
平成19年 4月	情報技術センターと事務システム管理室を統合してシステム管理室を設置
平成19年 4月	総合研究センター、CAD/CAM/CAE 演習室設置
平成19年 6月	学校法人日本工業大学創立100周年記念式典・祝賀会を挙行
平成19年 9月	百年記念館完工
平成19年10月	Library and Communicationセンター（LCセンター）設置
平成19年11月	高苑科技大学（台湾）「学術文化協力協定書」再調印
平成19年12月	学長柳澤章再任
平成20年 3月	学長柳澤章、学校法人日本工業大学副理事長に就任
平成20年 6月	工学部ものづくり環境学科、生活環境デザイン学科設置届出受理（入学定員各50名）
平成20年 6月	システム工学科を創造システム工学科に名称変更届出受理（入学定員140名）
平成20年 6月	学生定員変更（電気電子工学科入学定員160名、創造システム工学科入学定員140名）届出受理
平成20年 7月	インテリアデザインラボ設置

平成20年12月	工学部ものづくり環境学科、生活環境デザイン学科に教職課程（技術・工業）認定
平成21年7月	中国科技大学（台湾）との間に「姉妹校締結に関する共同協議書」再調印
平成23年3月	18号館完工
平成23年4月	環境化学ラボ設置
平成23年12月	生活環境デザイン学科教授波多野純、第9代学長に就任
平成24年7月	大学院工学研究科博士前期課程の環境共生システム学専攻（入学定員15名）、機械システム工学専攻（入学定員35名）、電子情報メディア工学専攻（入学定員25名）、建築デザイン学専攻（入学定員25名）の設置届出受理
平成25年1月	大学院工学研究科博士前期課程の環境共生システム学専攻、機械システム工学専攻の教職課程（技術・工業）、電子情報メディア工学専攻の教職課程（技術・工業・情報）、建築デザイン学専攻の教職課程（工業）認定
平成25年3月	機械工作センター、電気実験センター、CAD/CAM/CAE演習室を廃止
平成25年4月	機械実工学教育センターを設置
平成25年4月	大学院工学研究科博士前期課程の機械工学専攻、電気工学専攻、建築学専攻、システム工学専攻、情報工学専攻が学生募集停止
平成25年5月	W2棟完工
平成25年7月	副理事長 柳澤章、学校法人日本工業大学理事長に就任
平成25年12月	検品センターを設置
平成26年6月	大学院工学研究科博士後期課程の環境共生システム学専攻、機械システム工学専攻、電子情報メディア工学専攻、建築デザイン学専攻の設置届出受理（入学定員各2名）
平成27年3月	大学院工学研究科博士前期課程の機械工学専攻、電気工学専攻、建築学専攻、システム工学専攻、情報工学専攻を廃止
平成27年4月	大学院工学研究科博士後期課程の機械工学専攻、電気工学専攻、建築学専攻、システム工学専攻、情報工学専攻が学生募集停止
平成27年12月	建築学科教授成田健一、第10代学長に就任
平成28年4月	東京電機大学との連携協力に関する協定書を締結
平成28年7月	環境教育研究センターを設置
平成29年3月	S3棟（ダイニングホール）、S4棟（学生クラブ棟）、キッチン&カフェトレビ完工 超高電圧研究センター廃止
平成29年4月	大学院工学研究科博士後期課程の機械工学専攻、電気工学専攻、建築学専攻、システム工学専攻、情報工学専攻を廃止
平成29年6月	基幹工学部の機械工学科（入学定員200名）、電気電子通信工学科（入学定員170名）、応用化学科（入学定員80名）、先進工学部のロボティクス学科（入学定員100名）、情報メディア工学科（入学定員200名）、建築学部の建築学科（入学定員250名）の設置届出受理
平成29年9月	地域連携統括センターを設置
平成29年12月	基幹工学部応用化学科の教職課程（工業）、先進工学部ロボティクス学科の教職課程（技術・工業）認定
平成30年4月	工学部の機械工学科、ものづくり環境学科、創造システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、建築学科、生活環境デザイン学科が学生募集停止 共通教育系を共通教育学群に名称変更
平成30年12月	5号館（多目的講義棟）完工
令和元年8月	E24棟（応用化学棟）完工
令和元年9月	環境化学ラボ廃止
令和元年10月	学長成田健一再任
令和2年4月	地域連携統括センターを地域連携センターに名称変更
令和2年7月	人と暮らしの支援工学センター、理工学教育（STEM）センターを設置
令和2年9月	環境教育研究センター廃止
令和3年3月	ファインブランキングセンター廃止
令和3年6月	先進工学部データサイエンス学科（入学定員120名）の設置届出受理 学生定員変更（基幹工学部 機械工学科入学定員170名、電気電子通信工学科入学定員150名、先進工学部

令和3年10月

情報メディア工学科入学定員120名)届出受理
留学生別科(日本語研修課程)が学生募集停止

ポータルサイト「日本工大サポータル」の利用方法について

ポータルサイト「日本工大サポータル」を用いて、学修するために必要な情報を取得することができます。授業科目の履修申告や、授業時間割やシラバスの参照、授業に関する連絡など、様々な情報をポータルサイトから取得します。

学生の皆さんは、「日本工大サポータル」を必ずブックマークして、毎日ログインをしてください。

1. ログイン方法

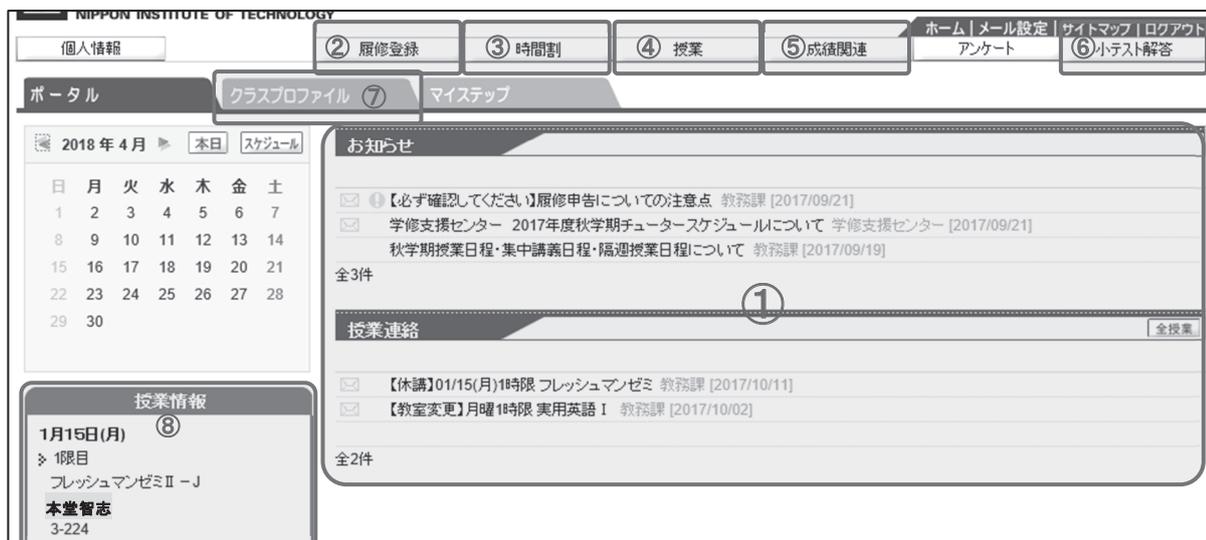
以下のURLへアクセスすると、ログインページが表示されます。

PC版 <https://portal.nit.ac.jp/> スマートフォン版 <https://portal.nit.ac.jp/s>
ログインする前に、必ずブラウザのポップアップブロックを解除してください。

ログインには、入学時に配付の「ユーザID」と「パスワード」が必要です。「ユーザID」は学籍番号です。

サポータルでは、成績等の個人情報を取り扱いますので、パスワードの取り扱いは十分に注意し、パスワードは他の人に絶対に教えないようにしてください。パスワードを忘れた場合は、学園ネットワークサポートデスクへお問い合わせしてください。(連絡先: nitnet@nit.ac.jp)

2. メニューと主な機能



- ① 掲示板
授業に関する連絡や大学のお知らせ等、様々な情報が掲示されます。必ず毎日ログインして、掲示板を確認してください。
- ② 履修登録
履修申告期間になるとメニューが表示され、履修登録ができます。履修登録は、学修の上で最も重要な手続きの一つです。履修申告期間以外には、履修登録はできません。また、履修登録をしていない科目は、成績評価が付与されません。
- ③ 時間割
学生時間割表では、履修登録状況を確認できます。教員時間割表では、先生ごとの授業担当科目や、オフィスアワー（先生が授業の質問等を受け付ける時間帯）を確認できます。
- ④ 授業
シラバスの検索や課題提出、授業評価アンケートへの回答等、授業に関する機能が用意されています。
- ⑤ 成績関連
自身の成績状況をいつでも参照することができます。
- ⑥ 小テスト解答
授業によっては、サポータルを利用した小テストを実施します。
- ⑦ クラスプロフィール
課題提出や授業資料の取得、シラバス照会、授業評価アンケートへの回答等、履修している授業に関する機能が用意されています。
- ⑧ 授業情報
履修登録をすると、授業予定が表示されます。休講や補講の情報も表示されます。
※スマートフォン版では一部機能が利用できない場合がありますので、ご注意ください。

3. 掲示板

休講・補講等の授業に関する連絡など、各種連絡事項、呼び出しなど、大学からのお知らせはサポータルの掲示板でお知らせします。重要な連絡もサポータルの掲示板に掲載されますので、こまめに確認するよう心掛けてください。



※掲示はポップアップウィンドウで開きます。ブラウザのポップアップブロックを解除していないと表示されません。必ずポップアップブロックを解除してください。解除方法が分からない場合は、ログイン画面のマニュアルを参照してください。

4. 履修登録

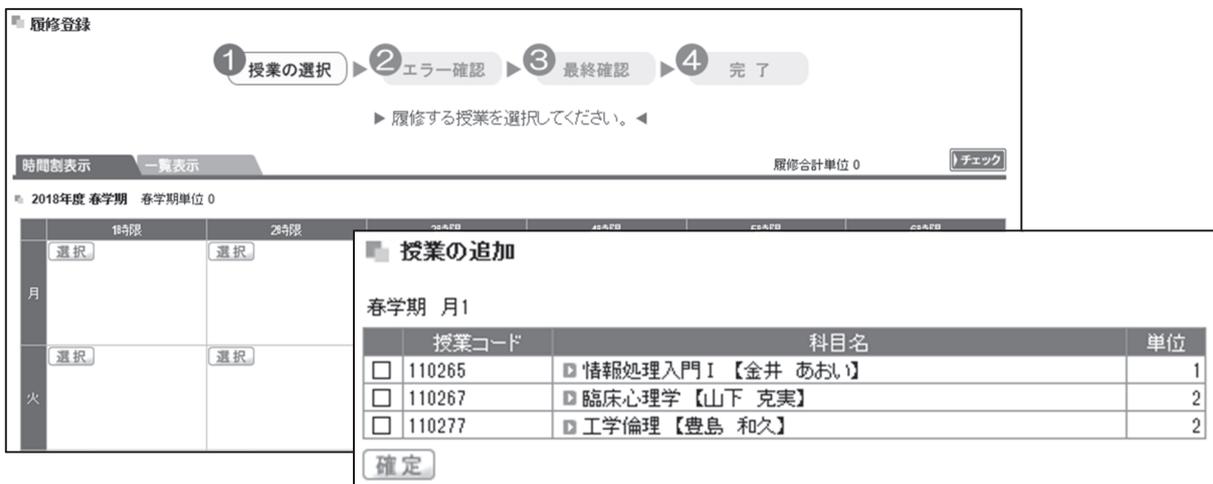
授業時間割は学生自身で決め、受講する授業を届け出なければなりません。これを履修申告といい、学修の上で最も重要な手続きの一つです。履修登録をしていない科目は、成績評価が付与されません。

履修申告期間になると、「履修登録」メニューが開かれます。サポータルでは、履修登録をすることにより、さまざまな機能を利用できるようになります。履修申告期間内であれば登録内容を修正できますので、早めに履修登録をするよう、心掛けてください。



① 授業の選択

各曜日・時限の「選択」ボタンをクリックすると、履修することができる授業が表示されます。



☑をつけて科目を選択し、「確定」ボタンをクリックすると1科目の登録が完了します。また、科目名をクリックするとシラバスが閲覧できます。シラバスには授業の目的や達成目標、授業計画などが記載されています。

【履修登録上の注意点】

- 集中講義 [集中講義] で登録してください。
- 演習科目 [実習] で登録してください。
- 特別研究 [実習] で登録してください。
- 隔週授業 開講される曜日・時限に2科目を登録することができます。
(例)土曜3-4時限に「幾何学Ⅰ」「数学科教育法Ⅰ」を登録
- オープン履修・科目等履修 所属専攻以外に配当されている所定の専門科目「オープン履修科目」を履修する場合は、教務課で配布している専用用紙を用いて履修申告をしてください。

② エラー確認

履修する科目の登録が完了したら、必ず「チェック」をクリックしてください。履修チェック結果が表示され、エラーがある場合は、表示されているメッセージに従い、登録内容を修正してください。また、修正が完了したら、再度「チェック」をクリックしてください。この段階では、履修登録が完了していません。

授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
110072	2018年度 秋学期	月2	マクロ経済学【伊集院 洋介】	2	同一の科目を重複して履修しています。
110114	2018年度 秋学期	月3	マクロ経済学【福士 碧海】	2	同一の科目を重複して履修しています。
110120	2018年度 秋学期	木5	環境論Ⅱ【神保 ちえみ】	2	合格済み科目を履修しています。

③ 完了

登録内容にエラーがなければ、「エラーはありません」とメッセージが表示され、「チェック」が「確定」に変わります。「確定」をクリックすると、履修登録は完了です。なお履修申告期間内であれば、確定後も登録内容を変更することができますが、変更した場合は再度「チェック」をして履修登録を完了させてください。

履修登録した科目を確認する場合は、サポータルのメニュー「時間割」⇒「学生時間割表」から閲覧することができます。単位修得状況欄も表示されますので、成績状況とあわせて履修登録内容を確認してください。

5. 時間割

「学生時間割」では、履修登録をした時間割を確認できます。科目名をクリックすると、シラバスを参照できます。また単位修得状況も参照できるので、修了要件に対して修得している単位数と履修中単位数を確認できます。自身の学修計画を考えるうえで参考にしてください。

■ 学生時間割表					
	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月	120028 情報処理入門Ⅰ【金井 あおい】 1-203 2単位		120079 臨床心理学【山下 克美】 2-375 2単位		
火		51Q221 英語【1Q】【藤山 人志】 2-271 1単位		51Q407 数学【1Q】【吉岡 敦】 1-204 2単位	
水			120102 物理実験【石田 真悠子】 8号館 2単位	120102 物理実験【石田 真悠子】 8号館 2単位	120156 マクロ経済学【福士 碧海】 3-221 2単位
木	122302 フレッシュマンゼミ【豊島 和久】 2-181 1単位	120269 環境論Ⅱ【神保 ちえみ】 4-401 2単位			

「教員時間割」では、教員ごとの時間割を確認できます。教員時間割表に記載のオフィスアワーは、研究室等で先生が授業に関する質問を受け付けられる時間帯のことです。

■ 教員検索>教員時間割表

神保 ちえみ(シンポ チエミ)

	1時限	2時限		3時限	4時限	5時限
月	オフィスアワー	オフィスアワー	—	■ 123310 フレッシュマンゼミ 3-221 1単位		
火	オフィスアワー	オフィスアワー	—	■ 120332 環境計測実験 2単位	■ 120332 環境計測実験 2単位	■ 120332 環境計測実験 2単位
水	オフィスアワー	■ 121930 専門ゼミ I 1単位	—	オフィスアワー		

ポータルサイト利用方法

6. 成績関連

「成績照会」から成績をいつでも確認できます。科目ごとに単位数、評価（AA、A、B、C、D、合、否、/、認）、素点、修得した年度・学期、教員氏名が記載されています。

■ 成績照会

表示パターン 通常 年度学期別

表示設定 評価名称 素点 不合格科目 履修中科目 GPA 単位修得状況欄 表示

科目名	単位	評価	素点	年度	学期	教員氏名
《教育課程》						
【共通教育科目】						
《学習基礎科目》						
情報処理入門Ⅰ	1	AA	92	2018	春学期	金井 あおい
情報処理入門Ⅱ	1	A	84	2018	秋学期	藤山 人志
《キャリア科目》						
キャリア・デザイン論Ⅰ	2	否		2019	春学期	神山 かおり
キャリア・デザイン論Ⅱ	2	合		2019	秋学期	神山 かおり

7. クラスプロファイル ※スマートフォン版からは利用できません

履修登録をすると、クラスプロファイルが利用できるようになります。クラスプロファイルでは、課題提出や授業資料の取得、授業評価等のアンケートへの回答ができます。授業を選択することにより、各機能を利用できます。

ポータル クラスプロファイル マイステップ

Mon 月曜日	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶
Tue 火曜日		課題提出 Homework	アンケート Questionnaire
Wed 水曜日			授業評価 Class Evaluation
Thu 木曜日	▶▶▶▶		
Fri 金曜日		授業資料 Class Material	WEBノート Notebook
Sat 土曜日			クラスフォーラム Class Forum
Sun 日曜日	▶▶▶▶		
実習			
集中		シラバス照会 Syllabus	小テスト解答 Test

2018春学期 現学期

● 課題提出

レポート等の課題提出をする場合は、課題名をクリックします。課題提出ページが開きますので、課題内容に従い提出します。

<input type="checkbox"/> 未提出の課題のみ表示する	<input type="checkbox"/> 提出期間内の課題のみ表示する	並び順	提出終了日順	検索
課題グループ	課題	提出期間		
第2回レポート課題について		2018/01/15(月) 00:00~2018/01/26(金) 23:59		
課題内容	第14回までの講義で扱ったテーマから2つ選択し、以下の要領でレポートを作成すること。 文字数:3,000字以上 4,000字未満 ファイルの形式:PDFファイル 提出バ切:1月26日23:59まで			添付ファイルはありません
提出(1回目)	コメント ※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、{}内に記述してください 提出するファイルを指定し、[追加]ボタンを押下してください。(最大10ファイルまで可) 添付 <input type="text"/> 参照... <input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="提出"/>			

● 授業資料

授業で使用する資料については、授業担当教員がサポータルに掲出する場合があります。

授業資料グループ	全て対象	並び順	授業実施日順 降順	検索
授業資料グループ	授業実施日	タイトル	コメント	資料
	2017/10/16(月)	第3回講義資料・スライド		
	2017/10/02(月)	第2回講義資料・スライド		
	2017/09/25(月)	第1回講義資料・スライド		

● 授業評価

各学期の後半に、授業評価アンケートを実施します。アンケートは、授業の質を高めるための大切な調査です。成績評価には影響しませんので、対象科目についてお答えください。

■ 授業評価一覧	
■ 回答対象授業評価	
状況が未回答の授業について期間内に回答して下さい。	
授業評価アンケート	回答期間: 2019/12/11(月) 00:00~
<input type="checkbox"/> 120028	情報処理入門Ⅰ (月1・金井 あおい)
<input type="checkbox"/> 120079	臨床心理学 (月3・山下 克実)
<input type="checkbox"/> 120102	物理実験 (水3 水4・石田 真悠子・赤坂 亮・井本 崇史)
<input type="checkbox"/> 120156	マクロ経済学 (水5・福土 碧海)
<input type="checkbox"/> 120269	環境論Ⅱ (木2・神保 ちえみ)

I : 授業を振り返ってみよう(1~5) 設問1. 積極的に授業に取り組みましたか。(必須) <input type="radio"/> 5 積極的に取り組んだ <input type="radio"/> 4 一部積極的に取り組んだ <input type="radio"/> 3 どちらともいえない <input type="radio"/> 2 単に出席したのみだった <input type="radio"/> 1 出席もあまりなかった 設問2. 授業の内容をどの程度理解できましたか。(必須) <input type="radio"/> 5 80%以上 <input type="radio"/> 4 60%以上 <input type="radio"/> 3 40%程度 <input type="radio"/> 2 20%程度 <input type="radio"/> 1 おおよそ10%以下 設問3. この授業により、あなたは成長したと感じますか。(必須) <input type="radio"/> 5 強くそう感じる <input type="radio"/> 4 そう感じる
--

「遠隔授業」について

遠隔授業の形態には、「ライブ配信型授業」「資料配信型授業」「動画配信型授業」などがあり、主に日本工大サポータルと Microsoft Teams を使用して行われます。履修する科目の授業形態については、担当教員から出される指示に従ってください。

以下に記載されている受講上の注意、事前の準備、受講方法等を確認した上で、遠隔授業を受講してください。

遠隔授業受講上の注意

- ◆教材や資料、授業の様子（映像）にも著作権があります。

権利者に無断で SNS 等に掲載することは著作権侵害にあたりますので、注意してください。

著作権法に違反すると、刑事罰が科せられる可能性があるとともに、民事訴訟の対象となることがあります。

また、大学としても不正行為とみなし、学則第 50 条に則り懲戒処分に処する場合があります。授業そのものが著作物となりますので、SNS 等への転載は絶対に行わないでください。

- ◆あなた自身、クラスメート、そして教員のプライバシー保護に十分配慮しましょう。

ライブ配信型の授業の際には、マイクとカメラを「切」（ミュート）の状態にしてから参加しましょう。

あなたの部屋の様子が参加者全員に見られ、聞こえてしまいます。

- ◆教材や資料、授業の様子（映像）およびそれらのアクセス方法を無断でネット上に公開したり、再配布してはいけません。ライブ配信型の授業の際には、アクセス方法（URL 等）が拡散すると、第三者によるいたずらや授業妨害が懸念されます。

遠隔授業受講の準備

遠隔授業では 日本工大サポータルの [クラスプロファイル] と Microsoft365 の [Teams] など を主に利用します。

日本工大サポータルで履修申告を行うことにより、授業における学修が開始します。

日本工大サポータルを用いる授業と [Teams] を用いる授業のいずれの場合も、日本工大サポータルを日々確認するよう心掛けてください。

「NIT ネットアカウント」の NIT ネット ID ならびにパスワード

日本工大サポータルや Microsoft 365 で用いる NIT ネット ID ならびにパスワードを、予めご確認ください。パスワードが不明な場合は、下記「学園ネットワークサポートデスク」までお問合せください。

学園ネットワークサポートデスク nitnet@nit.ac.jp

※ 本人確認のため「学生証」が必要です。

NIT ネットアカウントでは個人情報を取り扱いますので、本人確認をした上でパスワード変更等の問い合わせを受け付けます。お問合せ方法は、「窓口での対応」か「メールでの対応」となります。いずれの場合も「学生証」を提示する必要があります。

(※メールで問い合わせをする場合は、本人確認のため「学生証の写真」を必ず添付してください。)

Microsoft 365 へのサインイン

- 1 <https://portal.office.com> へアクセスします。
- 2 **【学籍番号】@stu.nit.ac.jp** を入力して [次へ] (基幹工学部、先進工学部、建築学部、博士前期・後期課程)
【学籍番号】@【学科略号】stu.nit.ac.jp を入力して [次へ] (工学部)
- 3 NIT ネットログイン画面へ移動します。NIT ネット ID (学籍番号) とパスワードを入力して [ログイン]



※二段階認証について

二段階認証とは、学内 Wi-Fi を利用せずに Microsoft365 にログインする際に、セキュリティ強化のために「NIT ネットアカウント」の NIT ネット ID とパスワードに加えて、一度限り有効な「ワンタイムパスワード」を認証することで、より安全にログイン出来る仕組みの事です。ワンタイムパスワードの設定においては、付与されている大学のメールアドレスではなく「個人で使用しているメールアドレス」を登録する必要があります。二段階認証の設定に関するお問合せも、上記の「学園ネットワークサポートデスク」にお願い致します。

デスクトップアプリのインストール

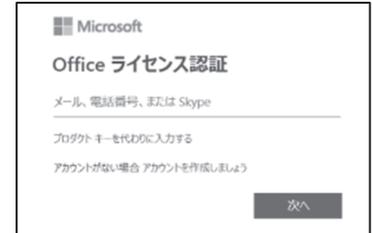
サインイン後の画面右上の [Office のインストール] → [Microsoft 365 アプリ] をクリックすると、Office アプリをインストールできます。遠隔授業で特に用いられる Word、Excel、PowerPoint、Teams は必ずインストールしてください。



初めてアプリを起動すると、ライセンス認証画面が表示されます。この画面では、本学の学生であることを認証します。右の画面が表示されたら、[続行] をクリックしてください。



Office ライセンス認証の画面が表示されメールアドレスの入力を求められますので、サインイン時と同様に「【学籍番号】@stu.nit.ac.jp」とパスワードを入力してください。



以下の画面が表示されたら、「組織がデバイスを管理できるようにする」のチェックを外して、[このアプリのみ] をクリックしてください。



ライセンス契約の契約書が表示されます。必ずよく読んだ上で、[同意する] をクリックしてください。認証後、アプリを開き [アカウント] で自分の氏名等が表示されていれば、認証が成功し、利用できる状態です。

遠隔授業を受講するために最低限必要な機材及び環境

①PC

大学において遠隔授業を受講する場合があります。ノート PC を持参する場合は、予め充電をしてください。

②ヘッドフォン

動画授業やライブ配信授業を受講する際に必要です。長時間使用しても耳が痛くならないものを選んでください。

③インターネット環境

スムーズに遠隔授業を受講するために安定したインターネット環境を用意してください。特にテストが実施される場合は、通信が遮断されてしまわないように、遠隔授業で用いる以外のデバイスの通信は一旦切断しましょう。

④イヤホンマイク

⑤Web カメラ (安価なものと 2000 円から購入できます)

※web カメラが内蔵されているノートパソコンも多いので、web カメラ購入前に確認しましょう

日本工大サポータルを利用して遠隔授業を受講する場合

※【ポータルサイト「日本工大サポータル」の利用方法について】と重複する部分があります

日本工大サポータルの主な機能

学籍情報を照会できます。
自分のクラスの確認も個人
情報から照会できます。

授業資料や課題提出など、授業
に関する情報はクラスプロファ
イルから参照します。

このスクリーンショットは、日本工大サポータルのメイン画面を示しています。上部には「個人情報」「時間割」「授業」「成績関連」「アンケート」「小テスト解答」のタブがあります。中央には「ポータル」「クラスプロファイル」「マイステップ」のサブメニューがあります。左側には2020年8月のカレンダーがあり、19日（水）が選択されています。右側には「お知らせ」の通知ボードがあり、いくつかの通知がリストアップされています。下部には「授業情報」セクションがあり、8月19日（水）の授業がないと表示されています。また、「授業連絡」の通知ボードも表示されています。

通知ボードには以下の通知があります：

- 博物館・美術館等とのパートナーシップについて 日本工業大学 [2020/06/11]
- 学修支援センターにおける相談業務、学習指導の開始について 学修支援センター [2020/06/08]
- 英語教育センターOPEN！ 英語教育センター [2020/06/04]
- 【就職支援】2020年度就職支援ガイダンス・スケジュールについて（5月7日時点） 就職支援課 [2020/05/07]
- 【重要】学部3年生・大学院1年生「就職支援ガイダンス」のスケジュール変更につ.. 就職支援課 [2020/04/20]

通知ボード下部には「全5件」と表示されています。

「授業連絡」通知ボードには以下の通知があります：

- 掲示板では、様々な連絡事項が発信されま
す。掲示の種類は以下の通りです。
- お知らせ
- 授業連絡
- 「遠隔授業」について
- 就職支援課からの連絡
- 呼び出し

クラスプロファイル

このスクリーンショットは、「クラスプロファイル」画面を示しています。上部には「個人情報」「時間割」「授業」「成績関連」「アンケート」のタブがあります。中央には「ポータル」「クラスプロファイル ①」「マイステップ」のサブメニューがあります。左側には曜日別のメニューがあり、②の曜日（金曜日）が選択されています。右側には「課題提出 Homework」「アンケート Questionnaire」「授業評価 Class Evaluation」「授業資料 Class Material」「WEBノート Notebook」「クラスフォーラム Class Forum」「シラバス照会 Syllabus」「小テスト解答 Test」などの機能ボタンが並んでいます。下部には「2020春学期」と「現学期」の表示があります。

履修登録をすると、クラスプロファイルが利用できるようになります。クラスプロファイルでは、課題提出や授業資料の取得、授業評価等のアンケートへの回答ができます。授業を選択することにより、各機能を利用できます。

① [クラスプロファイル] をクリックし、②の曜日・時限から履修申告した授業を選択した上で、各機能を使用してください。

なお、未提出の課題や未受験の小テストがある場合は、科目名の右に★が表示されます。

授業資料

主に資料配信型授業で使用されます。タイトルをクリックすると、授業資料が開きます。

授業資料グループ	授業実施日	タイトル	コメント	資料
全て対象	2017/10/16<月>	第3回講義資料・スライド		
	2017/10/02<月>	第2回講義資料・スライド		
	2017/09/25<月>	第1回講義資料・スライド		

課題提出

レポート等の課題提出をする場合は、課題名をクリックします。課題提出ページが開きますので、指示に従い課題を作成します。なお添付ファイルがある場合は「課題ダウンロード」が表示され、ZIPファイル(.zip)に圧縮されてダウンロードされます。

未提出の課題のみ表示する
 提出期間内の課題のみ表示する
 並び順 提出終了日順
検索

課題グループ	課題	提出期間
第2回レポート課題		2020/08/24 (月) 00:00~2020/08/24 (月) 17:00

課題

課題内容

第7回までの講義で扱ったテーマから2つ選択し、以下の要領でレポートを作成すること。

文字数：1,000字以上 2,000字未満
 ファイルの形式：PDFファイル
 提出締切：2020年8月24日（木）17:00まで

添付ファイルはありません

提出 (1回目)

コメント

※URLを指定する場合は {表示名称,URL} の形式で入力してください。
 提出するファイルを指定し、[追加]ボタンを押下してください。(最大10ファイルまで可)

添付 ファイルの選択 ファイルが選択されていません 追加

課題を終えたら、「参照」をクリックしてPCから提出するファイルを選択し、「追加」をするとアップロードされます。アップロード完了後、「提出」をクリックすると完了します。

課題を提出した日にち・時刻が正しく表示されているかを確認してください。表示されていれば、提出が完了できています。

未提出の課題のみ表示する
 提出期間内の課題のみ表示する
 並び順 提出終了日順
検索

課題グループ	課題	提出期間
第2回レポート課題		2020/08/24 (月) 00:00~2020/08/24 (月) 17:00
	1回目 提出 2020/08/24 (月) 12:56	

提出した課題に対して、教員からコメントがあると、提出した課題の右にメールマークが表示されます。

未提出の課題のみ表示する
 提出期間内の課題のみ表示する
 並び順 提出終了日順
検索

課題グループ	課題	提出期間
第2回レポート課題		2020/08/24 (月) 00:00~2020/08/24 (月) 17:00
	1回目 提出 2020/08/24 (月) 12:56	

評価

提出を受け付けましたが、内容に不備があるため再提出してください。
 教員コメント 修正する点は赤字で記しています。ファイルを返しますので、必ず確認すること。

添付ファイル

返信ファイル [返送] 120X999_第2回レポート.docx

遠隔授業について

小テスト

授業で小テストを実施する場合は、[クラスプロフィール] > [小テスト解答] から受験できます。

第3回小テスト

制限時間 20分 0秒

開始

第3回目の小テストです。シラバスに記載の通り、成績評価に大きく影響する重要なテストですので、必ず期限内に受験してください。回答の制限時間は20分間です。

準備が整ったら受験を開始してください。

第3回小テスト

残り時間 20分 0秒

提出

問1

【問1】
ベトナム戦争について、「代理戦争」という単語を用いて400字以内で述べてください。

後で確認する

テストの結果は、[クラスプロフィール] > [小テスト解答] > [実施済] から確認できます。(テスト結果が公開される場合に限る)

未実施(0)	実施中(0)	実施済(1)
テストタイトル	実施回数	最新実施日
第3回小テスト	1	2020/08/24 (月) 13:15

Teams を利用して遠隔授業を受講する場合

アプリのインストール

Teams は Web ブラウザでも使用できますが、アプリをインストールすると便利です。アプリには PC 版とスマートフォン版がありますが、**遠隔授業の受講は PC 版を推奨します。**

Teams のアプリは、[Microsoft 公式サイト](#)からダウンロードしてください。



授業チームの申請

Teams による授業を受講するには、「授業チーム」への申請が必要です。申請を行わないと、授業を受けることが出来ませんので、履修申告をした授業については必ず申請を行うようにして下さい。

Teams の主な機能

The screenshot shows the Microsoft Teams interface with several callout boxes highlighting specific features:

- 他の授業チームへはここからアクセスします**: Points to the 'すべてのチーム' (All Teams) list in the left sidebar.
- 授業資料や課題へはここからアクセスします**: Points to the '投稿' (Posts) tab in the top navigation bar.
- 授業により、チャンネルごとに用途を分けている場合があります。**: Points to the '質問用チャンネル' (Question Channel) in the channel list.
- 課題がある場合はここからアクセスします。**: Points to the '投稿' (Posts) tab in the top navigation bar.
- 投稿は授業チーム内の人が参照できます。文章は Shift + Enter で改行できます。**: Points to the text input area at the bottom of the screen.

The main content area displays two posts from a channel named '52****: 日本近現代史論'. The first post is titled '「日本近現代史論」第1回 (ペリー来航～日米和親条約締結まで)' and includes a list of resources: 講義動画 (約30分), 演習課題 (Wordファイル), and スライド資料 (パワーポイントファイル, 約30MB). The second post is titled '「日本近現代史論」第2回 (開国～公武合体政策まで)' and lists 講義資料, 演習課題, and スライド資料. Below the posts is a text input field for starting a conversation.

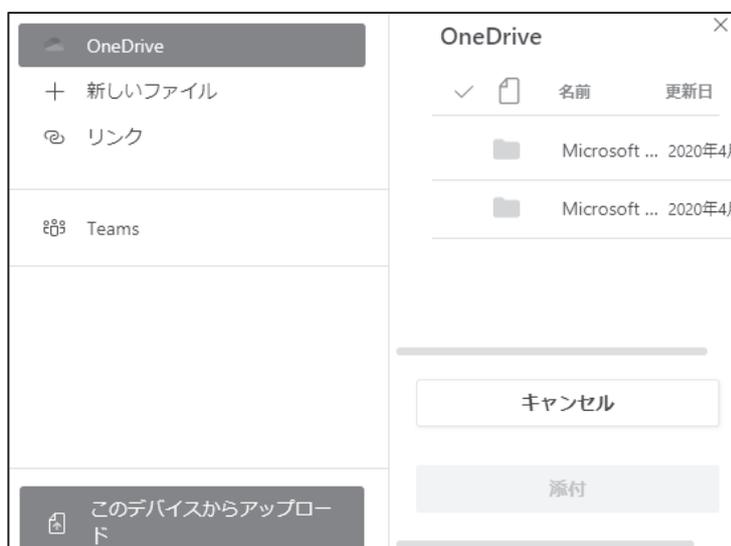
課題提出の方法

※ 授業で別に課題提出の方法が定められている場合は、その指示に従ってください

Teams の左のメニュー  をクリックし、授業を選んで [次へ] をクリックしてください。[割り当て済み] に、これから取り組む課題が表示され、課題名をクリックすると提出画面になります。



課題画面の [自分の作業] > [作業の追加] から、作成した課題ファイルを提出します。自分の PC で作成したファイルをアップロードする場合は、[このデバイスからアップロード] を選んでください。



「自分の作業」にアップロードしたファイルが表示されていることを確認したら、右上の「提出」をクリックすると完了します。



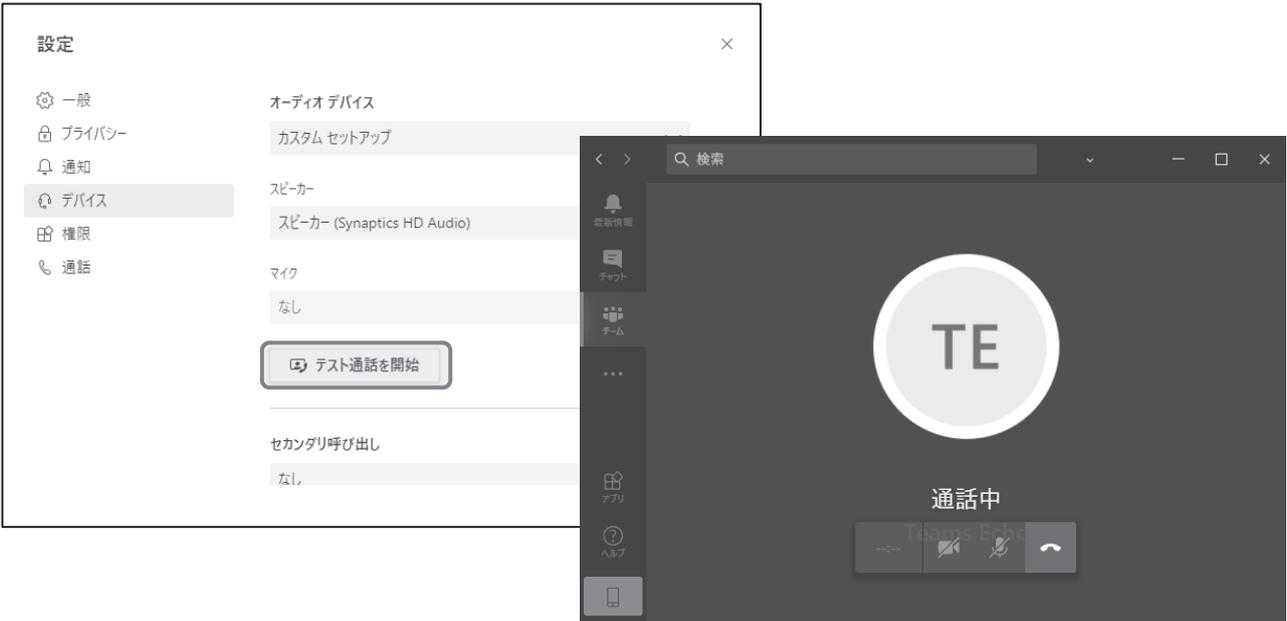
ライブ配信型授業に向けたテスト通話

ライブ配信型授業ではPCのマイクとカメラを使い、教員と学生や学生同士での対話をする場合があります。Teamsの会議機能を用いてライブ配信授業を実施するため、予めライブ配信型授業に向けた**テスト通話**を行ってください。

Teamsの画面右上の自分のアイコン > 「設定」では、Teamsの表示や通知などに関する様々な設定が行えます。



「設定」左側のメニューから「デバイス」を選び、「テスト通話を開始」をクリックするとテスト通話画面に切り替わり、スピーカー、マイク、カメラ、インターネット通信の4項目が確認できます。



遠隔授業について

大学推奨のノート PC ではマイクやカメラは標準搭載されていますが、必要に応じて外部接続デバイスを揃えてください。(P. 23 の「遠隔授業を受講するために最低限必要な機材及び環境」を参照のこと)



その他（遠隔授業で使用できる便利なツール）

Microsoft Office Lens

遠隔授業では、ノートや課題を写真に撮影して提出する場合があります。**Microsoft Office Lens** を用いると、写真の傾きを補正し、写真をスマートフォンから Microsoft 365 の OneDrive へ簡単に転送することができます。また、写真を PDF ファイルに変換することも可能です。



ZIP ファイルの展開・作成

複数のファイルをまとめて送受信する際に使われるのが ZIP ファイルです。遠隔授業では、様々な場面で ZIP ファイルが用いられます。



①ZIP ファイルを開く

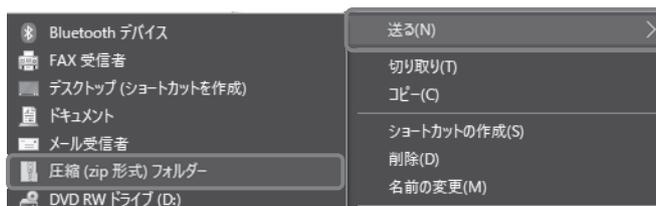
一般的なフォルダーを開く場合と同様に、アイコンをダブルクリックすると開けます。

ZIP ファイルが開けない場合は、ファイルを右クリック → プロパティ → プログラムを [変更(C)...] → エクスプローラーを選択してください。



②ZIP ファイルを作成する

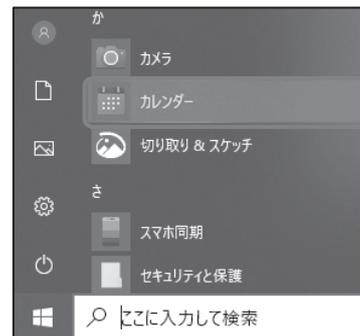
ファイルをフォルダーへ入れ、ZIP ファイルにするフォルダーを右クリック → 送る(N) → 圧縮(zip 形式)フォルダー で ZIP ファイルが作成できます。



カレンダーの活用

授業のスケジュールや課題の期日等を管理するためには、カレンダーの活用が便利です。Windows10 のカレンダーでは、Microsoft365 や他のアカウントと共有することができ、アラーム設定をすると事前に PC やスマートフォンにスケジュールの通知が表示されます。

カレンダーへは左下のスタートメニュー  からアクセスします。



カレンダーの初回起動時にアカウント設定画面が表示されます。Microsoft365 などのアカウントと連携させる場合は、[+ アカウントの追加] から設定を行ってください。



スケジュールを登録させたい日にちと時刻をクリックすると、登録画面が表示されます。ここでは 17:00 から「流通経済学」のテストが実施されることを想定し、そのアラーム通知を 15 分前に表示される設定としています。

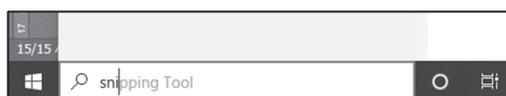


[保存] をクリックすると、スケジュールの登録が完了します。アラームの設定をしている場合、PC では画面右下に通知が表示されます。



スクリーンショット

Windows10 でスクリーンショットを撮る場合は、Snipping Tool  使います。スタートメニューに見当たらない場合は、画面左下の検索バーで検索してください。



[新規作成(N)] をクリックするとスクリーンショットの撮影モードになり、撮影部分を選択してクリックすると撮影されます。



博士前期課程

博士前期課程各専攻の概要と教授陣

環境共生システム学専攻

目的・目標

21世紀の産業では、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みが進み、それを担う技術は、より一層、環境や社会への責任を果たすものでなければなりません。環境共生システム学専攻では、環境と社会の高い次元での共生を目指し、応用化学とバイオテクノロジーをベースにした「物質デザイン」、「材料・環境科学」、「生物工学」の3つの専門領域を中心に、教育研究活動を展開し、専門知識の融合力、新規技術の創造力をもつ研究者・技術者を養成します。

アドミッションポリシー

環境共生システム学専攻は、「物質デザイン」「材料・環境科学」「生物工学」の3つの専門領域に高い関心と興味を持ち、既存の専門分野の枠組みを越えて、新しい技術やシステムの創出に挑戦し、技術開発の最前線で活躍できる研究者・技術者を目指す諸君を受け入れます。

カリキュラムポリシー

環境共生システム学専攻では、新たな物質をデザインし、地球環境の保全や人類の繁栄に役立つ実用的なデバイスへと応用する「物質デザイン」、環境・エネルギーという観点から材料／資源を包括的に捉え、技術革新に繋がる研究を目指す「材料・環境科学」、生き物のもつ素晴らしい能力や機能を解明し、実社会で役立つ新技術へと応用する「生物工学」の3つの分野を中心に、カリキュラムを整備しています。

- （1）専門分野の基礎的素養を身につけるため、「物質デザイン系」「材料・環境科学系」「生物工学系」の3つの科目区分の専門講義科目を用意しています。
- （2）関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論1・2」を配置しています。
- （3）「特別演習」「特別研究」において1年次から本格的な研究に取り組み、学位論文を執筆します。

ディプロマポリシー

環境共生システム学専攻では、所定の修了要件を満たすことで下記の能力と資質を備えたものと認め、修士（工学）を授与します。

【専門力】

- （1）環境と社会の共生を根幹においた実践的な技術力を身につけ、持続可能な開発につながる課題発見をすることができる。
- （2）応用化学とバイオテクノロジーの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な研究・開発等を遂行できる。

【人間力】

- （1）科学や技術のもつ環境・社会への責任を自覚した考え方に基づいた自律的・持続的な行動ができる。
- （2）自らの考えを主張しながらも他者の意見を柔軟に取り入れ、対立ではなく協調を目指した議論を深めることができる。

教 授	工学博士	八木田 浩 史	「エネルギー・環境システム特論」ほか
教 授	博士(工学)	伴 雅 人	「バイオマテリアル特論」ほか
教 授	博士(工学)	大 澤 正 久	「量子化学特論」ほか
教 授	博士(理学)	佐 野 健 一	「ナノ・バイオシステム特論」ほか
教 授	博士(工学)	内 田 祐 一	「材料循環工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	白 木 将	「表面物理特論」ほか
教 授	博士(工学)	新 倉 謙 一	「分子組織化学特論」ほか
教 授	博士(工学)	池 添 泰 弘	「物理化学特論」ほか
教 授	博士(工学)	飯 塚 完 司	「電子・光材料学特論」ほか
教 授	博士(理学)	芳 賀 健	「植物分子機能学特論 I」ほか
准 教 授	博士(工学)	小 池 隆 司	「分子触媒化学特論」ほか
教 授	工学博士	辻 村 泰 寛	「English Skill Upgrading Program」ほか
教 授	博士(理学)	衛 藤 和 文	「応用数学特論 1」ほか

機械システム工学専攻

目的・目標

機械システム工学専攻では、「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」など、ものづくりに必要な分野の技術を基軸として、急速に発展する科学技術に対応する力および優れた技術開発を推進できる能力を身につけます。当該専攻に関連する学術研究と専門科目の修得を通して、多様化する社会的要請に柔軟に対応できる専門知識と実践力を備えた開発技術者および研究者を養成します。

アドミッションポリシー

機械システム工学専攻では、多様化する社会の要請に柔軟に対応する、高度な専門能力と実践力を備えた技術者・研究者を養成します。そのための基礎的学力を有し、ものづくりに対するあつい情熱と意欲にあふれた学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

機械システム工学専攻は、ものづくりに必要な各分野の技術を修得し、プロジェクトリーダーとして活躍できる技術者・研究者の養成を目標に、専門知識の獲得と実践力の養成に重点をおいたカリキュラムを編成しています。

- (1) 1年次では、ものづくりに必要な専門分野（「加工学・生産工学」、「エネルギー変換工学・計測制御工学」、「メカトロニクス・ロボット工学」）を、体系的に学び、多分野にまたがる高度な専門知識を修得します。
- (2) 1年次の「機械システム工学セミナー」では、研究を遂行するための基礎的なスキルを身につけるとともに、2年次の「特別研究」では、修士論文に取り組み、これを発表する一連の過程において、分析能力、問題解決能力および発表能力を養成します。
- (3) 最新鋭の設備を備えた機械実工学教育センターでの研究装置の製作、あるいは先端材料技術研究センターでの材料分析により、実践的研究開発能力を養成します。

ディプロマポリシー

機械システム工学専攻では、所定の必修科目および選択科目の履修を通じて、次にあげる能力を修得することで修士（工学）を授与します。

【専門力】

下記のいずれかを柱とする実践的技術力を身に付け、広い視野から課題を解決できる。

- (1) 加工学、生産工学など、次世代のものづくりで必要とされる機械の設計・計測・制御、材料評価方法および各種データの処理手法などの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。
- (2) エネルギー変換および計測・制御技術など、環境に調和した省エネ技術や環境保全技術に必要なエネルギー変換、分析評価、制御、センシング、精密測定、データマイニングなどの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。
- (3) ロボット工学など、人間生活や社会を豊かにする人型や医療などの各種ロボットに利用される機械要素、機構設計・製作、機械制御、各種センサによる計測技術などの深い知識と技能に基づき、新しい価値を創出する独創的な調査・研究・開発等を遂行できる。

【人間力】

- (1) 高い倫理観を持ち、何事も自律的にやり抜くことができる。
- (2) 論理的に考えて他者を理解し議論を深めることができる。

教 授	博士(工学)	古 閑 伸 裕	「塑性加工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	渡 部 修 一	「新素材プロセス特論」ほか
教 授	博士(工学)	竹 内 貞 雄	「機械材料学特論」ほか
教 授	博士(工学)	丹 澤 祥 晃	「自然エネルギー特論」ほか
教 授	博士(工学)	村 田 泰 彦	「成形加工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	中 里 裕 一	「メカトロニクス特論」ほか
教 授	博士(工学)	神 雅 彦	「機械加工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	中 野 道 王	「燃焼工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	張 暁 友	「制御工学特論」ほか
教 授	博士(工学)	安 原 鋭 幸	「機能性材料特論」ほか
教 授	Dr. Eng	鈴 木 宏 典	「数理モデリング特論」ほか
教 授	博士(工学)	二ノ宮 進 一	「生産工学特論」ほか

教 授	博士(工学)	樋 口 勝	「ロボット機構学特論」ほか
教 授	博士(工学)	浦 川 禎 之	「実用デジタル制御特論」ほか
教 授	博士(工学)	宮 川 豊 美	「ロボットシステム特論」ほか
教 授	博士(工学)	瀧 澤 英 男	「固体力学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	櫛 橋 康 博	「機能ロボティクス特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	田 村 仁	「ロボットビジョン特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	秋 元 俊 成	「医用工学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	桑 原 拓 也	「流体工学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	石 川 貴一朗	「計測工学特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	加 藤 史 仁	「微細デバイス技術特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	小 崎 美 勇	「光テクノロジー特論」ほか
教 授	工学博士	辻 村 泰 寛	「English Skill Upgrading Program」
教 授	博士(理学)	衛 藤 和 文	「応用数学特論1」ほか

電子情報メディア工学専攻

目的・目標

電子情報メディア工学専攻は、電気工学、電子工学、およびデータサイエンスを含む情報メディア工学に関連する技術が、互いに関連しながら発展してきたことを踏まえ、ハードウェアとソフトウェアの両面の知識・技術をもつ、実践的開発技術者と創造的研究者を養成します。

またこれらの学問分野が、たがいに融合した新たな専門領域である「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」を3本の柱として教育・研究活動を展開します。

アドミッションポリシー

電子情報メディア工学専攻は、「エレクトロニクス」「情報通信技術」および、データサイエンスを含む「マルチメディア」の3つの専門領域に高い関心と興味をもち、その専門領域だけに留まることなく、急速な技術の進歩にも臆することなく挑戦する意欲ある学生を受け入れます。

カリキュラムポリシー

電子情報メディア工学専攻に関する基礎的素養を、ひとつの専門領域にとらわれることなく、関連した境界領域的な科目も学べるように配慮し、各専門領域の講義科目を「エレクトロニクス」「情報通信技術」「マルチメディア」の3つに分類しています。さらに各専門領域に共通する基本技術、基礎技能、課題発見能力、問題解決能力を身につけ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を育むことを目的に、1年次に必修の演習科目である「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」を設けています。これら演習科目を通じて、知識の有機的な融合と、応用力を養成します。「特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、各自の研究を進め、修士論文を作成します。また、関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論1・2」を1年次春学期と秋学期に配置しています。

ディプロマポリシー

電子情報メディア工学専攻は、ハードウェアとソフトウェアの両面の知識・技術を持ち、世界の技術革新をリードできる専門力と人間力を備えた、実践的開発技術者と創造的研究者を養成します。そこで、授業科目の履修、セミナーへの取り組み、および研究の遂行により、学生が以下の能力を習得したことをもって修士（工学）を授与します。

【専門力】

- (1) 本専攻の柱となる「エレクトロニクス」「情報通信技術」および、データサイエンスを含む「マルチメディア」の3つの専門領域に沿って授業科目を履修し、基礎力と先端的専門力を習得することで、新しい価値を創出する独創的な研究・開発とそのための調査等を遂行できる。
- (2) 1年次に「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」のいずれかを履修し、社会において活用できる実践的な技術力を身につけることで、幅広い視野から課題発見・解決につなげることができる。

【人間力】

- (1) 「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」の

何れかの履修によって、技術者・研究者として高い倫理観をもった自律的な思考で行動することができる。

- (2) 社会・産業の基盤となる電気電子技術、および、それらに立脚して、社会と暮らしへのコンピュータの応用を目指す情報通信と情報メディア技術について、指導教員の下で「特別研究」に取り組み、論理的思考とコミュニケーション能力を身に着けることで、研究開発の成果を論理的に説明し、他者の意見を理解したうえで議論を深めることができる。

教授	工学博士	石川 豊	「先端マテリアル特論」ほか
教授	博士(工学)	青柳 稔	「電子物性特論」ほか
教授	博士(工学)	宇賀神 守	「アナログ集積回路特論」ほか
教授	工学博士	辻村 泰寛	「情報システム信頼性特論」ほか
教授	博士(工学)	山地 秀美	「進化システム特論」ほか
教授	博士(理学)	吉野 秀明	「情報ネットワーク工学特論」ほか
教授	博士(工学)	吉田 清	「電気電子計測特論」ほか
教授	博士(情報理工学)	佐藤 進也	「情報検索特論」ほか
教授	博士(学術)	生駒 哲一	「ソフトコンピューティング特論」ほか
教授	博士(工学)	上野 貴博	「電気機器制御特論」ほか
教授	博士(情報学)	平栗 健史	「マルチメディア通信特論」ほか
教授	博士(工学)	高瀬 浩史	「無線通信システム工学特論」ほか
教授		石原 次郎	「写真メディア特論」ほか
教授	博士(情報科学)	新井 啓之	「画像認識特論」ほか
教授	博士(工学)	糸野 文洋	「クラウドコンピューティング特論」ほか
教授	博士(工学)	勝間田 仁	「グループウェア特論」ほか
教授	博士(工学)	竹村 暢康	「電磁波工学特論」ほか
教授	博士(工学)	荒川 俊也	「生体情報処理特論」ほか
教授	博士(工学)	呉本 堯	「脳型情報処理特論」ほか
教授	博士(工学)	大宮 望	「ビジネスプロセス特論」ほか
准教授	Ph.D.	神林 靖	「プログラム意味解析特論」ほか
准教授	博士(工学)	松田 洋	「教育工学特論」ほか
准教授	博士(工学)	中村 一博	「論理回路特論」ほか
准教授	博士(工学)	木許 雅則	「適応信号処理特論」ほか
准教授	博士(工学)	木村 貴幸	「自律分散システム特論」ほか
准教授	博士(工学)	橋浦 弘明	「ソフトウェア設計特論」ほか
准教授	博士(工学)	松浦 隆文	「数理最適化特論」ほか
准教授	博士(工学)	伊藤 暢彦	「移動体通信システム特論」ほか
准教授	博士(先端科学技術)	高津 洋貴	「感性情報処理特論」ほか
教授	博士(理学)	衛藤 和文	「応用数学特論1」ほか

建築デザイン学専攻

目的・目標

建築デザイン学専攻は、建築をさまざまな視点から捉え、よりよい建築空間、生活環境ならびに地域環境を、次世代に伝達することのできる建築家、建築技術者および研究者を養成します。この目的を達成するため、実践的教育プログラムを整備するとともに、各学問分野の科目を幅広く提供します。

アドミッションポリシー

建築デザイン学専攻が求める入学者は、本専攻が掲げる教育方針に共感し、幅広い建築的能力と創造性を備えようと志す意欲にあふれた人です。このため、建築における実践的な学びに対する意欲や行動力を重視します。

カリキュラムポリシー

本専攻が対象とする専門領域は、以下の4領域です。「設計・計画」：空間デザインの視点で建築からインテリア・家具までの設計とその基礎になる研究、あるいはライフスタイルや地域計画の視点でまちづくりに関する研究や実践的活動に取り

組みます。「歴史」：住宅、都市、さらに文化環境の視点から、建築史学およびそれらに基づく保存・再生や復原設計に関する研究やプロジェクトに取り組みます。「構造・材料」：構造力学および構造デザインの視点から、建築物の構造や架構法、ディテール等の技術を研究し、また建築材料の視点から、建築部位や家具の材料性能について研究します。「環境・設備」：環境負荷削減・快適空間創出の視点から、建築・地域および都市の光・水・空気・温熱環境や設備システムについて研究します。

- (1) 1年次に専門の講義科目を数多く設けています。
- (2) 1年次に演習科目「プロジェクト演習」を設け、建築分野における「協働」について、ワークショップ形式をとおして実践的にプロジェクトを推進します。空間の提案や設計などを実現する過程で必要となる調査情報の共有や議論、合意形成、検証の技術を身に付けます。
- (3) 一級建築士の受験資格に係る大学院での実務経験のために「インターンシップ科目」を設けています。具体的な建築の設計やプロジェクト等の課題を継続的に体験し、設計および工事監理の実務的な能力を培います。
- (4) 関連分野に関する基礎的素養の涵養に配慮し、共通科目として「English Literacy in Technology and Engineering」「English Skill Upgrading Program」「応用数学特論」を1年次に配置しています。
- (5) 「特別研究」「特別研究（修士設計）」において、入学時から指導教員の下で研究・設計に取り組み、修士論文あるいは修士設計を完成させ、発表します。

ディプロマポリシー

本専攻は、以下のような能力を身につけ、必要な授業科目、演習科目および「特別研究」を修得した学生に「修士（工学）」の学位を授与します。

【専門力】

- (1) 知識と技術に裏打ちされた状況把握能力、発想力、構想力、判断力などの柔軟な思考力を発揮できる。
- (2) 特定分野の深い知識と研究力、課題設定・問題解決・立案実行能力、総合的かつ実践的な建築デザイン力を活用できる。

【人間力】

- (1) 建築に携わる技術者・研究者として、よりよい環境の継承を志し、その実現のために自律的・持続的に行動できる。
- (2) さまざまな分野や文化への想像力を以て、他者の立場や多様な価値観を尊重しつつ、誠実かつ真摯に議論できる。

教 授	工学博士	黒 津 高 行	「建築表現の手法」ほか
教 授	博士(工学)	小 川 次 郎	「都市建築の設計」ほか
教 授	博士(工学)	足 立 真	「建築空間の構成システム」ほか
教 授	博士(工学)	三 坂 育 正	「都市環境設計論」ほか
教 授	博士(工学)	那 須 秀 行	「木質構造設計論」ほか
教 授	博士(工学)	西 本 真 一	「組積造建築技術史特論」ほか
教 授	博士(工学)	佐々木 誠	「集合住宅計画論」ほか
教 授	博士(工学)	野 口 祐 子	「福祉生活環境論」ほか
教 授	博士(工学)	吉 野 一	「建築空気環境特論」ほか
教 授	博士(工学)	安 野 彰	「近代の都市と建築」ほか
教 授	博士(工学)	木 下 芳 郎	「施設利用行動モデル論」ほか
教 授	博士(工学)	樋 口 佳 樹	「住まい環境設計論」ほか
准 教 授	博士(工学)	勝 木 祐 仁	「生活環境形成論」ほか
准 教 授	博士(工学)	吉 村 英 孝	「公共空間の設計」ほか
准 教 授	博士(工学)	徐 華	「空間認知論」ほか
准 教 授	博士(工学)	工 藤 瑠 美	「建築材料と人間工学」ほか
准 教 授	博士(工学)	箕 輪 健 一	「シェル構造設計論」ほか
准 教 授	博士(工学)	伊 藤 大 輔	「建築光環境特論」ほか
准 教 授	博士(工学)	竹 内 宏 俊	「建築の形態とスケール」ほか
助 教	博士(工学)	田 中 章 夫	「耐久性診断特論」ほか
教 授	工学博士	辻 村 泰 寛	「English Skill Upgrading Program」
教 授	博士(理学)	衛 藤 和 文	「応用数学特論1」ほか

博士前期課程専攻別授業科目および単位数

環境共生システム学専攻

学科目 区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
物質 デザイン	バイオマテリアル特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 伴 雅人
	メディカルエンジニアリング特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 伴 雅人
	量子化学特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 大澤 正久
	光化学特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 大澤 正久
	物理化学特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 池添 泰弘
	物理化学演習	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 池添 泰弘
	分子触媒化学特論Ⅰ	2	◎			2			准教授 博士(工学) 小池 隆司
	分子触媒化学特論Ⅱ	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 小池 隆司
材料・ 環境科学	エネルギー・環境システム特論	2	◎	○	2				教授 工学博士 八木田浩史
	環境学特論	2	◎	○		2			教授 工学博士 八木田浩史
	材料循環工学特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 内田 祐一
	材料循環工学演習	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 内田 祐一
	電子・光材料学特論	2	◎			2			教授 博士(工学) 飯塚 完司
	電子・光材料学演習	2	◎			2			教授 博士(工学) 飯塚 完司
	表面物理特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 白木 将
	表面分析特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 白木 将
生物工 学	ナノ・バイオシステム特論	2	◎		2				教授 博士(理学) 佐野 健一
	ナノ・バイオシステム演習	2	◎		2				教授 博士(理学) 佐野 健一
	分子組織化学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 新倉 謙一
	ナノ材料機能特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 新倉 謙一
	植物分子機能学特論Ⅰ	2	◎	○	2				教授 博士(理学) 芳賀 健
	植物分子機能学特論Ⅱ	2	◎	○		2			教授 博士(理学) 芳賀 健
生物資 源工学	タンパク質工学特論	2				2			【休講】
	資源循環プロセス工学特論	2			2				【休講】
	材料熱力学特論	2				2			【休講】
	材料電磁気学特論	2				2			【休講】
	電子材料学特論	2				2			【休講】
機械エ ネルギー システ ム	環境熱工学特論	2			2				【休講】
	自然エネルギー特論	2				2			【休講】
	交通現象解析特論	2			2				【休講】
	交通工学特論	2				2			【休講】
	機能性材料特論	2			2				【休講】
	材料プロセス工学特論	2				2			【休講】
	機能性流体工学特論	2			2				【休講】
	応用数理工学特論	2				2			【休講】
新素材プロセス特論	2				2			【休講】	
演習科 目	特別演習Ⅰ	2	◎	◎	2				八木田浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、 大澤 正久、内田 祐一、白木 将、新倉 謙一、 飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司
	特別演習Ⅱ	2	◎	◎		2			
研究科 目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		八木田浩史、伴 雅人、佐野 健一、池添 泰弘、 大澤 正久、内田 祐一、白木 将、新倉 謙一、 飯塚 完司、芳賀 健、小池 隆司
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		
共通科 目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論1	2	○		2				教授 博士(理学) 衛藤 和文
	応用数学特論2	2	○			2			教授 博士(理学) 衛藤 和文

《修了要件》

「特別演習Ⅰ・Ⅱ」(4単位)と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」(8単位)を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外に授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目(演習、特別研究を除く)は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

機械システム工学専攻

学科目 区分	授業科目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専 門 力	人 間 力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
生産工学 加工学	塑性加工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 古閑 伸裕
	機械材料学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 竹内 貞雄
	成形加工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 村田 泰彦
	生産工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 二ノ宮進一
	機能性材料特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 安原 鋭幸
	機械加工学特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 神 雅彦
	固体力学特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 瀧澤 英男
	新素材プロセス特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 渡部 修一
エネルギー変換工学 計測制御工学	自然エネルギー特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 丹澤 祥晃
	燃焼工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 中野 道王
	制御工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 張 暁友
	流体工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 桑原 拓也
	計測工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 石川貴一郎
	光テクノロジー特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 小崎 美勇
	環境熱工学特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 丹澤 祥晃
	応用数理工学特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 桑原 拓也
	微細デバイス技術特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 加藤 史仁
メカトロニクス ロボット工学	ロボット機構学特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 樋口 勝
	実用デジタル制御特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 浦川 禎之
	機能ロボティクス特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 榎橋 康博
	人間ロボット共生特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 中里 裕一
	数理モデリング特論	2	◎	○		2			教授 Dr. Eng. 鈴木 宏典
	ロボットシステム特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 宮川 豊美
	ロボットビジョン特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 田村 仁
	医用工学特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 秋元 俊成
演習科目	機械システム工学セミナーⅠ	2	◎	◎	2				古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、 神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、 瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、 樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、 桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、 榎橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
	機械システム工学セミナーⅡ	2	◎	◎		2			桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、 榎橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		古閑 伸裕、竹内 貞雄、村田 泰彦、丹澤 祥晃、 神 雅彦、中野 道王、張 暁友、二ノ宮進一、 瀧澤 英男、渡部 修一、中里 裕一、鈴木 宏典、 樋口 勝、安原 鋭幸、浦川 禎之、宮川 豊美、 桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、 榎橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		桑原 拓也、石川貴一郎、加藤 史仁、小崎 美勇、 榎橋 康博、田村 仁、秋元 俊成
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論1	2	○		2				教授 博士(理学) 衛藤 和文
	応用数学特論2	2	○			2			教授 博士(理学) 衛藤 和文
休講	CAD/CAM工学特論	2				2			【休講】
	マイクロ加工学特論	2				2			【休講】
	電子材料学特論	2				2			【休講】

博士前期課程

《修了要件》

「機械システム工学セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)と「特別研究Ⅰ・Ⅱ」(8単位)を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目(演習、特別研究を除く)は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

電子情報メディア工学専攻

学科目 区分	授業科目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員	
			専門力	人間力	1 年		2 年			
					春	秋	春	秋		
エレクトロニクス	先端マテリアル特論	2	◎		2				教授 工学博士 石川 豊	
	デバイスプロセス特論	2	◎		2	2			教授 工学博士 石川 豊	
	電子物性特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 青柳 稔	
	半導体物性特論	2	◎		2	2			教授 博士(工学) 青柳 稔	
	電子制御工学特論	2			2				【休講】	
	情報制御システム特論	2			2				【休講】	
	アナログ集積回路特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 宇賀神 守	
	アナログ集積回路応用特論	2	◎		2	2			教授 博士(工学) 宇賀神 守	
	電気電子計測特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 吉田 清	
	電気接点特論	2	◎		2	2			教授 博士(工学) 吉田 清	
	電気機器制御特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 吉田 清	
	電気エネルギー工学特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 上野 貴博	
	適応信号処理特論	2	◎		2				准教授 博士(工学) 木許 雅則	
	ビジネスプロセス特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 大宮 望	
	経営情報システム特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 大宮 望	
ソフトウェア設計特論	2	◎		2				准教授 博士(工学) 橋浦 弘明		
数理最適化特論	2	◎		2	2			准教授 博士(工学) 松浦 隆文		
情報通信技術	情報システム信頼性特論	2	◎	○	2				教授 工学博士 辻村 泰寛	
	計算知能工学特論	2	◎		2				教授 工学博士 辻村 泰寛	
	情報ネットワーク工学特論	2	◎	○	2				教授 博士(理学) 吉野 秀明	
	情報システム性能評価特論	2	◎	○	2	2			教授 博士(理学) 吉野 秀明	
	ソフトコンピューティング特論	2	◎		2				教授 博士(学術) 生駒 哲一	
	最適フィルタ状態推定特論	2	◎		2	2			教授 博士(学術) 生駒 哲一	
	プログラム意味解析特論	2	◎	○	2				准教授 Ph.D 神林 靖	
	エージェント技術特論	2	◎	○	2				准教授 Ph.D 神林 靖	
	クラウドコンピューティング特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 糸野 文洋	
	高信頼ソフトウェア開発特論	2	◎	○	2	2			教授 博士(工学) 糸野 文洋	
	無線通信システム工学特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 高瀬 浩史	
	ユビキタスネットワーク特論	2	◎		2	2			教授 博士(工学) 高瀬 浩史	
	論理回路特論	2	◎		2	2			准教授 博士(工学) 中村 博一	
	グループウェア特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 勝間田 仁	
	電磁波工学特論	2	◎		2				教授 博士(工学) 竹村 暢彦	
移動体通信システム特論	2	◎		2	2			准教授 博士(工学) 伊藤 洋貴		
感性情報処理特論	2	◎	○	2	2			准教授 博士(先端科学技術) 高津 洋貴		
マルチメディア	進化システム特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 山地 秀美	
	コンピュータビジョン特論	2	◎	○	2	2			教授 博士(工学) 山地 秀美	
	マルチメディア通信特論	2	◎	○	2				教授 博士(情報学) 平栗 健史	
	アンテナ工学特論	2	◎		2	2			教授 博士(情報学) 平栗 健史	
	教育工学特論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 松田 洋	
	写真メディア特論	2	◎		2				教授 博士 石原 次郎	
	情報検索特論	2	◎		2				教授 博士(情報理工学) 佐藤 進也	
	Web情報処理特論	2	◎		2	2			教授 博士(情報理工学) 佐藤 進也	
	画像認識特論	2	◎	○	2				教授 博士(情報科学) 新井 啓之	
	映像メディア解析特論	2	◎	○	2	2			教授 博士(情報科学) 新井 啓之	
	自律分散システム特論	2	◎	○	2	2			准教授 博士(工学) 木村 貴幸	
	生体情報処理特論	2	◎	○	2				教授 博士(学術) 荒川 俊也	
	統計的データ解析特論	2	◎		2	2			教授 博士(学術) 荒川 俊也	
	脳型情報処理特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 呉本 堯	
	ヒューマンマシンインタラクション特論	2	◎	○	2	2			教授 博士(工学) 呉本 堯	
演習科目	次世代デバイス応用セミナーⅠ	2	◎	◎	2				石川 豊、青柳 稔、上野 貴博、新井 啓之、 神林 靖、吉田 清、糸野 文洋、木村 貴幸、 松浦 隆文	
	次世代デバイス応用セミナーⅡ	2	◎	◎	2				辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、生駒 哲一、 勝間田 仁、竹村 暢彦、木許 雅則、橋浦 弘明、 伊藤 暢彦、高津 洋貴	
	次世代情報技術セミナーⅠ	2	◎	◎	2				辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、生駒 哲一、 勝間田 仁、竹村 暢彦、木許 雅則、橋浦 弘明、 伊藤 暢彦、高津 洋貴	
	次世代情報技術セミナーⅡ	2	◎	◎	2				辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、生駒 哲一、 勝間田 仁、竹村 暢彦、木許 雅則、橋浦 弘明、 伊藤 暢彦、高津 洋貴	
	次世代メディア開発セミナーⅠ	2	◎	◎	2				山地 秀美、高瀬 浩史、平栗 健史、松田 洋、 中村 博一、佐藤 進也、石原 次郎、大宮 望、 荒川 俊也、呉本 堯	
	次世代メディア開発セミナーⅡ	2	◎	◎	2				山地 秀美、高瀬 浩史、平栗 健史、松田 洋、 中村 博一、佐藤 進也、石原 次郎、大宮 望、 荒川 俊也、呉本 堯	
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎		12			石川 豊、辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、 生駒 哲一、上野 貴博、新井 啓之、 竹村 暢彦、勝間田 仁、竹村 暢彦、 伊藤 暢彦、高津 洋貴、木村 貴幸、 荒川 俊也、呉本 堯	
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎		12			石川 豊、辻村 泰寛、吉野 秀明、宇賀神 守、 生駒 哲一、上野 貴博、新井 啓之、 竹村 暢彦、勝間田 仁、竹村 暢彦、 伊藤 暢彦、高津 洋貴、木村 貴幸、 荒川 俊也、呉本 堯	
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教授 工学博士 辻村 泰寛	
	English Skill Upgrading Program	2		○	2	2			教授 工学博士 辻村 泰寛	
	応用数学特論1	2	◎		2				教授 博士(理学) 衛藤 和文	
応用数学特論2	2	◎		2				教授 博士(理学) 衛藤 和文		

《修了要件》
 「次世代デバイス応用セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)か「次世代情報技術セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)若しくは、「次世代メディア開発セミナーⅠ・Ⅱ」(4単位)のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」(8単位)を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。
 《履修要件》
 オープン履修科目(演習、特別研究を除く)は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

建築デザイン学専攻

学科目 区分	授 業 科 目	単 位 数	DPへの関与度		週時間数				担 当 教 員
			専門力	人間力	1 年		2 年		
					春	秋	春	秋	
設計・計画	都市建築の設計	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 小川 次郎
	建築空間の構成システム	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 足立 真
	集合住宅計画論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 佐々木 誠
	地域設計論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 佐々木 誠
	福祉生活環境論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 野口 祐子
	福祉のまちづくり特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 野口 祐子
	施設利用行動モデル論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 木下 芳郎
	施設規模・配置設計論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 木下 芳郎
	住まいの民俗文化	2	◎	○	2				【休講】
	祭祀と儀礼の建築空間	2	◎	○		2			【休講】
	生活環境形成論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 勝木 祐仁
	福祉空間設計論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 勝木 祐仁
	公共空間の設計	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 吉村 英孝
	空間認知論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 徐 華
	街路空間設計論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 徐 華
	建築の形態とスケール	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 竹内 宏俊
歴史	建築設計と構法	2	◎	○	2				教授 工学博士 黒津 高行
	建築表現の手法	2	◎	○		2			教授 工学博士 黒津 高行
	組積造建築技術史特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 西本 真一
	建造技術史と修復設計論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 西本 真一
	近代の都市と建築	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 安野 彰
	住宅史特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 安野 彰
構造・材料	木質構造設計論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 那須 秀行
	鋼構造特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 那須 秀行
	シェル構造設計論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 箕輪 健一
	空間構造特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 箕輪 健一
	建築材料と人間工学	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 工藤 瑠美
	建築設計と材料性能	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 工藤 瑠美
	耐久性診断特論	2	◎	○	2				助教 博士(工学) 田中 章夫
	コンクリート材料設計論	2	◎	○		2			助教 博士(工学) 田中 章夫
環境・設備	都市環境設計論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 三坂 育正
	暑熱適応の空間計画特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 三坂 育正
	建築空気環境特論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 吉野 一
	建築環境設計論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 吉野 一
	住まい環境設計論	2	◎	○	2				教授 博士(工学) 樋口 佳樹
	建築熱環境特論	2	◎	○		2			教授 博士(工学) 樋口 佳樹
	昼光照明設計論	2	◎	○	2				准教授 博士(工学) 伊藤 大輔
	建築光環境特論	2	◎	○		2			准教授 博士(工学) 伊藤 大輔
演習科目	プロジェクト演習Ⅰ	2	◎	◎	2				黒津 高行、小川 次郎、足立 真、三坂 育正、 那須 秀行、西本 真一、佐々木 誠、野口 祐子、 吉野 一、安野 彰、木下 芳郎、樋口 佳樹、 勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、 箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫
	プロジェクト演習Ⅱ	2	◎	◎		2			勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、 箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫
	建築設計インターンシップ	4	◎	◎	4				小川 次郎
	建築設計スタジオⅠ	2	◎	◎	2				小川 次郎、足立 真、樋口 佳樹、吉村 英孝、 徐 華、竹内 宏俊
	建築設計スタジオⅡ	2	◎	◎		2			徐 華、竹内 宏俊
研究科目	特別研究Ⅰ	4	◎	◎			12		黒津 高行、小川 次郎、足立 真、三坂 育正、 那須 秀行、西本 真一、佐々木 誠、野口 祐子、 吉野 一、安野 彰、木下 芳郎、樋口 佳樹、 勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、 箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫
	特別研究Ⅱ	4	◎	◎			12		勝木 祐仁、吉村 英孝、徐 華、工藤 瑠美、 箕輪 健一、伊藤 大輔、竹内 宏俊、田中 章夫
	特別研究Ⅰ(修士設計)	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、黒津 高行、西本 真一、 佐々木 誠、樋口 佳樹、吉村 英孝、徐 華、 竹内 宏俊
	特別研究Ⅱ(修士設計)	4	◎	◎			12		小川 次郎、足立 真、黒津 高行、西本 真一、 佐々木 誠、樋口 佳樹、吉村 英孝、徐 華、 竹内 宏俊
共通科目	English Literacy in Technology and Engineering	2		○	2				教授 工学博士 辻村 泰寛
	English Skill Upgrading Program	2		○		2			教授 工学博士 辻村 泰寛
	応用数学特論1	2	○		2				教授 博士(理学) 衛藤 和文
	応用数学特論2	2	○			2			教授 博士(理学) 衛藤 和文

博士前期課程

《修了要件》

「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」(4単位)か「建築設計スタジオⅠ・Ⅱ」(4単位)若しくは、「建築設計インターンシップ」(4単位)のいずれかを必ず履修し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」8単位または「特別研究(修士設計)」8単位を必ず履修するとともに、指導教授の指導により、それ以外の授業科目18単位以上を履修すること。

《履修要件》

オープン履修科目(演習、特別研究を除く)は担当教員の承認を得て履修し、8単位を上限として修了要件に算入することができる。

インターンシップ関連科目

日本工業大学 工学研究科 博士前期課程 建築デザイン学専攻 カリキュラム表

本学の大学院建築デザイン学専攻は、公益財団法人 建築技術教育普及センターより、各専門領域において所定の単位数「15単位以上（インターンシップ4単位以上）」を修得することで、実務経験年数1年とみなすことが認められています。インターンシップの単位数は4単位以上、インターンシップ関連科目（演習・実験・実習）は8単位以下、インターンシップ関連科目（講義）は8単位以下とします。

科目区分	新科目名	単位数	開講時期		担当者	専門領域			
			春	秋		意匠	構造	設備	
インターンシップ	建築設計インターンシップ	4	○	○	小川	○	○	○	
	建築設計スタジオⅠ	2	○		小川、足立、樋口、吉村、徐、竹内	○	○	○	
	建築設計スタジオⅡ	2		○	小川、足立、樋口、吉村、徐、竹内	○	○	○	
インターンシップ関連科目	演習・実験・実習	特別研究（修士設計）Ⅰ	4	○		小川、足立、黒津、西本、佐々木、樋口、吉村、徐、竹内	○		
		特別研究（修士設計）Ⅱ	4		○	小川、足立、黒津、西本、佐々木、樋口、吉村、徐、竹内	○		
		プロジェクト演習Ⅰ	2	○		黒津、小川、足立、三坂、那須、西本、佐々木、野口(祐)、吉野、安野、木下、樋口、勝木、吉村、徐、工藤、箕輪、伊藤、竹内、田中(章)	○	○	○
		プロジェクト演習Ⅱ	2		○	黒津、小川、足立、三坂、那須、西本、佐々木、野口(祐)、吉野、安野、木下、樋口、勝木、吉村、徐、工藤、箕輪、伊藤、竹内、田中(章)	○	○	○
		都市建築の設計	2	○		小川	○		
	講義	建築空間の構成システム	2		○	足立	○		
		地域設計論	2		○	佐々木	○		○
		施設規模・配置設計論	2		○	木下	○		
		福祉空間設計論	2		○	勝木	○		○
		公共空間の設計	2		○	吉村	○		
		街路空間設計論	2		○	徐	○		
		建築設計と構法	2	○		黒津	○	○	○
		建造技術史と修復設計論	2		○	西本	○	○	○
		木質構造設計論	2	○		那須		○	
		シェル構造設計論	2	○		箕輪		○	
コンクリート材料設計論	2		○	田中章夫		○			
建築設計と材料性能	2		○	工藤		○	○		
建築環境設計論	2		○	吉野		○	○		
住まい環境設計論	2	○		樋口		○	○		
昼光照明設計論	2	○		伊藤			○		

修士論文審査手続要領

1. 修士論文審査申請の手続

(1) 学生の手続

修士論文の審査を受ける学生は、**指定期日**までに「修士論文審査申請書」「修士論文要旨（和文と英文）」（いずれも教務課に用意）を作成し、修士論文（審査稿、部数は指導教授が指示）と共に指導教授に提出する。

★修士論文要旨の和文は所定用紙に800字程度でまとめ、英文は所定用紙に500語程度でまとめる。

★修士論文は審査用のもので、審査の過程で補訂が加えられる。仮とじ、ファイル等によって散逸しないように注意する。

後に所定の補訂をして、清書しなければならない。

★各手続書類のフォーマットは、MS-Word 形式。

(2) 指導教授の手続

指導教授は学生が提出した修士論文審査申請書、修士論文要旨、修士論文に目を通し、「修士論文審査委員会の構成申請書」を作成する。その後、修士論文審査申請書、修士論文要旨、修士論文審査委員会の構成申請書を各専攻長に提出する。専攻長は提出された書類を閲覧し、完備であることを確認の上、**教務課に提出**する。

★修士の学位論文の審査委員会は、指導教授を含む、当該論文の分野に関連ある大学院担当の教授又は准教授2名以上とし、主査は指導教授とする。

〈修士論文審査申請に必要な書類〉

「修士論文審査申請書」（学生が作成）

[修 士]

年 月 日 提 出

論 文 審 査 申 請 書

日本工業大学大学院工学研究科
研究科委員会委員長 殿

専攻名 _____ 専攻
学籍番号 _____
氏 名 _____ 印

このたび日本工業大学学位規程第6条の規定により、下記の修士の学位請求論文を提出し、論文審査の申請をいたします。

記

論文題目：
指導教授：
指導教授 _____ 印
専攻長 _____ 印

【備 考】
本論文に関し、つぎのように論文発表を（予定）しています。

誌名、書名等：
学（協）会名：
発表年月日：
論 文 題 目：
単著・共著の別：
共 著 者 名：

「修士論文要旨（和文）」（学生が作成）

[修 士]

修 士 論 文 の 要 旨 (和 文)

論文題目 _____

専攻名 _____ 学籍番号 _____ 氏 名 _____

_____ 専攻 _____ 番 _____

【要旨】(MS明細・12pt・1000字程度) |

博士前期課程

「修士論文要旨（英文）」（学生が作成）

修士

Abstract of master's thesis

Title _____

Major _____ Student ID _____ Full Name _____

_____ major _____

[Abstract] (Times New Roman・12pt・app. 500 words)

「修士論文審査委員会の構成申請書」（指導教授が作成）

修士

年 月 日 提出

論文審査委員会の構成申請書

日本工業大学大学院工学研究科
研究科委員会委員長 殿

_____ 専攻長
氏 名 _____ 印

修士の論文審査委員会を下記のとおり構成したいので申請します。

記

審査対象となる学位請求論文

題 目 _____

著 者 _____

審査委員会

主 査 _____

査 査 委 員 _____

査 査 委 員 _____

査 査 委 員 _____

備 考

本学研究科委員会委員以外の審査委員については、空白部に現職、略歴等を記入してください。

2. 修士論文の審査、審査結果の報告

修士論文審査委員会は修士論文の審査を行い、その審査結果については指導教授が「修士論文審査報告書および最終試験報告書」を作成し、各専攻長に提出する。

専攻長は閲覧の上、修了判定を行う大学院研究科委員会の2日前までに、教務課に一括して提出しなければならない。

〈審査結果報告に必要な書類〉

「修士論文審査報告書および最終試験報告書」
(指導教授が作成)

修士

**論文審査報告書
および最終試験報告書**

年 月 日

審査委員
主 査 _____ 印
審査委員 _____ 印
審査委員 _____ 印

専 攻 名	氏 名	
学 籍 番 号		
論 文 題 目		
学 位 論 文 審 査 報 告	※ 判 定	合 格 不 合 格
審 査 要 旨 (MS明朝・10.5P・200文字程度)		
最 終 試 験 報 告	※ 判 定	合 格 不 合 格
結果の要旨		
1. 論文を中心とした科目試験（特別研究及び演習科目を含む） (MS明朝・10.5P・60文字程度)		
2. 外 国 語 (MS明朝・10.5P・60文字程度)		

※判定欄の合格、不合格のいずれかを選択して記入して下さい。

授業科目取得単位数	単 位	
(特別研究及び演習科目を含む)		
記入不要		

3. 修士論文の提出

(1) 修士論文（本論文）の提出

審査稿に審査過程での補訂を加えて、提出用の修士論文（本論文）を作成し、1部を成績発表の2日後までに指導教授を経て教務課に提出する。

★論文題目、著者（専攻、番号、氏名）、指導教授（資格、氏名）を楷書体で明記する。

日本工業大学学位論文審査基準

【修士論文】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。
【主体性】
2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。
【テーマ及び課題設定の妥当性】
3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。
【調査・研究の適切性】
4. 論文の構成、論述が明確で、論理的な展開がみられる。
【論旨の妥当性】
5. 論文で使用する図表、文章表現、文献の引用が適切に行われており、整った論文となっている。
【論文作成能力】
6. 研究内容に独創性がみられる。
【独創性】
7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。

【修士設計】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。
【主体性】
2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。
【テーマ及び課題設定の妥当性】
3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。
【調査・研究の適切性】
4. 設計主旨の構成、論述が明確で、論理的な展開がみられる。
【論旨の妥当性】
5. 設計の方法が具体的かつ明確であり、内容が設計図書内に適切に表現されている。
【設計能力】
6. 研究内容に独創性がみられる。
【独創性】
7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。

博士後期課程

博士後期課程各専攻の概要

環境共生システム学専攻

目的・目標

自然の仕組みに学ぶ「生物応用」および自然と共生する社会システムを創造する「社会環境デザイン」について、地球環境と人間社会の持続的な調和・共生を大局的に捉えながら、実用および基礎研究の両側面から挑戦することができる技術者・研究者を養成します。

<生物応用研究部門>

機械・電子工学、化学・生物学のより専門的な知識を身につけ、生物のもつ機能や形態を物理・化学の基礎現象まで掘り下げて考察することにより新しい材料や機械システムを生み出す研究開発や、生体材料を利用あるいは融合することで新しい機械システムや医療システムを生み出す研究開発などを通じて、材料設計・作製技術、分析・評価技術、システム構築技術などに関する専門知識と実践力を習得します。

<社会環境デザイン研究部門>

機械工学、エネルギー工学、建築学などのより専門的な知識を身につけ、地球システムや都市システムの物質循環とエネルギーフローを学ぶことで自然と共生する社会システムを創造する社会システム設計技術の研究開発や、地球環境保全と持続可能社会形成を両立させる研究開発などを通じて、分析評価技術、システム構築技術、制度設計技術などに関する専門知識と実践力を習得します。

アドミッションポリシー

博士後期課程環境共生システム学専攻では、地球環境と人間社会の持続的な調和・共生という視点から技術の在り方を見つめ直そうとする提案力を持ち、「生物応用」および「社会環境デザイン」に関する専門知識の獲得と新規技術の開発創造をめざし研究活動に意欲的に取り組む人材を受け入れます。入学判定に際しては、修士論文の学術的貢献度および学会等における論文などの発表実績を重視します。

機械システム工学専攻

目的・目標

材料工学・設計工学・計測制御工学・生産加工学の各専門領域について、最先端の研究・技術開発に取り組むことが可能な技術者および研究者を養成します。さらに、高度の専門知識と広い視野を合わせもち、急速に複雑化する機械工学の進展を見据え、これらの専門領域を統合・演繹できる創造的な研究能力と技術力を兼ね備えた人材を養成します。

<材料工学研究部門>

工業製品に飛躍的な性能向上をもたらす新材料を開発するため、材料設計や表面改質技術の開発などに取り組み、各種環境規制に適合した材料開発に挑戦できる能力の習得を目的とします。

<設計工学研究部門>

製品設計を安全性、環境負荷、省資源など様々な視点から捉え、CAD/CAM/CAE を駆使した設計制御、高い機能や付加価値を有する機械製品やロボットなど、生産現場を刷新できる研究技術・開発力の習得を目的とします。

<計測制御工学研究部門>

高度制御技術、高機能計測システム、及び人工知能やロボット工学について研究し、さらにこれらを含めたシステムの応答・挙動のダイナミクスおよびその制御、についての研究開発力の習得を目的とします。

<加工学研究部門>

新素材並びに各種高機能材料の加工技術を、広範囲にわたって研究・開発をする能力を習得します。さらに、大量生産技術または多品種少量生産技術などに関する一連のものづくりの専門知識や次世代のものづくりを担う最先端加工技術の研究を通じて、加工機械の設計・制御、マイクロ・ナノ加工、精密計測などに関する研究開発力の習得を目的とします。

アドミッションポリシー

博士後期課程機械システム工学専攻は、生産現場に直結し、牽引する研究者・開発技術者を養成する目的から、高いレベルの専門知識ばかりでなく、リーダーシップに優れた人材を求めています。その指標として、修士論文の学術的成果と学会等における発表実績、さらには研究成果の社会的貢献度を重視します。

電子情報メディア工学専攻

目的・目標

電気工学、電子工学および情報工学に関連する技術は、近年たがいに強く関係しながら発展しています。このような状況に対応してエレクトロニクス、情報通信技術およびマルチメディアの3つの専門領域について、ハードウェアに関する視点とソフトウェアに関する視点を兼ね備え、世界の技術革新をリードできる広い視野と柔軟性を備えた、実践的開発技術者・創造的研究者を養成します。

<エレクトロニクス領域>

材料の生成方法の検討、新たな機能材料の創出とその応用、アナログ集積回路、制御理論、電気機器、電気接点など、電気電子機器を構成する材料やその特性に関する研究・開発に取り組みます。そして、社会・産業の基盤となるハードウェアとしてのエレクトロニクスに関する専門知識と実践力を習得します。

<情報通信技術領域>

無線伝送、情報理論、通信トラフィック理論、移動ソフトウェアエージェント等、情報通信では必要不可欠なシステムの研究・開発に取り組みます。そして、社会と暮らしへのコンピュータ応用を目指すソフトウェアとしての情報通信技術に関する専門知識と実践力を習得します。

<マルチメディア領域>

コンピュータグラフィックス、ソフトコンピューティング、計算知能化技術等、人間と情報システムの関わりを中心とした新たな技術創出に関する研究・開発に取り組みます。そして、多様な情報メディアとネットワークからなるマルチメディアに関する専門知識と実践力を習得します。

アドミッションポリシー

博士後期課程電子情報メディア工学専攻に進学するには、多様化する電子情報メディア工学分野の進展を見据え、自らの研究を客観的に位置付ける、広い視野が欠かせません。また、チームで研究するためのリーダーとしての資質も必要です。これらの指標として、修士論文の学術的成果のみならず、学会等における発表実績を重視します。

建築デザイン学専攻

目的・目標

建築計画、建築意匠設計、建築史、建築構造・材料、建築環境・設備の各専門領域における高度な専門性に加え、自ら課題を発見し、問題を整理・解決し、持てる知識と柔軟な発想を駆使して立案実行できる能力の開発、また、広い視野と深い洞察力のもと、異なる専門領域が協働する研究、創作、技術開発においても実践的に活動できる能力を修得し、次世代の研究分野や設計分野を切り拓き、新たな世界を提案できる、研究者、建築家、技術者を養成します。

<建築計画>

都市や地域における居住とその空間のあり方、ケアが求められる居住を含む建築空間やコミュニティのあり方を、建築計画や都市計画、地域計画、まちづくりの視点から分析し、保健・医療・福祉分野との連携において、調査・分析・提案する専門的な能力を修得します。

<建築意匠設計>

建築・都市・インテリア空間のデザイン特性とその背景について、社会・文化・技術との関わりから分析し、新たな認識のもとに空間を創造する提案能力を修得します。

< 建築史 >

歴史的な文化環境や建築のあり方を、世界的な視点で調査・研究し、その保存再生プロジェクトを実践する専門的な能力を修得します。

< 建築構造・材料 >

木質構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造およびその複合構造の耐震技術や耐久性向上の技術に関する研究・開発や実施・普及に資する専門的な能力を修得します。

< 建築環境・設備 >

建築や都市を対象とした環境問題について、問題発生の原理やメカニズム、要因を調査・分析し、適切な対策の検討とその効果の検証を通して、環境負荷を削減して快適な空間を創出する設計手法に関する提案能力を修得します。

アドミッションポリシー

博士後期課程建築デザイン学専攻が求める入学者は、本専攻が掲げる教育方針に共感し、幅広い建築的能力と創造性とともに、次世代の研究分野や設計分野を開拓する高い志をもつ意欲あふれた人です。その可能性をはかる指標として、自らの提案を正確に伝えるプレゼンテーション能力と、修士論文の学術的成果、学会等における発表実績を重視します。

博士後期課程専攻別授業科目および単位数

【博士後期課程の修了要件】

博士後期課程では、単位制による授業は行わない。必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【環境共生システム学専攻】

研究分野	単位数	指導教授
環境共生システム学特殊研究	0	教授 工学博士 八木田 浩 史 教授 博士(工学) 伴 雅 人 教授 博士(工学) 丹 澤 祥 晃 教授 博士(工学) 大 澤 正 久 教授 博士(理学) 佐 野 健 一 教授 Dr.Eng 鈴 木 宏 典 教授 博士(工学) 内 田 祐 一 教授 博士(工学) 白 木 将 一 教授 博士(工学) 新 倉 謙 一 教授 博士(工学) 池 添 泰 弘

【機械システム工学専攻】

研究分野	単位数	指導教授
機械システム工学特殊研究	0	教授 博士(工学) 渡 部 修 一 教授 博士(工学) 古 閑 伸 裕 教授 博士(工学) 竹 内 貞 雄 教授 博士(工学) 村 田 泰 彦 教授 博士(工学) 中 里 裕 一 教授 博士(工学) 神 雅 彦 教授 博士(工学) 中 野 道 王 教授 博士(工学) 張 暁 友 教授 博士(工学) 飯 塚 完 司 教授 博士(工学) 二ノ宮 進 一 教授 博士(工学) 浦 川 禎 之 教授 博士(工学) 樋 口 勝 教授 博士(工学) 瀧 澤 英 男 准教授 博士(工学) 櫛 橋 康 博 准教授 博士(工学) 秋 元 俊 成 准教授 博士(工学) 石 川 貴一朗 准教授 博士(工学) 加 藤 史 仁

【博士後期課程の修了要件】

博士後期課程では、単位制による授業は行わない。必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【電子情報メディア工学専攻】

研 究 分 野	単位数	指 導 教 授
電子情報メディア工学特殊研究	0	教授 博士(工学) 山 地 秀 美
		教授 工学博士 石 川 豊
		教授 博士(工学) 吉 田 清
		教授 博士(理学) 吉 野 秀 明
		教授 博士(工学) 宇賀神 守
		教授 博士(工学) 青 柳 稔
		教授 工学博士 辻 村 泰 寛
		教授 博士(情報理工学) 佐 藤 進 也
		教授 博士(学術) 生 駒 哲 一
		教授 博士(工学) 高 瀬 浩 史
		教授 博士(工学) 上 野 貴 博
		教授 博士(情報学) 平 栗 健 史
		教授 博士(情報科学) 新 井 啓 之
		教授 博士(工学) 糸 野 文 洋
		教授 博士(工学) 荒 川 俊 也
		教授 博士(工学) 呉 本 堯
		准教授 Ph.D 神 林 靖
准教授 博士(工学) 大 宮 望		

【建築デザイン学専攻】

研 究 分 野	単位数	指 導 教 授
建築デザイン学特殊研究	0	教授 工学博士 黒 津 高 行
		教授 博士(工学) 小 川 次 郎
		教授 博士(工学) 足 立 真
		教授 博士(工学) 三 坂 育 正
		教授 博士(工学) 那 須 秀 行
		教授 博士(工学) 西 本 真 一
		教授 博士(工学) 佐々木 誠
		教授 博士(工学) 野 口 祐 子
		教授 博士(工学) 吉 野 一 彰
		教授 博士(工学) 安 野 彰

課程博士の学位申請手続要領

日本工業大学大学院工学研究科

(目的)

1. この要領は、日本工業大学学位規程に基づき、これを定める。

(書類審査の申請)

2. 博士の学位を受けようとする者（以下申請者という）は、書類審査申請書及び研究業績書を、指導教授を経て当該専攻長に提出する。

なお、優れた研究業績を有すると認められた者が修業年限を短縮し書類審査を受けようとする場合は、早期修了に係る書類審査申請書及び研究業績書を、指導教授を経て当該専攻長に提出する。

(書類審査)

3. 当該専攻長は、専攻会議を開催し、申請者の研究活動及びその成果の判定について、指導教授からの報告に基づき協議する。

(学位の申請)

4. 申請者は、指導教授から書類審査の終了の確認を得た上、次の書類等を研究科委員会に提出し、学位の申請を行う。

- | | |
|---|----|
| ① 論文審査申請書（所定用紙） | 1部 |
| ※早期修了に係る審査の場合は、その旨を明記。 | |
| ② 履歴書（所定用紙） | 1部 |
| ③ 研究業績書（当該論文に関連するもの） | 1部 |
| ④ 論文概要（和文、2千字程度、所定用紙） | 1部 |
| ⑤ 論文概要（欧文、5百語程度、所定用紙） | 1部 |
| ⑥ 論文（A4版用紙） | 1部 |
| ⑦ 論文の内容に印刷公表する予定のものを含む場合は、その印刷公表予定を確認するための証明書 | 1通 |

(論文の受理及び審査委員の選任)

5. 研究科委員会は、指導教授の所属する専攻会議の議を経て論文受理の可否を決定し審査委員を選任し、論文審査委員会設置の可否を諮る。

(2) 専攻長は、前項の審議を行うために研究科委員会へ次の書類を各1部提出する。

- ① 論文審査申請書（所定用紙）
※早期修了に係る審査の場合は、その旨を明記。
- ② 履歴書
- ③ 研究業績書（当該論文に関連するもの）
- ④ 論文概要（和文、2千字程度、所定用紙）
- ⑤ 論文審査委員会の構成申請書（所定用紙）
※早期修了に係る審査の場合は、その旨を明記。

(3) 審査委員は、主査を含む5名以上とし、学外審査委員は学内審査委員の人数に満たない数とする。

(論文審査・最終試験の実施及び判定)

6. 論文審査委員会は、論文審査及び最終試験を行い、可否について判定する。

(2) 論文審査は、論文を受理した日から12カ月以内に行わなければならない。

(3) 最終試験は、次の方法によって行う。

- ① 研究能力の有無を判定するため、論文を中心としてこれに関連する科目についての口頭又は筆答試験。
- ② 専門の学術研究を行うのに十分な外国語の素養の有無を判断するため、論文審査委員会が指定する一つの外国語についての口頭又は筆答試験。

- ③ 論文審査委員会が指定する外国語は、英語、独語、仏語のうち1ヶ国語とする。
ただし、外国人にあつては日本語を含めることができる。
- (4) 在学年数及び修得単位数において、修了要件を充足しているかを確認する。

(公聴会の開催)

- 7. 主査は、当該専攻長を経て研究科委員長に公聴会の開催を申告する。
- (2) 研究科委員長は、2週間前に公聴会の開催日時を公示する。
- (3) 論文審査委員会は、公聴会終了までに、論文についての最終判定をする。

(審査報告及び学位授与の審議)

- 8. 研究科委員会は、論文審査委員会からの論文の審査及び最終試験についての報告に基づいて審議し、学位授与の可否について議決する。
- (2) 主査は研究科委員会に次の書類を提出する。
なお、優れた研究業績を有すると認められた者が修業年限を短縮し修了判定を受けようとする場合には、早期修了に係る判定である旨を、以下の書類に付すこと。
 - ① 博士論文の審査報告
 - ② 最終試験の結果報告
 - ③ 博士課程修了判定資料（在学年数及び修得単位数）
- (3) 学位授与の議決については、日本工業大学学位規程第11条第2項を適用する。

付 則

この要領は、平成8年4月1日から施行する。

付 則

この要領は、平成15年2月1日から施行する。

付 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

論文提出による博士の学位申請手続要領

日本工業大学大学院工学研究科

(目的)

1. この要領は、日本工業大学大学院学則第28条第2項及び日本工業大学学位規程第5条第2項に基づき、論文提出による博士の審査手続等について定めることを目的とする。

(論文の提出・論文予備審査)

2. 博士課程を経ないで論文を提出して博士の学位を受けようとする者（以下申請者という）は、当該論文の分野に関連ある本大学院博士後期課程の研究指導にあたる教授又は准教授（以下指導教授という）に次の書類を提出し、予備審査の開催を申し込む。

- | | |
|----------------------|----|
| ① 履歴書（所定用紙） | 1部 |
| ② 研究業績書（当該論文に関連するもの） | 1部 |
| ③ 論文（A4版用紙を原則とする） | 1部 |

- (2) 指導教授は、所属する専攻会議の議を経て、当該論文に関連する研究分野の研究指導担当教員と共に予備審査を実施する。

- (3) 指導教授は、論文予備審査終了後、審査の結果について専攻長を経て研究科委員長へ報告し、また教務課を経て申請者へ文書で通知する。

なお、論文の提出、論文予備審査は、随時行うことができる。

(学位の申請)

3. 申請者は、予備審査の結果学位の申請が認められた場合、指導教授の指示により、次の書類等を教務課を経て研究科委員会に提出し、学位の申請を行う。

- | | |
|---|----|
| ① 論文審査申請書（所定用紙） | 1部 |
| ② 履歴書（所定用紙） | 1部 |
| ③ 研究業績書（当該論文に関連するもの・A4版） | 1部 |
| ④ 論文概要（和文、2千字程度、所定用紙） | 1部 |
| ⑤ 論文概要（欧文、5百語程度、所定用紙） | 1部 |
| ⑥ 論文（A4版用紙を原則とする） | 1部 |
| ⑦ 予備審査確認書（指導教授が執筆、所定用紙） | 1部 |
| ⑧ 研究業績書の内容に印刷・公表する予定のものを含む場合は、それを確認するための証明書 | 1通 |
| ⑨ 本学以外の大学院等に当該論文で学位を申請していない旨の誓約書（所定用紙） | 1通 |
| ⑩ 審査料（審査料は別に定める） | |

- (2) 学位の申請は、随時行うことができる。

(論文の受理及び審査委員の選任)

4. 研究科委員会は、指導教授の所属する専攻会議の議を経て論文受理の可否を決定し審査委員を選任し、論文審査委員会設置の可否を諮る。

- (2) 専攻長は、前項の審議を行うために研究科委員会へ次の書類を各1部提出する。

- | |
|-----------------------|
| ① 論文審査申請書（所定用紙） |
| ② 履歴書（所定用紙） |
| ③ 研究業績書（当該論文に関連するもの） |
| ④ 論文概要（和文、2千字程度、所定用紙） |
| ⑤ 論文審査委員会の構成申請書（所定用紙） |

- (3) 審査委員は、主査を含む5名以上とし、学外審査委員は学内審査委員の人数に満たない数とする。

（論文審査及び公聴会の開催）

5. 主査は、論文審査委員会を開催し、論文の審査を行うと共に、公聴会を開催する。
- (2) 論文審査は論文を受理した日から、12カ月以内に行わなければならない。
 - (3) 主査は、当該専攻長を経て研究科委員長に公聴会の開催を申請する。
 - (4) 研究科委員長は、2週間前に公聴会の開催日時を公示する。
 - (5) 論文審査委員会は、公聴会の終了後、論文についての最終判定を行う。

（最終試験の実施及び判定）

6. 論文審査委員会は、最終試験を行い、可否について判定する。
- (2) 最終試験は、次の方法によって行う。
 - ① 研究能力の有無を判定するため、論文を中心としてこれに関連する科目についての口頭又は筆答試験。
 - ② 専門の学術研究を行うのに十分な外国語の素養の有無を判断するため、論文審査委員会が指定する一つの外国語についての口頭または筆答試験。
 - ③ 論文審査委員会が指定する外国語は、英語、独語、仏語のうち1ヶ国語とする。
ただし、外国人にあっては日本語を含めることができる。
 - ④ 外国に在住している者等についての最終試験は、論文受理の前でも、審査委員予定者によって行うことができる。
審査委員は、その結果に基づいて認定し、研究科委員会に報告することができる。

（審査報告及び学位授与の審議）

7. 研究科委員会は、論文審査委員会からの論文の審査及び最終試験についての報告に基づいて審議し、学位授与の可否について議決する。
- (2) 主査は研究科委員会に次の書類を提出する。
 - ① 博士論文の審査報告
 - ② 最終試験の結果報告
 - (3) 学位授与の議決については、日本工業大学学位規程第11条第2項を適用する。

付 則

この要領は、平成8年4月1日から施行する。

付 則

この要領は、平成14年4月1日から施行する。なお、この要領に関わる事務処理は教務課が行うものとする。

付 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

日本工業大学学位論文審査基準

【博士論文】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。
【主体性】
2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。
【テーマ及び課題設定の妥当性】
3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。
【調査・研究の適切性】
4. 論文の構成、論述が明確で、論理的な展開に一貫性がみられる。
【論旨の妥当性】
5. 論文で使用する図表、文章表現、文献の引用が的確なものであり、論旨が整った論文となっている。
【論文作成能力】
6. 研究成果が独創性、新規性を含んだ内容となっており、当該分野の発展に貢献できるものとなっている。
【独創性・新規性・有効性】
7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。

博士論文のインターネット公表について

日本工業大学大学院
工学研究科

平成25年4月1日より施行された学位規則の一部を改正する省令（平成25年文部科学省令第5号）により、博士の学位を授与された者は、印刷公表に代えて、インターネットを利用して博士論文を公表することとなりました。インターネットによる公表は授与大学の協力を得て行なうことになっており、本学ではLCセンターの「日本工業大学学術情報リポジトリ」(<https://library.nit.ac.jp>)にて博士論文を公表いたします。

つきましては、下記の要領に従い、電子データおよび確認書をご提出下さい。

【学位規則の一部を改正する省令の施行等について】

●博士論文の公表

- 1 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでないこと。（第9条第1項関係）
- 2 博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該博士の学位を授与した大学等の承認を受けて、当該博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができるものとする。この場合において、当該大学等は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。 （第9条第2項関係）
- 3 博士の学位を授与された者が行うこれらの公表は、当該博士の学位を授与した大学等の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。 （第9条第3項関係）

（1）学生の提出物

学位を授与された学生は、下記2点を教務課へご提出下さい。

①博士論文（PDF）

- ・CD-R等メディアに保存してご提出下さい。
- ・インターネット公表できない場合は、内容の要約もご提出下さい。 ※（3）注意事項を参照

②博士論文公表確認書

（2）電子媒体仕様

- ①電子媒体は、PDF/A（PDF1.4）を推奨とする。
- ②形式設定は、Acrobat5.0以上とする。
- ③データには、暗号化・パスワード設定・印刷制限等を行なわない。
- ④文字フォントは全て埋め込みとする。（外部フォントを使用しない）
- ⑤ページサイズはA4版（基本）、A3版（図等）とする
- ⑥1ページ目に表紙を付ける ※（4）補足（表紙見本）を参照

（3）注意事項

博士論文のインターネット公表に際して第三者との紛争が生じることのないよう、学生（博士学位授与者）はあらかじめ関係者との調整等を行って下さい。下記のようなやむを得ない事由があり、学位授与日から1年以内にインターネット公表できない場合は、当該博士の学位を授与した工学研究科等の承認を受けて、当該博士論文の全文に代えてその内容を要約を公表することになります。

●学位規則の一部を改正する省令の施行等について（平成25年高等教育局長通知）より

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakuin/detail/1331796.htm

(3) 代替措置の取扱いについて

改正後の学位規則第9条第2項に規定する、博士論文の全文に代えてその内容を要約したものとすることができる「やむを得ない事由がある場合」とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると学位を授与した大学等が承認した場合をいい、例えば、次に掲げる場合が想定されること。この場合において、当該大学等は、当該博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

- 1 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
- 2 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合
- 3 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士の学位を授与された日から1年を超えて生じる場合

なお、「やむを得ない事由」が無くなった場合には、博士の学位を授与された者は当該博士論文の全文を、大学等の協力を得てインターネットの利用により公表すること。

(4) 補足

●学位論文表紙見本

記載項目：①論題 ②授与年月 ③著者名 ④大学名

⑤著作権表示（© あるいは copyright、授与年、著作権者名、All rights reserved

例：© 2020 Taro Nikko, All rights reserved.)

① シナリオ*言語を用いた***システムの研究

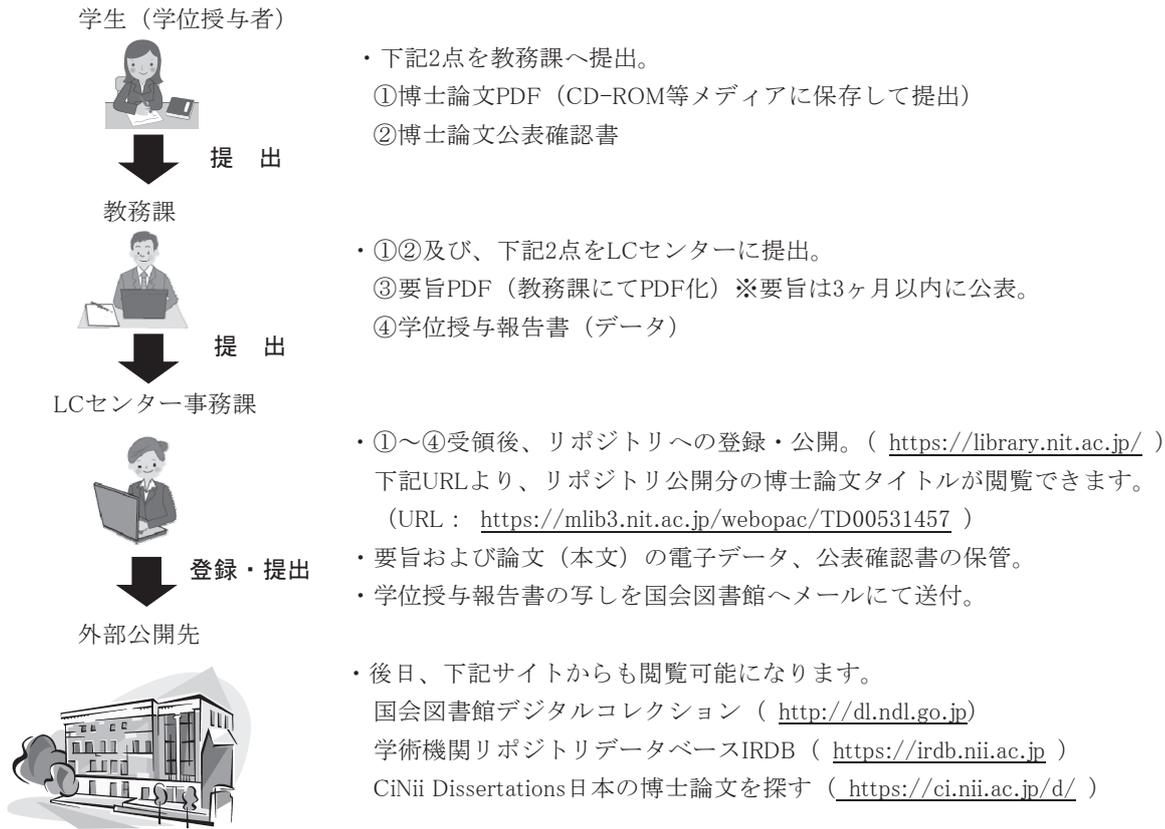
② 2020年3月

③ 日工 太郎

④ 日本工業大学

⑤ Copyright© 2020 Taro Nikko, All rights reserved.

●論文の提出から登録・公開の流れ（学位授与から1年以内）



●Q & A

Q 1、なぜPDF（PDF/A）が推奨されているのですか。

A 1、博士論文公開先でもある国会図書館がPDF（PDF/A（ISO 19005））を推奨していることもありますが、長期的な保存およびアクセシビリティ確保のため国際基準である上記仕様が適しています。

Q 2、博士論文を学術誌に掲載予定です。その場合は、インターネット公開できないのでしょうか。

A 2、掲載論文をインターネット公開するか否かは学会・出版社によって異なります。下記のサイトまたは、直接出版社等にご確認下さい。

国内学協会：学協会著作権ポリシーデータベース <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/133>

海外学協会：SHERPA/ROMEO <http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>

●参考ページ

・文部科学省：学位規則の一部を改正する省令の施行について

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakuin/detail/1331790.htm

H26.2研究科委員会

博士論文 公表確認書

年 月 日

日本工業大学大学院
工学研究科委員長 殿

著者（自著） _____ 印

私が執筆した博士論文をインターネット公表することについて、下記の通り確認いたします。

【 公表方法 】 ※該当するものにチェックを入れてください。

公表区分： 全文公表 要約公表（1年以内に全文公表が難しい場合のみ要約にて公表）

公表開始日： 即日公表可能 年 月 日より可能（1年以内に公表可能な場合）
 未定 もしくは 公表に1年以上かかる

【 公表内容 】

フリガナ			
著者氏名			
ローマ字			
題目（副題を含む）			
学位授与年月（予定）		取得学位	
主査氏名		研究科名	
著者 連絡先	住所		
	電話		
	E-mail		

【要約の公表について】

以下の「やむを得ない事由」により、博士論文のインターネット公表ができません。代わりに、要約を公表いたします。なお、「やむを得ない事由」が無くなった場合には、論文（本文）をインターネット公表いたします。

(1) 該当する事由にチェックを入れてください。

- 立体形状による表現を含む等、技術的な問題のため。
- 著作権保護，個人情報保護等の理由のため。
- 出版刊行，多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載，特許の申請等との関係で，インターネット公表をすることが、学位授与者に明らかな不利益が生じるため。

掲載出版物)

※掲載された雑誌等の誌名・巻号・年月を記入してください。

その他の理由

(2) (1)の理由により、インターネット公表を延期しておりますが、下記より全文公表可能です。

全文公表可能日： 年 月 日

学生生活の手引

学生生活の基本的なことがらについて

事務等の取扱い案内

	事務取り扱い・電話受付時間（厳守して下さい）		
教務課	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7507
学生支援課	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7508
LCセンター事務課（図書館）	9:00-20:30（授業期間）、9:00-17:00（授業期間以外）0480-33-7511		
健康管理センター（保健室）	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7539
学園ネットワークサポートデスク	9:00-17:00	0480-33-7546（土曜日は取り扱わない）	
就職支援課	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7510
財務課	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7504
総務課	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7503
企画広報室	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7519
入試室	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7676
留学生入試課	9:00-11:30	12:30-17:00	0480-33-7547
学生相談室	10:00-17:00	0480-33-7612（土曜日は取り扱わない）	

- ① 土曜日の事務取り扱い時間は15:00までとする。
 - ② 日曜、祝祭日（授業日を除く）、は事務を取り扱わない。
 - ③ 特別に変更のある場合は、あらかじめ掲示する。
- ※各部署から直接連絡することがあるので、あらかじめ電話番号を登録しておいてください。

事務等の取扱い内容

- 教務課**
- (1) 授業に関する事。 (授業時間割・教室割・休講・補講措置等)
 - (2) 履修申請に関する事。 (履修申告等)
 - (3) 学籍に関する事。 (休学・退学・除籍等)
 - (4) 試験に関する事。 (期末試験)
 - (5) 学業成績に関する事。 (成績の記録・証明等)
 - (6) 進級・卒業（修了）に関する事。
 - (7) 科目等履修生・特別聴講生および研究生に関する事。
 - (8) 証明書の発行に関する事。 (在学証明書、成績証明書、卒業・修了（見込）証明書等)
 - (9) 願出・届出に関する事。 (休学願・退学願・欠席理由書・忌引届)
 - (10) 教員免許に関する事。 (教職教育センターでも取り扱う)
 - (11) 大学院に関する事。
- 学生支援課**
- (1) 学生証に関する事。 (交付、再発行等)
 - (2) 証明書の発行に関する事。 (学割証、通学証明書、奨学金関係証明書等)
 - (3) 届出、願書に関する事。 (保証人変更届、住所・電話番号変更届、氏名変更届、団体結成届、対外活動許可願、学内施設使用許可願、印刷物許可願等)
 - (4) 学生の遺失物、郵便物に関する事。
 - (5) 学生の自治活動及び課外活動に関する事。
 - (6) 学内の秩序、風紀の維持に関する事。
 - (7) 奨学金に関する事。
 - (8) アルバイトに関する事。 (直接に斡旋はしない)
 - (9) 赤倉山荘、合宿棟、スチューデントセンターの利用に関する事。
 - (10) 学生用ロッカーの利用に関する事。
 - (11) 学生の傷害保険に関する事。
 - (12) 学生の弔慰金、見舞金に関する事。
 - (13) 学生生活実態調査に関する事。
 - (14) 学生の賞罰に関する事。
 - (15) 留学生の在留資格申請取次に関する事。

- 学生支援課** (16) 構内乗り入れ自転車及びバイクの登録に関すること。
 (17) 学生駐車場に関すること。
 (18) 合理的配慮に関すること
- 健康管理センター** (1) 健康診断に関すること。
 (2) 健康診断証明書発行に関すること。
 (保健室) (3) 健康相談に関すること。
 (4) 救急措置並びに健康保持増進に関すること。
 (5) 感染予防に関すること。
- 学園ネットワークサポートデスク** (1) NITネットIDに関すること。
 (2) 学内ネットワークに関すること。
 (3) 学内利用ソフトウェアに関すること。
- LCセンター** (1) 図書館資料の閲覧サービス及び貸出・返却に関すること。
事務課 (2) 外部データベース検索等による文献調査に関すること。
 (図書館) (3) ILLサービス（他機関からの相互貸借及び文献複写取寄せ）に関すること。
 (4) LCセンター刊行物（青塔・LCセンター図書館ガイド・LCセンター利用案内・LCセンターニュースレター）に関すること。
 (5) LCセンターの広報に関すること。
 (6) LCセンター施設設備の運用管理に関すること。
- 就職支援課** (1) 学生の就職相談並びに指導に関すること。
 (2) 学生の就職紹介・斡旋に関すること。
 (3) 就職支援ガイダンス等の開催に関すること。
 (4) 「求人NAV I」に関すること。
 (5) 学生への求人情報の提供に関すること。
 (6) 登録に関すること。（進路希望、進路報告、活動体験記等）
 (7) 「業界・業種セミナー」・「業界・インターンシップセミナー」等に関すること。
 (8) 「学内合同企業説明会」「個別企業説明会」に関すること。
 (9) 就職活動の手引き、テキストブック等の作成・発行に関すること。
- 財務課** (1) 学費、自治会費、その他諸会費並びにセミナーハウス利用料の収納に関すること。
 (2) 証明書発行に係わる手数料の収納に関すること。
- 総務課** (1) 学友会館に関すること。
 (2) 後援会に関すること。
 (3) 施設時間外使用に関すること。
- 企画広報室** (1) 大学の広報および広告宣伝に関すること。
 (2) 学内刊行物（日本工業大学通信など）に関すること。
 (3) 大学公式ウェブページに関すること（コンテンツ作成および配信）。
 (4) 地域連携活動に関すること。
- 入試室** (1) 学部入学者の選抜に関すること。
 (2) 学生募集に関すること。
 (3) 大学の広報および広告宣伝に関すること（企画広報室担当分を除く）。
- 留学生入試課** (1) 留学生の学部入学者選抜に関すること。
 (2) 留学生の学生募集に関すること。

学 生 証

学生証は皆さんが本学の学生であることを証明するためのものです。大学にいるときはいつも携帯してください。また、学生証はICカードを用いていますので、曲げたりせずに大事に取り扱ってください。

学生証の役割

- ①身分証明書
- ②試験を受けるとき（必ず机上に置いてください）
- ③LCセンターへの入館、および図書の貸出・返却
- ④大学の設備・備品等を借りるとき
- ⑤定期健康診断受診時、及び健康診断証明書発行時
- ⑥自動証明書発行機利用時

学籍番号の見方

学籍番号は、学生個人番号を7桁で表したもので、各数字等の意味は下記の通りです。

1 2 2 * 1 1 1

学生分類	入学年度	所属学科・専攻	連続番号
1:学部生 2:博士前期課程 3:博士後期課程	15:2015年入学 16:2016年入学 17:2017年入学 18:2018年入学 19:2019年入学 20:2020年入学 21:2021年入学 22:2022年入学	【学部生】 M:機械工学科 E:電気電子通信工学科 C:応用化学科 R:ロボティクス学科 I:情報メディア工学科 D:データサイエンス学科 A:建築学科 【大学院生】 6:環境共生システム学専攻 7:機械システム工学専攻 8:電子情報メディア工学専攻 9:建築デザイン学専攻	001~499:春季入学 501~599:春季編入学・再入学 601~799:秋季入学 801~999:秋季編入学・再入学 ※「建築学科」 001~299:春季入学 建築コース 301~499:春季入学 生活環境デザインコース 501~549:春季編入学・再入学 建築コース 551~599:春季編入学・再入学 生活環境デザインコース 601~699:秋季入学 建築コース 701~799:秋季入学 生活環境デザインコース 801~899:秋季編入学・再入学 建築コース 901~999:秋季編入学・再入学 生活環境デザインコース

学生証の裏面

学生証裏面の通学定期券発行控欄がいっぱいになったときや、住所・交通経路を変更したときは新しい裏面シールを交付しますので、学生支援課に申し出てください。

紛失、破損した場合

学生証を紛失、破損した場合は、学生支援課に届け出てください。紛失した場合は、悪用される可能性もありますので、すぐに学生支援課に連絡してください。

再交付金額は1,000円です。

破損した場合には、破損したカードも添えて学生支援課に届け出てください。

学生証の返却

本学を退学・除籍したときには、学生証を大学に返却してください。また、有効期限が切れた後、引き続き在学する場合は、学生証を学生支援課に返却して、再交付を受けてください。（在学延長の再発行には費用はかかりません）

保証人の変更等は学生支援課へ届け出を

保証人の変更

保証人とは、父母または独立の生計を営み、かつ学生の保証人として確実にその責務を果たすことができ、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について一切の責任を負える人のことです。

学生諸君は、入学時に、すでに自分の保証人を届け出しています。保証人が何らかの理由で、その責務を果たせなくなったときは、速やかに新たな保証人を選定して、学生支援課へ届け出なければなりません。また、保証人が住所を変更した場合もまた、同様に届け出てください。

学生の住所等の変更

学生諸君は、入学時に、現住所等を記載した「学生登録カード」をすでに提出していますが、姓名、現住所、携帯電話番号等の記載内容に変更があったときは、直ちに学生支援課へ届け出てください。変更の届け出がないと、緊急時に連絡が取れず、不利益をこうむることがあります。

学生に対する伝達、連絡について

教務課・学生支援課の掲示板

教務課や学生支援課などの大学から学生に対する伝達、連絡、呼び出し等は、ポータルサイトや掲示によって行われます。毎日ポータルサイトを確認したり、登下校の際は、掲示板の掲示物を確認しましょう。

学生支援課の掲示板は、1号館2階ロビーと1号館1階廊下（学生支援課前）にあり、奨学金、アルバイト情報、外国人留学生のための情報などを掲示しています。

就職求人情報の掲示は、1号館2階ロビーにあります。

学科・専攻の掲示板

上記の他に、学科ごとに掲示板があり、学科・専攻からの伝達等は学科・専攻掲示板にも掲示されます。学科・専攻掲示板の位置は、オリエンテーション時に確認しておいてください。

緊急時の連絡は携帯電話等で

緊急を要する場合は、当該部署から直接、文書や電話で連絡することがあります。そのため、現住所や携帯電話番号等の変更があったときは、速やかに学生支援課へ届け出てください。（教務課、学生支援課、就職支援課等の電話番号は、あらかじめ登録しておいてください）

その他

電話による掲示内容についての問い合わせや学生の呼び出しなどには、緊急の場合を除き、応じられませんので、あらかじめ承知しておいてください。

学費の納入について

学費の納入時期

学費の納入は、春学期・秋学期の年2回払になっております。

各学期の納入期限は次のとおりです。

区 分	春 学 期	秋 学 期
納入期限	4月10日	9月30日
備 考	新1年生、編入学者は入学時	—

（各学期とも金融機関の休業日にあたる場合は金融機関の翌営業日）

学費の納入方法

- ①納入すべき学費については、『学費等一覧』をご参照ください。
- ②学費は本学所定の「振込依頼書」（記載金額が納入額）により、銀行等からお振込みください。
- ③2021年度以前入学の学生については、毎年春学期分は3月中旬に、秋学期分は9月中旬に財務課から保証人（父母等）宛に各学期分の「振込依頼書」をお送りします。
- ④新1年生については、入学手続時に春学期分の学費を納入済みですので、秋学期分の「振込依頼書」を9月中旬に財務課から保証人（父母等）宛にお送りします。

振込時の注意

- ①本学発行の「振込依頼書」をご使用の上、銀行窓口で手続きをしてください。ATMまたはインターネットバンキング等により振込む場合は、キー情報となる整理番号・学生氏名を正確に入力の上、お振込みください。
- ②金融機関において10万円を超える現金の振込みを行う場合には、本人確認書類の提示が必要となりますのでご注意ください。なお、詳しくは、振込みを依頼する金融機関に問い合わせてください。
- ③学費納付に要する振込手数料は、納入者負担となります。ただし、本学発行の「振込依頼書」により、みずほ銀行本店、各支店窓口で振込手続をされる場合は、振込手数料は不要です。

学費の延納

- ①経済的事情または特別な理由により学費を期限内に納入できず延納を希望する場合は、その納入期限日までに、本学所定の「学費等延納許可願」を提出してください。なお、学費が所定の手続きを経ずに未納の場合は、学則により除籍となりますのでご注意ください。
- ②「学費等延納許可願」には、その事由を具体的に記載して、本人及び保証人が各人自署捺印後、財務課に提出してください。学生が保証人欄に記載することは、原則認めません。保証人が自署捺印していないと判断される場合には、事情を学生本人にヒヤリングの上、直接保証人に財務課より連絡をとる場合もあります。「学費等延納許可願」用紙は財務課にあります。

- ③延納を許可される期間は、最長で春学期は7月10日・秋学期は1月10日（各学期とも金融機関の休業日にあたる場合は金融機関の翌営業日）です。この期間を超える延納は認められません。
- ④経済的な理由等により学費納入期限までに学費の納入が困難になった場合は、事由により奨学金貸与等の対象となる場合がありますので、速やかに学生支援課または財務課に相談してください。
- ⑤学費納入期限までに学費の納入がない場合は、その学期の試験が受けられないほか、図書の利用、各種証明書の交付も受けられません。

その他の注意

- ①当該学期以降、次学期開始日前日までに「退学願」を教務課に提出し、教授会において承認された場合には、次学期の学費等の支払は免除されます。
- ②学期途中で、休学、退学する場合は、その学期の学費等を納入しなければなりません。（学費未納のままでの休学、退学は認められません。）但し、当該学期開始日前日までに「休学願」を教務課に提出された場合は、休学期間に応じた在籍料（各学期75,000円）のみの納付となります。
- ③「振込依頼書」はコンピュータで印字されます。出力される保証人（父母等）の住所・氏名等は、学生諸君が入学手続の際に提出した書類にもとづき処理していますので、保証人の住所・氏名等の変更がある場合は、必ず「変更届」を学生支援課に提出してください。
- ④「振込依頼書」を紛失した場合は、財務課で「振込依頼書」再交付の手続をとってください。
- ⑤学則は学生諸君が大学に在籍する期間、学費納入をはじめとし、従うべき規則をまとめたものですので、必ず目をとおしてください。（学則は年度により改訂されることがあります。）

2. 学費等一覧

[博士前期課程]

(単位：円)

		納入区分	春学期	秋学期	合 計
		納入期限	4月10日※	9月30日	
入学 金・ 学費	*入 学 金		224,000	0	224,000
	授 業 料		315,000	315,000	630,000
	施 設 設 備 拡 充 費		126,000	126,000	252,000
	実 験 研 究 費		55,500	55,500	111,000
	小 計		720,500	496,500	1,217,000
委 託 会 費 等	健 康 診 断 料		4,810	0	4,810
	傷 害 保 険 料		2,230	0	2,230
	*工友会(同窓会)会費		7,500	7,500	15,000
	小 計		14,540	7,500	22,040
合 計 (他学出身)			735,040	504,000	1,239,040
*合 計 (本学出身)			503,540	496,500	1,000,040
休学者	在 籍 料		75,000	75,000	150,000

(納入期限日が金融機関の休業日にあたる場合は、金融機関の翌営業日となります。)

※新入生は入学手続時に納入済み

〔博士後期課程〕 (単位：円)

		納入区分 納入期限	春学期	秋学期	合 計
			4月10日※	9月30日	
入 学 金 ・ 学 費	*入 学 金		224,000	0	224,000
	授 業 料		315,000	315,000	630,000
	施 設 設 備 拡 充 費		126,000	126,000	252,000
	実 験 研 究 費		55,500	55,500	111,000
	小 計		720,500	496,500	1,217,000
委 託 会 費 等	健 康 診 断 料		4,810	0	4,810
	傷 害 保 険 料		2,230	0	2,230
	*工友会(同窓会)会費		5,000	5,000	10,000
	小 計		12,040	5,000	17,040
合 計 (他学出身)			732,540	501,500	1,234,040
*合 計 (本学出身)			503,540	496,500	1,000,040
休学者	在 籍 料		75,000	75,000	150,000

(納入期限日が金融機関の休業日にあたる場合は、金融機関の翌営業日となります。)

※新入生は入学手続き時に納入済み

*入学金／工友会(同窓会)会費／合計(本学出身)について

本学出身者は、入学金が免除され、かつ、工友会(同窓会)会費は学部にて徴収済みのため、他学出身者と合計が異なります。

〔備 考〕

- ①入学金は、入学初年度だけ徴収します。
- ②授業料、施設設備拡充費、実験研究費は、毎年度見直しが行われます。
- ③授業料、施設設備拡充費、実験研究費は、年2回に分けて徴収します。
- ④委託会費等のうち、健康診断料、災害傷害保険料(学生教育研究災害傷害保険、学生団体傷害保険)は、毎年度の初めに徴収します。また、年度によって改定される場合があります。
- ⑤工友会(同窓会)会費は、年2回に分けて徴収します。(基本会費30,000円を分割して徴収します。)
(博士前期課程＝基本会費30,000円÷2年間＝15,000円/年)
(博士後期課程＝基本会費30,000円÷3年間＝10,000円/年)

学籍上の届出・願出

教務課扱い

- 忌引届** 父母・祖父母・兄弟姉妹が死亡したときに提出します。
保証人が死亡した場合は、学生支援課で保証人変更届等の手続きをしてください。
- 休学願** 事故、病気など正当な理由で、3か月以上欠席せざるをえない場合、保証人連署の上、提出して下さい。休学は原則として最長1年以内とし、休学期間に応じた在籍料を納入しなければなりません。また、休学期間満了とともに復学するものとし、その時期は学期のはじめとします。
- 退学願** やむをえない理由で、退学しようとするときは、保証人連署の上、退学願を提出しなければなりません。在籍する学期分の学費を納入していないと、退学は認められません。

学生支援課扱い(※各種届出用紙は学生支援課にあります)

氏名変更届

学生の姓名に変更があったときに提出します。戸籍抄本または氏名変更後の住民票を添付してください。

住所・電話番号変更届

学生本人または家族の住所・電話番号に変更があったときに提出します。

保証人変更届

入学時に提出した「誓約書」に署名捺印している保証人を変更するときに提出します。

自然災害、身内の不幸、事故等に遭われたときは

実家が風水害や地震で被害を受けたとき、保護者が不幸にも死亡したとき、学生本人が事故や病気によって30日以上欠席をせざるをえなかったときは、事後直ちに学生支援課に報告してください。学内規程などにより、当該者には見舞金・弔慰金などをお渡しします。

証明書等一覧

- ※1 自動証明書発行機にて即日発行となります。
ただし、英文の証明書は取扱窓口申請してください。
- ※2 健康診断証明書は、自動証明書発行機で手数料を支払い、申請・受取は健康管理センターとなります。
- ※3 「インターンシップ保険料」は自動証明書発行機で手数料を支払い、キャリアデザインルームに申請をしてください。

種類	扱い窓口	手数料	交付日
学生証再交付	学生支援課	1,000円	翌日午後
通学証明書		無料	即日
※1 学生旅客運賃割引証		無料	即日
※1 在学証明書 (英文)	教務課	200円 (500円)	即日 (1週間後)
※1 成績証明書 (英文)		200円 (1,000円)	即日 (1週間後)
※1 卒業(修了)見込証明書 (英文)		200円 (500円)	即日 (1週間後)
卒業(修了)証明書 (英文)		200円 (1,000円)	2日後 (1週間後)
教員免許状受得見込証明書		500円	2日後
学力に関する証明書 (教職に関する証明書)		500円	1週間後
大学院調査書		500円	5日後
人物調査書		学科事務室	無料
推薦書	無料		3日後
その他の証明書	学生支援課または教務課	窓口にて確認すること。	
※1 追試験料	教務課	500円	
※1 再試験料		2,000円	
※1 仮受験票		300円	
※2 健康診断証明書	健康管理センター	200円	翌日午後
※3 インターンシップ保険料	キャリアデザインルーム	210円	即日

自動車・バイクによる通学

本学では、自動車・バイクによる交通事故が多く発生しているため、車・バイクによる通学は「自粛」としています。

学内には学生用として、2箇所の駐車場がありますが、この駐車場は、夜遅くまで卒業研究等があり、公共交通機関が利用できない学生のための駐車場です(入庫当日中に出庫するのが原則ですので、一晩中停めることはできません)。台数が限られているので、必ず駐車できるとは限りません。また、駐車状況によっては入出庫できなくなる場合もあります。従って自動車通学をせざるを得ない学生は、事前に大学周辺の民営駐車場を契約しておく方が良いでしょう。民営駐車場についてはNITクリエイトでも斡旋しています。

なお、本学駐車場内における被害(盗難、事故、破損等)については、大学は一切責任を負いませんので、あらかじめ了承願います。また、バイクについては全て登録制となっており、未登録車は入構できません。(登録は学生支援課で手続きしてください)

前記の通り、本学では自動車・バイクによる通学は自粛とされていますが、やむを得ず通学に使用する場合は、交通ルールを順守し、いかなる理由があっても飲酒運転や暴走行為、改造車などによる騒音発生等を行わないことを厳守してください。

学生生活の手引

違反駐車・迷惑駐車の禁止

大学周辺の道路上には駐車できません。路上駐車はもちろんのこと、店舗等の駐車場への違反駐車や迷惑駐車は、絶対にしないようにしましょう。(警察への通報やレッカー移動の対象となります。また、学生駐車場においても、夜間駐車や長期駐車をしている車輛については、盗難車等の事件性を考慮し、警察へ通報します。

自転車に関する注意事項

近年、学生による自転車の通行・駐輪マナーの悪さの苦情や、自転車の盗難等が発生しています。下記の点について十分理解し、注意してください。

自転車の登録について

本学では構内乗り入れの自転車については全て「登録制」になっています。受付は学生支援課の窓口で行っていますが、登録できる自転車は使用者本人の名義で「防犯登録」(購入時もしくは自転車販売店で登録できます)がしてあるものに限りです。なお、窓口での登録時には「防犯登録」の控えを持参してください。「防犯登録」を紛失した場合は、車体に貼付されている防犯登録番号および車体番号部分の写真(スマホ画面で可)を持参してください。

未登録の自転車は撤去処分の対象となりますので注意してください。

自転車のマナーに関する注意点

1. 進入禁止区域での通行はやめましょう。学内では、P77の斜線部分()が進入禁止です。
2. 本学では自転車、バイク、自動車の駐車について、それぞれ「専用」の駐車を設置しています。それぞれの場所P77にて確認してください。特に自転車はバイク置き場には絶対に停めないでください。バイクと自転車の混在駐車は接触による破損や人身事故につながる恐れが非常に高まります。バイク駐車場に停められている自転車は、事前の警告なしに撤去します。撤去に伴う破損等につきましては、本学は一切責任を負いません。
3. 自転車を放置するのはやめましょう。
4. 二人乗りはやめましょう。
違反した場合は、5万円以下の罰金又は科料。
5. 携帯電話・スマートフォンを使用しながらの運転はやめましょう。
違反した場合、6ヶ月以下の懲役又は10万円以下の罰金。
6. まわりの音が聞こえない状態(イヤホンの使用等)での運転はやめましょう。
7. 夜、無灯火での運転はやめましょう。
違反した場合、5万円以下の罰金。
8. 飲酒運転はやめましょう。
違反した場合、5年以下の懲役又は100万円以下の罰金。
9. 傘をさしながら運転するのはやめましょう。
違反した場合、5万円以下の罰金。
10. その他自転車ルールは必ず守りましょう。
違反した場合、様々な懲役又は罰金。

自転車の盗難防止に関する注意点

1. 自分の自転車には堅固な鍵をかけるように心掛けましょう。駐輪場内における盗難、事故、破損等については、大学は一切責任を負いませんので、あらかじめワイヤー錠などを自転車の前後2箇所以上にかけるようにし、被害に遭わないようにしましょう。
2. 自転車の防犯登録は義務付けられていますので、防犯登録を必ず行ってください。
3. 宮代町では、自転車等の放置・防止に関する条例が平成19年7月より施行されました。
この条例により、「指定された自転車放置禁止区域内に放置された自転車を撤収し、引取り手がある撤収自転車については保管料を徴収して返却するが、引き取り手が無い場合には処分する」ことになっています。
4. 盗難にあった場合には、速やかに警察と学生支援課に届け出てください。

自転車窃取は犯罪行為である

1. 放置状態にある自転車であっても、これを勝手に使用した場合には、占有離脱物横領罪・遺失物横領罪となります。
「以前に自転車を盗まれたことがあったのでやってしまった」という弁解は、決して罪を軽減する情状酌量の根拠にはなりません。自転車窃取がれっきとした犯罪であることを認識してください。

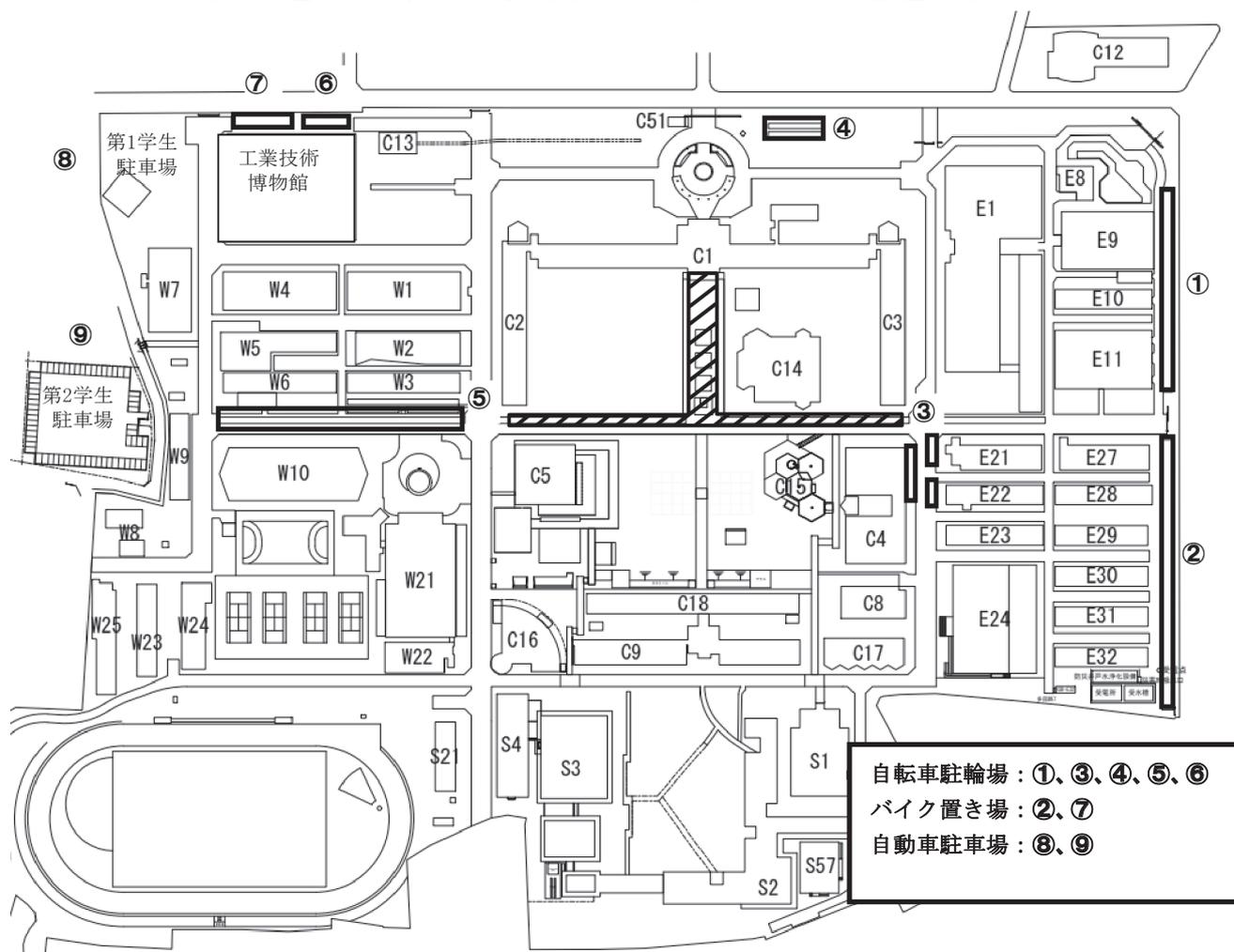
2. 自転車窃取に対する大学の対応

本学では、こうした反社会的な行為を犯した学生に対しては、停学処分を含む厳しい処分をもって対応します。

自転車保険の加入義務化

自転車損害保険には必ず入りましょう。平成30年4月1日より、埼玉県内では自転車を運転する場合には自転車損害保険等への加入が義務となりました。(自転車乗用中の事故によって相手方に損害を与えた結果、判決で1億円近く(約9,500万円)の賠償命令が出た事例があります) 詳しくは埼玉県のホームページで「自転車条例改正」を参照してください。

自転車進入禁止区域及び自転車・バイク・自動車各駐車場



学生生活の手引

交通機関の利用

通学定期券

通学定期券は、通学を目的とした、現住所から大学までの最短区間の定期券です。通学定期券を購入する際は、学生証の裏面にある「通学定期券発行控」に、現住所および通学区間をあらかじめ明記しておいてください。定期券発売窓口にある申し込み用紙に必要事項を記入し、学生証を添えて購入してください。

通学定期券を購入する際に、交通機関によっては、通学証明書が必要なときがあります。通学証明書の交付は、学生支援課窓口で行っています。

☆使用上の注意

通学定期券の貸し借りはもちろんのこと、キセル乗車などの不正乗車は絶対してはいけません。不正乗車が発覚すると、通学定期券の没収と正規運賃の数倍の追徴金が課せられます。

通学定期券を使用するときは、学生証を必携するようにしてください。駅等の係員から請求されたときは、それを提示し

なければなりません。

学割証（JR・学生旅客運賃割引証）

学生が所定の目的（帰省等）のために、片道100kmを超える区間を旅行する場合、学割証を使用することによって、JRの窓口で割引普通乗車券を1人1回に限り購入でき、普通乗車運賃が2割引になります。この学割証は、教務課前の自動証明書発行機で「学校学生生徒旅客運賃割引証」を選択して発行できます。

☆使用上の注意

学割証は、本人以外には使用できません。学割証を不正使用した場合は、多額の追徴金が課せられ、以後学割証の使用ができなくなります。

学割証を使用するときは、学生証を必携するようにしてください。駅等の係員から請求されたときは、それを提示しなければなりません。

団体旅行割引

ゼミナール旅行や課外活動などで、同一行程を旅行する場合は、学生数が8人以上で、引率者（本学教職員）が同行すれば、学生団体割引制度が利用できます。学生の割引率は、普通乗車運賃の5割引です。ただし、引率者は3割引。

団体旅行の申し込みは、旅行代理店やJRの「みどりの窓口」で取り扱っているので、そこで所定の用紙をもらい、学生支援課で証明印を受けてください。

拾得物の扱い

本学のキャンパス内での拾得物は、学生支援課で取り扱っています。拾得物は学生支援課窓口まで届けてください。落とし物、忘れ物をした人は、学生支援課まで問い合わせてください。

尚、拾得物の保管期間は、現金は毎月所轄警察署に引き渡し、物品は大学にて、それぞれ3か月間保管の後処分します。

キャッシュカードなどを紛失したときは

キャッシュカードやクレジットカードを紛失したときは、警察に届け出るとともに、直ちにカード取扱会社に連絡してください。カード番号と連絡先の控えを、カード入れとは別に保管しておくことが大切です。

ATM（現金自動預払機）

1号館2階ロビーの一角に、ゆうちょ銀行のATMが設置されています。

20歳になったら国民年金—学生納付特例制度について

国民年金は、高齢になったときや障害が残ったときなどにも安定した生活が送れるよう、みんなで保険料を負担して支えあう制度です。学生も20歳になったら国民年金の保険料を納付する義務が生じます。ただ、学生の多くは、収入がなかったり少なかったりして、保険料を納めるのが難しいのが現状です。学生は、在学期間中の保険料の納付を猶予し、社会人になってから納めることができる学生納付特例制度というものを利用することができます。申請手続きは、学生が住民登録している市区町村の役所に「国民年金保険料学生納付特例申請書」を提出することになります。申請は毎年必要です。承認期間は4月から翌年の3月までとなっていますので、申請は早めに行うようにしましょう。

20歳からの学生期間中に保険料を納めないでいると、在学中のケガや病気で障害が残っても障害基礎年金が支給されません。また、将来の老齢基礎年金は納めない期間に応じて減額され、まったく受け取れなくなる場合もあります。

なお、国民年金の加入義務は「日本国内に住む20歳以上60歳未満のすべての人」に生じます。すなわち、外国人留学生にも国民年金の加入・保険料納付の義務がありますので、日本人学生同様、「学生納付特例制度」の手続きを忘れないようにしてください。

アルバイト

学生生活を送るにあたっては、学業を第一に考えた生活設計を立てるよう心がける必要があります。アルバイトを行う場合は、学業に支障をきたさないよう無理のない範囲で行い、自分に適した職種を選んでください。

学生支援課掲示板にアルバイト情報コーナーがありますので利用してください。大学が情報提供するアルバイトは、学生

自身が求人先に直接連絡を取り、条件を確認の上、契約を行ってください。また、学内でも従事できるアルバイト（清掃やオープンキャンパス等の案内など）もありますので、興味のある学生は学生支援課まで来てください。

求人情報誌による豊富な求人情報は、アルバイトを探す側にとっては大変便利です。しかし、危険を伴ったり、教育上好ましくないものも含まれています。特に「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」いわゆる「風営法」の適用を受ける業種では、トラブルに巻き込まれる事例が多発しています。この様な業種を避けるのはもちろん「簡単な業務で高収入」などの甘言で誘うアルバイトは、意図せず犯罪に関与し、その後の人生にまで多大な悪影響を及ぼすことがあるので、十分に注意してください。

経済支援について—奨学金など

奨学金制度

本学学生支援課で取り扱っている奨学金には、日本工業大学育英資金、日本工業大学工友会奨学金、日本学生支援機構奨学金、日本工業大学大川陽康奨学金がある。

(1) **日本工業大学育英資金**（貸与：返還時利子無し）

【貸与額】 出願した年度の学費の半額を上限とし、自己資金を差し引いた額

【出願資格】 1セメスター以上在籍し、他の奨学金を受けていないこと。当該学期の学費が未納である者。

【貸与方法】 学費に充当

【返還期間】 1年から最長5年

【募集時期】 7月・1月

(2) **日本工業大学工友会奨学金**（給付）

【給付年額】 200,000円（9月と3月の2回に分けて支給）

【出願資格】 本学に1年以上在籍する学部生および大学院生。卒業後、工友会会員として積極的に活動し、社会に貢献できる者。ほかに給付の奨学金を受けている者は不可。

【給付期間】 1年間（在学期間中1回限り）

【募集時期】 6月

(3) **日本学生支援機構奨学金**（令和2年度）

・日本人学生対象（貸与）

【貸与額】 ○第一種奨学金（無利子）

博士前期課程 88,000円／月額、50,000円／月額

博士後期課程 122,000円／月額、80,000円／月額

○第二種奨学金（有利子）

5万円・8万円・10万円・13万円・15万円／月額

月額を自分で選択できる。

【出願資格】 本学に在籍する優れた者であって経済的理由により修学に困難がある者。

【出願期間】 4月

【返還免除】 日本学生支援機構の第一種奨学金については、「特に優れた業績による返還免除制度」があり、その内容により半額または全額免除の特典がある。学内選考後、機構へ推薦する。

【貸与期間】 採用時より卒業までの最短修業年限

【返還期間】 金額により最長20年

・留学生対象（給付）

給付額 ○学習奨励費 博士前期・後期課程とも 48,000円／月額

(4) **日本工業大学大川陽康奨学金**（給付）

対象学生 本学大学院入学予定者

詳細については在籍する学科にお問い合わせください。

クリーン・グリーン・エコキャンパス～環境にやさしいキャンパスを～

日本工業大学は、サステイナブルキャンパスの充実に向け、平成30年6月1日からN I T-E M S（日本工業大学環境マネジメントシステム）として、進化した環境保全活動がスタートした大学です。

キャンパス内にある全事業所や学生自治会をも含めた形で、全教職員が環境推進活動に取り組んでいます。環境問題は人類最大の関心事、といっても過言ではありません。学生諸君には、ぜひとも、クリーン・グリーン・エコキャンパスの標榜のもと、快適な学習環境づくりを心がけていただきたい。

学生環境方針

日本工業大学学生自治会は、大学とのコミュニケーションや連携を緊密に保ちつつ、学生自身の環境マネジメントシステムを構築し、実行し、継続的改善をはかります。

- 1 私たちは、将来を担う若者として、地球環境に対する有益な取り組みを主体的に行えるように心がけます。
- 2 私たちは、積極的に学び、研究し、環境に優しいエンジニアを目指します。
- 3 私たちは、学生生活を通してマナーやモラルの向上をはかり、自らの学ぶ環境を大切にします。
- 4 私たちは、エネルギーや資源を有効に使い、本学が掲げる「クリーン・グリーン&エコキャンパス」の達成を積極的に推進します。
- 5 私たちは、自らの環境保全活動が、地球住民と調和し、理解され、互いに協力しあえるよう努力します。
- 6 私たちは、この学生環境方針を達成するために、一致協力して環境保全活動を推進します。

私たちが創造していく 21 世紀の合言葉
“目ざせ 3 つの E 改革”

Ecology & Energy & Engineer

平成 28 年 3 月 1 日

日本工業大学学生自治会 中央執行委員会 委員長

喫煙マナーと環境を守ろう

喫煙が健康を害することは、いうまでもないことです。そのため、最近は、いろいろな場所で禁煙化が急速に広まっています。たばこの販売を禁止する国が出現する時代です。わが国でも、学校等多数の者が利用する施設では、受動喫煙の防止に努めなければならない、という健康増進法が施行されました。

喫煙者がたばこを吸わない人の健康を害することは、決して許されるものではないはずです。喫煙者は、このことを十分認識してください。また、母親が喫煙者の場合は、子どもが肺炎、気管支炎やぜん息などを起こす割合が高くなっています。女性の方は特に認識しておくべきでしょう。

各種アンケートによると、本学では、全体の 8 割近くの学生が非喫煙者です。たばこを吸う人は少数派です。この少数派の喫煙者の喫煙マナーが大きな問題となっています。歩行喫煙、吸い殻のポイ捨てなどです。非常識で、‘喫煙資格’のない喫煙者には猛省を促します。大学周辺でのポイ捨てなど、喫煙に対するクレームも多く寄せられています。

本学では、現在、分煙化を行っており、定められた場所に吸殻入れを設置しています。それ以外の場所での喫煙は禁止です。喫煙者は、ぜひ喫煙マナーと環境を守り、他人に迷惑をかけないようにしましょう。

健康増進法

改正法の一部が施行され、令和元年 7 月 1 日より「学校・病院・児童福祉施設等・行政機関の庁舎等」では、原則として敷地内が禁煙になりました。（ただし、屋外で受動喫煙を防止する必要な措置が取られた場所に喫煙所を設置した場合は、その中でのみ喫煙することができます。）令和 2 年 4 月 1 日より全面施行となり、学校・病院・児童福祉施設等・行政機関の庁舎等以外でも多数の人が利用するすべての施設が原則として屋内禁煙となりました。

迷惑行為はやめましょう

学生のモラルやマナーのことで、地域住民から大学へ、次のような苦情がたびたび寄せられています。

- たばこの吸殻・ゴミ・飲料容器などを通学路や住居内に投げ捨てる。
- 大声を発しながら歩く。
- 道いっぱいに広がって歩き、通行や交通の妨害をする。
- 大学周辺の路上に違反駐車する。
- 買い物目的ではなく、店舗が所有する駐車場に長時間駐車する。
- ゴミの分別がなっていない、など。

社会秩序を守れない非常識な学生は、日本工業大学の‘恥’です。違法・迷惑行為は絶対やめましょう。

スケートボード・キックボード等は絶対に禁止

スケートボード・キックボード等の使用は、通行人の迷惑となるだけでなく、ひとつ間違えば死亡事故にもつながりかねません。キャンパス内はもちろんのこと、通学路での使用も絶対にしないようにしてください。

スマートフォン等の使用マナー

スマートフォン等は大変便利なツールですが、他人に迷惑がかからないように、使用する場所をわきまえましょう。電車内、教室、図書館などではマナーモードに設定して通話はしないようにしましょう。もちろん「ながらスマホ」は厳禁です。

悪質ないたずらは厳罰

最近、学内において器物破損や学内環境を乱すような悪質な行為が発生しています。行為者が本学学生であると特定できたときは、学則に基づき、重い懲戒処分に付します。悪質な行為の目撃情報などがありましたら、ぜひ学生支援課まで寄せてください。

その他

学内において無許可で物品の売買はできません。また政治活動や宗教、投資等の勧誘行為は行えません。

一人暮らしの学生諸君へ

親もとを離れ、アパート・マンションなどで自活している学生諸君は、とくに健康には十分注意をはらいながら生活してほしいものです。栄養バランスのとれた食事、適度の睡眠などを心がけ、自らつくる快適な生活環境のもと、シングルライフを楽しんでください。

アパート・マンション等の紹介

現在住んでいるアパート・マンションを借り替えたいときは、大学のキャンパス内にある（株）NITクリエイトの不動産部で紹介してもらうのが便利です。大学周辺にあるアパート・マンションの豊富な物件を取り扱っています。

賃貸契約は順守しましょう

入居に際しては、学生と家主との間で、賃貸契約書を交わすことになります。契約した内容は守らなければなりません。家主の許可なく勝手に室内を改造することや、家主に事前に申し出ることなく、アパート・マンションを転出することは避けてください。

移転したら住民登録を

住居を移転したときは、直ちに「住所・電話番号 変更届」を学生支援課に提出するとともに、新しい居住地の市区町村役所で住民登録をしてください。その際、旧居住地の役所からもらう転出証明書と印鑑を持参します。旧配達郵便局にも転居先を届けておきましょう。

地域のルールを守ろう

大学生は特別で、自由気ままな振る舞いをしていいと思っていないでしょうか。そのように思っているとしたら、大きな間違いです。たとえ学生であっても生活するに当たっては社会を構成する一員として、守るべきルールが存在します。社会人としての自覚を持ち、地域のルールを守りましょう。

☆注意事項

- 日常生活において、近隣の住民に迷惑を及ぼすような騒音を発しないこと。
- ゴミの処理は、居住地区によって分別の種類や収集の曜日などが異なりますので、居住する地域のルールにしたがって行うこと。
- 転居等の際に粗大ゴミを放置しておかないこと。

こんなことにも気をつけよう

- 電気、ガス、灯油などによる火災には十分すぎるほど注意を払いましょう。また、玄関先などに燃えるようなゴミを出したり、寝たばこをしたりすることはやめましょう。万一の事態に備えて、消火器を常備しておきましょう。
- 空き巣狙いによる盗難に対する日ごろの備えをしておきましょう。
- 訪問販売や割賦販売は、できるだけ避けたほうが無難です。無用と思ったらきっぱりと断りましょう。玄関から中に入れてはいけません。相手が執拗だったら警察に通報しましょう。

病気などをしたときのために

病気やケガなどで医療機関を利用するときに必要なのが、健康保険証です。健康保険証が家族と共用で自分専用の保険証を持っていない場合は、保護者から「遠隔地被扶養者証」(P.90)を取り寄せておいてください。外国人留学生は、国民健康保険(P.90)に加入して万一のときに備えましょう。

急病のときは119番へ

一人住まいをされていて急病にかかり、身動きできない状態に陥ったときは、119番に連絡しましょう。携帯電話でもつながります。その際、住所、氏名、年齢、症状などを相手に伝えましょう。出動中の救急車から連絡が入るかもしれないので、救急車が到着するまで電話を使用しないようにしましょう。

日本工業大学周辺の主な医療機関

● 緊急医療機関

東埼玉総合病院 0480-40-1311

● 救急電話相談・医療機関案内

#7119 または 048-824-4199へ (24時間対応 精神科・歯科・口腔外科以外)

医療機関名	電話番号	受付時間帯	休診日
東埼玉総合病院	0480-40-1311	午前：8時30分～11時30分 午後：12時～16時30分 ※時間外急患受付あり。(夜間・休日可。要電話)	土曜午後・日祭日
東埼玉総合病院附属 清地クリニック	0480-37-2511 内科以外は 要予約	午前：8時30分～11時30分 午後：13時30分～16時30分	土曜午後・日祭日
宮代福祉医療センター 六花 (内・小・整・外)	0480-36-2760	午前：8時30分～11時30分 午後：13時30分～15時30分 整形：第2・4週土曜日午前のみ ※時間外急患受付あり。(夜間・休日可。要電話)	土曜午後・日祭日
坪井内科医院 (内・小・皮)	0480-32-0267	午前：9時～12時 午後：15時～18時	水曜・日祭日
鈴木医院 (内・外・整)	0480-37-1500	午前：8時45分～12時15分 午後：14時～17時45分	木曜午後・土曜午後 日祭日
もとむらクリニック (内・呼・アレルギー)	0480-36-2121	午前：8時30分～12時 午後：15時～18時 (日曜日は9時～12時)	水曜・日曜午後・ 祭日
今井病院	0480-32-0065	午前：9時～12時30分 午後：14時～16時30分 (木曜日午後は時間延長)	日祭日
すずき整形外科 クリニック	0480-31-1181	午前：9時～12時 午後：15時～18時30分 (土曜日は9時～15時)	木曜・日祭日
杉戸クリニック (外・内・整・リハ・ 放射線科)	0480-33-0088	午前：8時30分～13時 午後：15時～18時 (土曜日は8時30分～14時30分) (金曜日は内科の午後の診療は16時以降)	木曜・土曜15時以降 日祭日
朝尾整形外科	0480-33-5380	午前：9時～12時 午後：15時～18時	水曜午後・土曜午後 日祭日
いそ整形外科医院	0480-33-8611	午前：9時～11時50分 午後：14時～17時50分	水曜午後・土曜午後 日祭日
杉戸耳鼻咽喉科医院 (予約制)	0480-33-1660 予約番号	予約時間：8時15分～18時30分 (診療時間：9時～13時・15時～19時)	木曜・日祭日
西本眼科 (午後は要予約)	0480-32-2105	午前：9時～11時30分 午後：15時～18時	木曜午後・土曜午後 日祭日
杉戸いわたけ眼科 (予約可)	0480-37-1730	午前：9時～12時30分 午後：15時～18時 (土曜日は午前のみ)	木曜・土曜午後 日祭日
佐久間歯科 (予約制)	0480-35-1151	午前：9時～12時30分 午後：14時～19時30分 (予約状況により早く終了)	木曜・日祭日
高柳歯科医院 (予約制)	0480-37-1181	午前：9時～13時 午後：14時30分～18時 (土曜日は16：30時まで)	水曜午後・日祭日

診療時間や休診日が変わることがあります。各医療機関に電話で確認の上、受診して下さい。

詳細は、健康管理センター医務室 (0480-33-7539) まで、お問い合わせ下さい。

うまい話にご用心

最近、巧妙な手口を駆使して、お金をだまし取ったり、高額な商品売りつけたりなどする悪質な商法が増えています。代表的な事柄を以下に挙げてみましたので、くれぐれも用心するようにしてください。

悪質商法あれこれ

- 路上等で、アンケートなどと言って、販売目的を隠して近づいてくる事業者がいます。店などに連れて行かれると、商品を買うまで帰してもらえなかったりします。(キャッチセールス)
- 安売りや新商品普及の名目で、会場に人を集め、日用雑貨品を無料で配り、おもしろおかしく雰囲気盛り上げ、人々を興奮させた状態で高額な商品売りつける、といった商法があります。(催眠商法)
「タダ」「無料」「格安」「激安」「プレゼント」の言葉につられないようにしましょう。
- 電話で、「あなただけに、耳寄りな話が」「期間限定で紹介している」「プレゼントがあるので取りに来て」などとウマイ話で誘い出し、商品売ったり、契約させたりする商法があります。(アポイントメントセールス)
「選ばれました」「あなただけは特別」「特典」などの誘い文句に惑わされないように。
- 「友だちを誘って入会させ、商品売れば超もうかるよ」などと誘って、販売組織の会員を拡大させようとする商法。(マルチ商法) 思うように会員を誘うことができず、高額な商品買わされるはめになることがあります。
「必ずもうかる」「絶対、損はさせない」といった言葉を信じてはいけません。
- 電話やインターネットなどで、資格が簡単にとれるからと受講を勧められます。あいまいな返事で対応していると、「契約した」と解釈されて、商品と請求書が送られてきます。(資格商法)
契約の意思がないときは、あいまいな返事は避け、はっきり「NO」と断りましょう。
- 全く身に覚えのない携帯電話サイトの利用料や、不当に高額な延滞料の支払いを求める脅迫まがいのメールを送りつけられるなどの被害が多く発生しています。(架空・不当請求) そんな目にあったら、返信や電話はしないようにしましょう。メールの内容は後で証拠になるので、その記録を残しておきましょう。
身に覚えのない場合は反応しないで徹底的に無視しましょう。
- 1回だけ着信音を鳴らして切り、着信記録に電話をかけさせたり、親しげな書き出しのメールを送り、友達だと思わせて開封させ、商品の広告を読ませたり、出会い系サイトやアダルトサイトの案内をすることがあります。不用意に返信すると、自分の情報を事業者に知らせてしまうことになり、その後、不当請求や、しつこい勧誘が繰り返されることがあります。
携帯電話での返信はくれぐれも慎重に。
- 学生の名前を装ったり、学生を加害者にしたりして、もっともらしい緊迫した状況をつくりあげ、家族や親戚などへ電話で、緊急に現金が必要だからと、特定の銀行口座に入金させる手口が急増しています。(振り込め詐欺等)
日ごろから、家族間で対応を考えておき、お互いの連絡を密にしましょう。
- 身分を偽り、公的機関の職員と思わせる格好で訪問し、事実と違うことを言って商品売りつける事業者がいます。(訪問販売) 公的機関の職員が自宅やアパートを訪問し販売することはありません。親もとを離れ、アパート暮らしの学生諸君は特に注意してください。
ドア越しに用件を聞き、不要ならきっぱりと断りましょう。
- 注文もしていないのに、一方的に品物を送りつけてくる場合があります。(送りつけ商法) 代金を支払う義務も、商品を送り返す義務もありません。ただし、14日間は保管しておく義務があり、その後の処分は自由です。代金引換郵便で送りつけてくるものもあります。注文したかどうかわからないものは、その場では受け取らないようにしましょう。

クーリング・オフ

訪問販売などで契約してしまった場合でも、一定期間内なら消費者が一方的に、無条件で契約がなかったことのできる制度です。自分で、クーリング・オフ通知書を書いて、手続きができます。

消費者契約法

事業者の説明に問題があって、消費者が判断を誤って契約した場合などは、取り消しを求めることができます。消費者に一方的な負担を求める契約の条文も無効になります。

トラブルにあったら、最寄りの消費生活相談窓口に相談しましょう。

埼玉県消費生活支援センター (本所) ☎048-261-0999 [月曜日～土曜日 9:00～16:00(日曜日・祝日、年末年始を除く)]
全国統一消費者専用ダイヤル ☎局番なし「188」

学生ローン

「学生証だけで低利融資します」といった誘い文句で勧誘する学生ローンには、くれぐれも注意してください。安易な気持ちで利用すると、たとえわずかな借金でも、利息が増え続け大変なことになりかねません。

サイバー犯罪

あらゆる情報が手に入るインターネット。ますますその普及が広まる一方で、インターネットを利用した犯罪など、さまざまなトラブルが急増しています。こうした被害にあわないように十分注意しましょう。

- 「代金を振り込んだのに商品が届かない」といったトラブルが多くなっています。インターネット・ショッピングにも気をつけましょう。誰もが自由に利用できるインターネット上では、「なりすまし」が存在することがあります。ホームページが突然なくなり、連絡がとれなくなるなどのリスクがあることを十分認識して、次のことを心がけましょう。オンラインマークなどを確認する。取引の過程を印刷して記録を残す。自分のクレジット情報の入力や、代金の前払いは避ける。
- インターネットのサイトを次々に見ていくうちに、自分では、気づかないうちに国際電話につながるプログラムがパソコンに設定されてしまうことがあります。国際電話の利用を休止することもできます。

国際電話不取扱受付センター ☎0120-210364

(オペレータ案内：平日 9：00～17：00/自動音声案内：平日、土日祝日24時間対応)

あやしいプログラムはダウンロードしないようにしましょう。

サイバー犯罪については、警察に連絡してください。

埼玉県犯罪被害者支援室（犯罪被害者相談センター）

犯罪被害や交通事故のあったとき、犯罪や事故で身近な人をなくしたとき、いろいろな形で思い悩むことがあるかもしれません。そんなとき、電話相談やカウンセリングを通じて精神的なサポートをしてくれます。相談は無料で、専門の相談員が相談にあたります。

フリーダイヤル ☎0120-381858〔月曜日～金曜日 8：30～17：15（祝日、年末年始を除く）〕

ストーカー被害の相談は警察へ

ストーカー（悪質つきまとい、監視・のぞき、住居侵入、痴漢、無言電話、わいせつ電話、脅迫電話、ネットストーカーなど）は、被害者にとって精神的負担が重くのしかかります。また、放っておくと、その行為はエスカレートし、身の危険さえ覚えることにもなります。警察に相談するなど早期に手を打つことが、重大な犯罪を未然に防ぐことにもなります。

全国共通の警察相談 #9110（プッシュホン回線専用 携帯電話からもつながります）

埼玉県警察本部 けいさつ総合相談センター ☎048-822-9110（両方とも24時間受付）

インターネットでのマナーとルール

スパム（迷惑）メールが届いたときには、返事をしたり転送しないようにしましょう。出会い系サイト、海賊版ソフトの通信販売、やせる薬などは迷惑メールなので、注意が必要です。

SNS等インターネット上での情報発信

ツイッター、フェイスブック、インスタグラム等をはじめとするSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）への悪ふざけの投稿が、社会的に大きな問題としてニュース等で取り上げられています。他人のプライバシーを侵害したり、公共の場でのいたずら行為を投稿した結果、本人はもとより家族や大学に迷惑をかけ、他人の利益に損害を与えることで法的に訴えられる場合もあります。

本学の学生諸君は、改めて社会の一員として節度と品位を守り、自覚を持った行動を心掛けてください。

SNSの特性を理解し、発信した情報に責任をもち、誤解を与えるような投稿は慎むように注意してください。

不用意に自分の氏名、住所、電話番号などの個人情報を発信しないよう注意してください。

ファイル共有ソフトのダウンロードにも注意をしましょう。著作権者の許諾を得ていない音楽ファイル・ソフトウェア・映像ファイルなどは、アップロードすることもダウンロードすることも違法行為になります。

ハラスメントについて

ハラスメントとは、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、その他個人の尊厳を不当に傷つける言動や行為のことを言います。

(1) セクシュアル・ハラスメントとは、性的な言動等により不快感を与えることです。

性的な言動の例として次のような行為があります。

- ◆性的な発言：性的な冗談、食事等への執拗な誘い、身体的特徴を話題にするなど
- ◆性的な行動：性的関係の強要、身体への不必要な接触等の直接的行為、ストーカー行為、わいせつな画像の掲示・表示など

(2) パワー・ハラスメントとは、優越的な関係を背景とした言動等であって、業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより、就業環境等が害されるものであり、典型的な言動には身体的な攻撃、精神的な攻撃、人間関係からの切り離し、過大な要求、過小な要求、個の侵害などがあげられます。

例として次のような行為があります。

- ◆殴打、足蹴りを行ったり、物を投げつけたりする行為
- ◆人格を否定するような行為
- ◆必要以上に長時間にわたり厳しい叱責を繰り返し行ったり、大勢の前で大声で威圧的な叱責を繰り返し行ったりする行為など

ただし、教育上や職務上の必要かつ適正な注意や指導、指示等は、パワー・ハラスメントではありません。

(3) アカデミック・ハラスメントとは、大学内での地位の違いを利用して、教育・研究活動を阻害したり、相手に不快な思いをさせたりすることです。

例として次のような行為があります。

- ◆学生に教育・研究活動に関係のない私的な用事や雑務を強要する行為
- ◆指導を受ける立場にある者がこれを拒否したことにより、差別的な指導を行ったり、適正な評価を行わない行為
- ◆学生の希望しない研究テーマを押し付けたり、合理的な理由なく退学等勸奨をしたりする行為など

(4) その他、飲酒の強要や風評の流布、個人の信条や性別などに基づく差別的な行為、他の者の意に反する言動であり、他の者にとって不快な言動や差別的な行為なども個人の尊厳を傷つけるハラスメントになりえます。

●ハラスメント防止のために

加害者に悪意はなくても、被害者には精神的・肉体的苦痛を与えてしまうことがあります。加害者とならないために、次の事柄について常に振り返るようにしましょう。

◆日頃の偏見を排除する

知らず知らずのうちに、偏った考えになっていないでしょうか？「男性だから・・・」、「女性だから・・・」など無意識な偏見や、「普通は・・・」という考えが差別的な発言につながる可能性もあります。あらゆる偏見に対して日頃から注意を向けましょう。

◆立場に関係なく互いを尊重する

立場や能力の違いから、相手の人格を否定するような言動や相手の意見を尊重できないことはありませんか？教員、職員、学生などの立場に関係なく、私たちはそれぞれが尊重されるべき人格を持ち、不当に傷つけられることは許されません。常に、相手の気持ちを思いやり接することが大切です。

●ハラスメントの現場を見かけたり、自分が被害を受けたりしたら

ハラスメントと思われる言動・行為を見かけたら、立場・地位に関係なくその場で注意してください。注意により、反省・改善が見られない場合には、相談窓口にご相談ください。

自身がハラスメントの被害を受けた場合には、不快であることを明確に意思表示しましょう。不快と感じるあなたの気持ちは尊重されるべきものです。相手の前での意思表示が難しい場合や、意思表示をしても改善が見られない場合には周囲の方や、相談窓口にご相談しましょう。

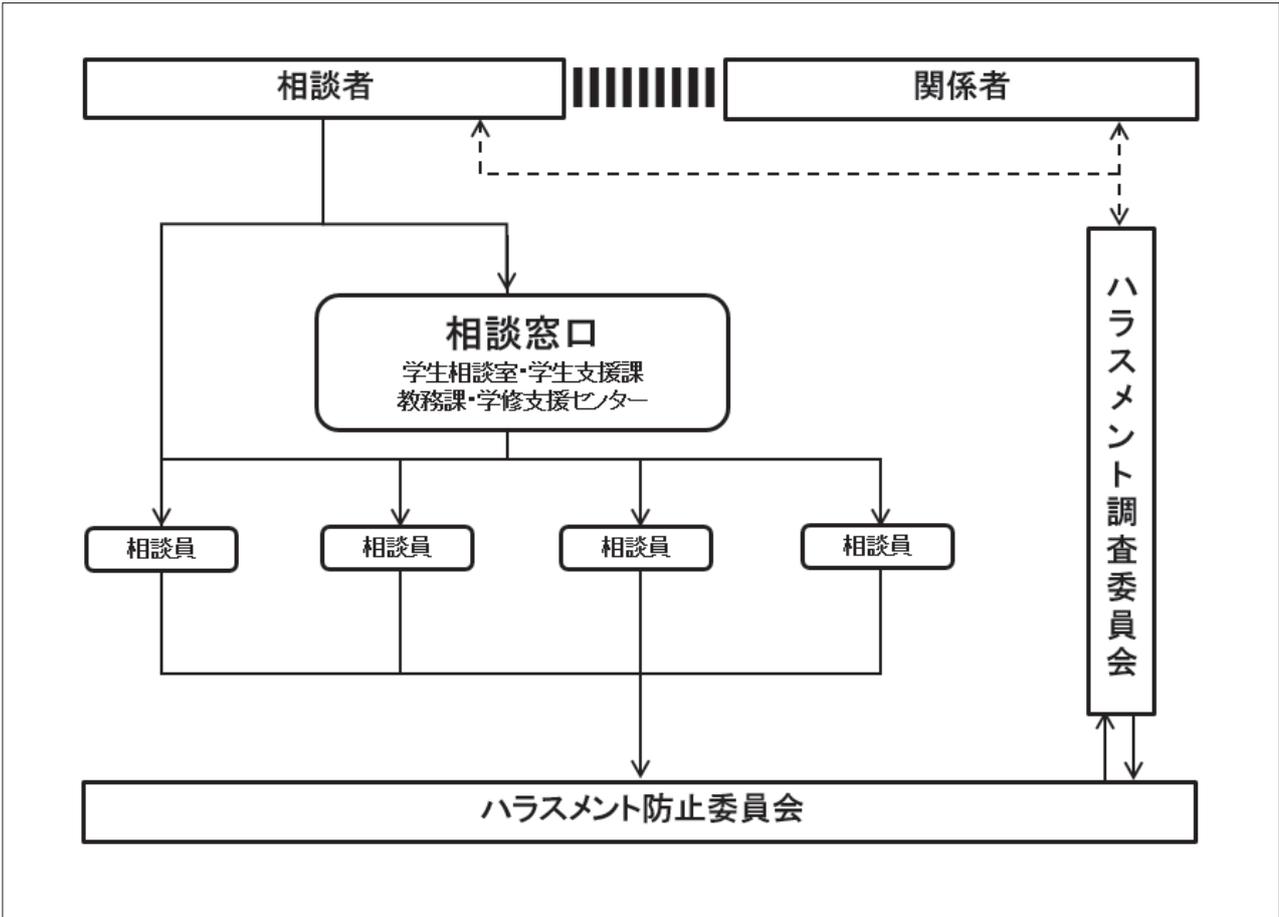
●相談窓口と相談員

本学では、「日本工業大学ハラスメント防止等に関する規程」及び「ハラスメント防止・対応ガイドライン」を制定しています。また、「ハラスメント防止の手引き」を配布して、その防止に努めています。もし、被害にあった場合は、一人で悩まずに、勇気を持って、下記の相談窓口か相談員まで連絡してください。相談内容や名前等のプライバシーは必ず守られます。相談することが、あなたにとって不利になることはありません。

相談窓口および相談員については、本学のホームページをご確認ください。

URL : <https://www.nit.ac.jp/campuslife/support/harassment>

- ・相談員は、本学常勤の教員・事務職員です。
- ・相談者は、相談員を途中で代えることもできます。



健康管理について

健康管理センター（保健室）

学生をはじめ教職員の健康保持増進のため健康管理センターが設置されています。

健康管理センターでは日常の健康管理のため看護師が常時勤務しています。体調不良時やケガをした場合は、応急処置等を行い、必要に応じて医療機関を紹介いたします。また、健康について気になることがあればご相談ください。

医療機関で感染症（例：新型コロナウイルス、インフルエンザ、麻疹）と診断された場合や、感染症を疑う場合（高熱や発疹など）は健康管理センターに電話やメールで連絡をしてください。判断に迷う場合も連絡してください。

また、有料ではありますがインフルエンザ予防接種も実施しています。

社会的活動としては、AED講習会、熱中症予防講習会や献血を学生の協力を得て行っています。また、健康管理センター窓口にモニターを設置し、体育館・グラウンド日なた・グラウンド日影の暑さ指数（WBGT）の実況値を掲示し熱中症予防に努めています。

定期健康診断

定期健康診断は「学校保健安全法」及び「感染症法」で年1回の受診が義務づけられています。

健康診断の日程が近づきましたらポータルサイトでお知らせします。注意事項を確認の上受診してください。

また、新院生は胸部撮影が必須です。受診出来なかった場合は、健康管理センターまでご連絡ください。

医師による健康相談

週1回（春季・夏季・冬季休暇期間を除く）内科医師による健康相談・肥満に対する運動指導を実施しています。費用負担はありませんので、安心して相談にお越しください。毎週水曜日の15時～17時に来学していますが、医師の都合により変更になる場合があります。ご相談の際は、健康管理センターまでお問い合わせください。

健康診断証明書の発行

定期健康診断を受診した学生を対象に健康診断証明書を発行しています。健康診断証明書は、就職活動・就職課程において必要となります。発行を希望する方は、教務課の自動証明書発行機にて「健康診断書発行申請書」を発行し、健康管理センターへ申し込んでください。受診日より1年以上経過したものは発行できません。

救急セット貸出

対外試合、合宿、研究室のゼミ旅行をする場合には、救急セットの貸し出しをします。必要とする団体は、健康管理センターへ申し込んでください。

献血に協力しましょう

本学では、年2回、集団献血を実施しています。献血によって大勢の人の命が救われています。ぜひ、献血にご協力をお願いします。献血することによって、自分の血液型を知ると同時に、身体のチェックができるメリットもあります。

健康管理センター

TEL:0480-33-7539 アドレス:kenkou-kanri@nit.ac.jp

保険についての基礎知識

本学の学生は、すでに学生教育研究災害傷害保険と学生団体傷害総合保険に加入しています。思いがけない事故などにあい、傷害を受けたときに保険金が支払われますので、よく認識しておいてください。もし、傷害を受けたときは、必ず学生支援課へ報告し、必要な手続きをとることを忘れないでください。

学生教育研究災害傷害保険と学生団体傷害総合保険については、休学期間中は適用されません。

学生教育研究災害傷害保険

次のようなときに発生した災害や事故で、学生が傷害を受けたときは、傷害の程度により保険金が支払われます。

- ① 講義、実験・実習、演習または実技の授業（正課）中
- ② 大学が主催して行う入学式、オリエンテーション、卒業式などの学校行事中

- ③ 大学が教育活動のため所有、使用または管理している施設にいる間
- ④ 大学の施設外で、大学が認めた学生団体が体育活動または文化活動などの課外活動を行っている間
- ⑤ 通学中など

詳細については、学生教育研究災害傷害保険を参照してください。

学生団体傷害総合保険

この保険は、24時間担保傷害総合保険といい、より充実した保険です。

この保険の特色は、次のようになっています。

- ① 正課および課外活動中の傷害はもちろんのこと、日常生活（24時間いつでも）での傷害も対象となります。
- ② 治療日数が1日だけでも適用されます。
- ③ 治療費の金額が、保険金額の範囲内で支払われます。

詳細については、学生団体傷害総合保険を参照してください。

遠隔地被扶養者証は親もとから離れて暮らしている学生に必要です

親もとから離れてアパートなどで学生生活を送っている学生は、医療機関で治療を受けるときに、その場で提示できる保険証がないと実費を自己負担しなければなりません。そのため自分専用の保険証を持っていない場合には、遠隔地被扶養者証を取得しておくことが必要です。

遠隔地被扶養者証を取得するためには、まず、教務課で「在学証明書」を発行してもらい、それを保護者のもとへ送ります。保護者は、自分が加入している保険組合で手続きをして被扶養者証を取得することになります。学生は、それを大切に保管するようにしてください。

外国人留学生は国民健康保険に加入を

外国人留学生は、とくに健康に留意してください。不慣れな生活環境で精神的な苦勞も多いと思います。病気やケガなどで医療機関へ行くと高額な治療費がかかります。治療費の負担を大幅に軽減するためには国民健康保険に加入することです。詳しくは、P.104を参照してください。

知っておきたい知識

エイズ

エイズ（AIDS）は、後天性免疫不全症候群のことで、HIVというウイルスで起こります。免疫力が低下し、さまざまな感染症や悪性腫瘍などにかかりやすくなる病気です。主な感染経路は、性行為による感染、注射器の回し打ちなどによる感染のほか、母子感染があります。

エイズは、外国だけの話ではありません。日本でも急増しているのが実態です。血液検査をすれば、感染しているかどうかわかります。血液検査は、全国の保健所でできます。プライバシーも守られます。感染の予防策としては、性行為の際はコンドームを正しく使うこと。また、麻薬や覚せい剤には絶対手を出してはいけません。HIV感染の危険に関係なく、心身がボロボロになってしまう違法行為です。

急性アルコール中毒

お酒（アルコール）を飲むことによって血液中のアルコール濃度が最高に達するまでには通常30分から1時間かかります。このとき酩酊度（酔いの深さ）はもっとも深くなります。ゆっくり飲んでいけば、その深さを自覚できますが、イッキに飲んだときはアツという間に昏睡状態へ進み、全身麻痺と同じ状態になります。それがさらに進むと呼吸も麻痺して死に至ります。

イッキ飲みや飲めない人にお酒を強要して、急性アルコール中毒を起こさせた場合、強要した人は、過失傷害罪、過失致死罪にも問われかねません。

お酒の無理強いやイッキ飲みは絶対やめましょう。

薬物乱用

最近、大麻や危険ドラッグ等の薬物乱用や販売などの理由で、大学生が逮捕される事件が増えています。

乱用というのは、薬を処方箋に書かれている以外の目的や方法で使用することをいいます。薬物を乱用することにより、使用することを自分でやめることができない状態に陥り、死に至ることもあります。

薬物には、中枢神経を興奮させる作用、抑制させる作用、幻覚を起こす作用などがあります。ヘロイン・コカイン・LSDなどの**麻薬**、**覚せい剤**、**大麻**、**睡眠薬**・**抗不安薬**などの**向精神薬**、**シンナー**・**トルエン**の**有機溶剤**などがあります。最近は、**コーク**や**スピード**といった俗語で呼ばれることも多く、薬物だと知らずに手にしてしまう危険もあります。

薬物乱用は犯罪です。薬物の所持・使用・譲渡・譲受・売買は、法律で厳しく禁止されています。覚せい剤取締法、大麻取締法、麻薬及び向精神薬取締法、毒薬及び劇物取締法があり、懲役10年以下の罰を受けます。

身体に障がいを持つ学生のみなさんへ

本学では、学科および事務局に複数の「障がい学生相談員」を配置しています。

身体障がいにより、大学での学修、生活を送る上で相談したいことがある場合は、気軽に各学科等の「障がい学生相談員」を訪ねてください。

また、相談したい内容により、どこの「相談窓口」がよいか迷ったら、まずは学生支援課を訪ねてみてください。

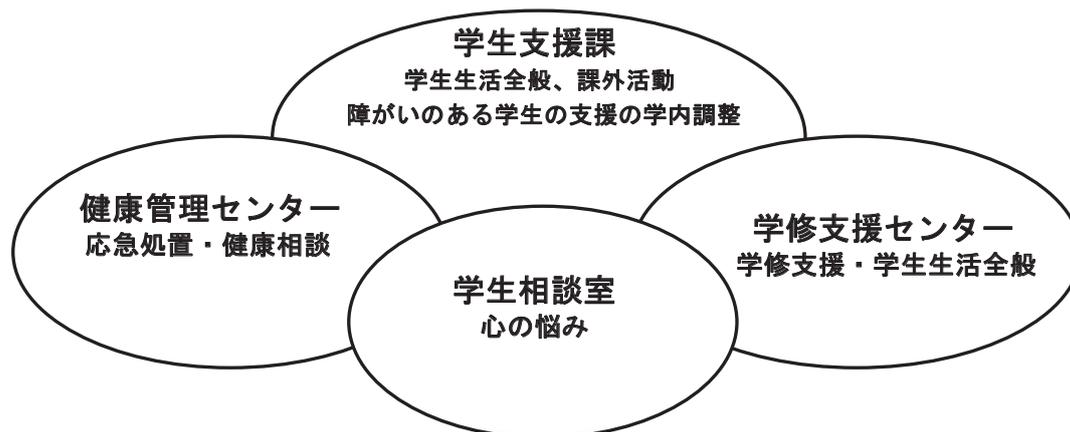
※本人の意に反して障がいに関する情報を公開することはありません。

本学の合理的配慮について

「合理的配慮」とは、障がいや病気などにより、学修および学生生活において支援を必要とする学生に必要な配慮をすることです。

本学では障がいのある学生が他の学生と同じように授業や学生生活を送ることができるよう、大学が過重負担とならない範囲で学修支援をしていきます。

学生支援課が窓口となり、その学修支援がスムーズにいくよう、学内の調整を行います。



学生相談 こころの健康を求めて

学生相談室

大学院は、大学の研究よりもさらに自分の研究を深めてゆく時期であり、研究を突詰めてゆく上での苦悩や専門的なキャリアの形成についての葛藤が強くなります。また、大学生よりも履修などに自由が生まれますが、自由な時間をどのように使っていくかなどについて、大学時代よりさらに高度の自主性・主体性が学生に要求される時期でもあります。

この時期のちょっとしたつまずきは、それを乗り越えることで、自分を成長させてくれる糧となりますが、一方で、そのつまずきを乗り越えられない不安から、一人で悩みを抱えこみ立ち尽くしてしまうこともあるかもしれません。そのような悩みに対し、こころの専門家が問題を一緒に解決してゆく場が学生相談室です。

学生相談室には、公認心理師・臨床心理士が3名勤務しており、カウンセリングを提供しています。カウンセリングとは、「悩み」や「葛藤」などの心理的な問題を通して、自分を見つめなおし、自分らしい問題解決法、自分らしい価値観・人生観を模索していく作業です。プライバシーの保たれた空間で、主に対話を通して、自分の内面の声に耳を傾けてゆきます。どんなことでも相談に応じますので、一人で抱え込まずに相談室にいらしてください。

相談内容（例）

- ・ 人間関係がうまくいかない
- ・ 自分の性格が気になる
- ・ いつも不安で緊張している
- ・ 一人暮らしで気が塞いでいる
- ・ 研究室になじめない
- ・ 家族のことで悩んでいる
- ・ 進路のことで迷っている
- ・ 就職活動が怖くて手をつけられない
- ・ 人と会うのが不安で部屋にひきこもってしまう

相談日と場所

月曜日～金曜日 10：00～17：00

1号館1階106号室

☎0480-33-7612（直通）

予約受付は、電話・FAXで行っております。直接、学生相談室でも予約を承ります。

キャンパスライフの充実を求めて

学内施設の利用について

次のような施設が利用できます。

体育施設

- 体育館、武道場、弓道場、アーチェリー場、野球場、陸上グラウンド、テニスコート等の使用に当たっては、授業を最優先とし、次いで体育会に所属する当該競技団体の練習や試合などの課外活動が優先されます。休暇中、日曜・祝祭日などに、これらの施設を使用したいときは、使用する1週間前までに「大学施設使用許可願」に必要事項を記入の上、健康管理センターの許可を得た後、学生支援課に提出してください。
- 野球場、陸上グラウンドなどの屋外施設の使用に当たっては、グラウンドコンディションによっては、使用許可を取り消すことがあります。
- 体育館内のトレーニングルームを使用するには、健康管理センターで「利用者講習会」を受講し、「受講修了証」の交付を受けた後、健康管理センターに申し出てください。（現在は感染対応の臨時の措置として、学生支援課で受け付けています。）使用に当たっては使用心得を守り、怪我のないように注意を払ってください。
- 体育施設内での喫煙は禁止です。また、体育館での土足も厳禁です。
- 体育施設の使用後は、清掃、整備、除菌消毒をきちんと行ってください。
- 運動後は、体育館内にあるシャワーを自由に使用することができます。
- 学内にはバーベキューができる施設があります。クラブ団体、研究室単位で貸し出しをしますので、利用希望者は学生支援課で申請をしてください。（個人への貸し出しはしていません。）

教室の使用

学生団体が、課外活動などで、授業に使っていない教室を使用したいときは、使用する1週間前までに「大学施設使用許可願」を学生支援課に提出し、許可を得てください。禁止事項等の制約がありますので、遵守してください。

宿泊施設

合宿棟

学生団体が、課外活動などのために宿泊の必要が生じたときは、合宿棟を利用できます。使用に際しては「合宿所使用申込書」に必要事項を記入し、使用月前月の学生自治会主催の合宿棟スケジュール会議に参加してください。（詳細は学生自治会 中央執行委員会まで問合せください）

学友会館

学友会館は宿泊施設を有していますが、学生の宿泊はできません。ただし、学生の保護者は宿泊できます。

学外施設

学生諸君が旅行や合宿のために利用できる施設が学外にあります。学生の家族の方や本学園を卒業した方も利用できます。申し込みは学生支援課で受け付けています。詳細については、巻末の使用要領を参照してください。

赤倉山荘

新潟県の妙高高原にあります。160人収容の大型施設です。大浴場は温泉つきです。近くの赤倉スキー場は、ゲレンデが豊富で、スノーボードやスキーには絶好のスポットです。

スチューデントホール

1階は多目的ホールで、学生は自由に利用することができます。ほかの利用者に迷惑がかからないように節度を守って使用してください。

半地下には、防音が施されたスタジオが9室あり、主に音楽団体の利用に供しています。スタジオの使用は、9:00～16:30までの「第1部」と17:00～21:00までの「第2部」に分けて使用するものとします。第1部の使用希望者は、使用当日に学生支援課において学生証と引き換えにスタジオの鍵を受け取り、使用後は16:30までに鍵を学生支援課まで返却してください。返却時間が守れない場合は、スタジオの貸し出しを禁止することがあります。第2部の使用は、原則として大学公

認の音楽団体を優先とします。使用を許可された音楽団体は、使用当日に守衛室からスタジオの鍵を受け取り、使用後は守衛室に返却をしてください。

スチューデントラボ

正課の実験・実習とは別に、自分で何か“もの”をつくってみたい。そういう学生にお勧めするのがスチューデントラボです。ラボには、部品づくりに必要な工作機械や木工具などが用意されています。専任のスタッフが常駐していて、学生のものづくりに適切なアドバイスなどを行っています。

ラボ独自の企画もあります。学生支援課の掲示板で案内しますので、一度はぜひ参加してください。初心者も歓迎します。

※COVID-19（新型コロナウイルス感染症）対策で、一部課外活動、施設利用に関し制限する場合があります。

日本工業大学学生表彰

平成19年4月1日より、「日本工業大学学生表彰規程」に従って、下表に示す学生表彰を実施しています。詳細については、学生支援課にお問い合わせ下さい。

<表彰名称と学生表彰項目>

	項 目	表 彰 名 称
学業面	学部卒業時において、各学科で学業成績が特に優れ、かつ人物が優秀と認められる者	学長賞
	大学院（博士前期課程）の修了時において、学術研究業績が特に顕著と認められる者	学長賞
	学部の単年度（1、2、3年）において、各学科で学業成績が特に優秀で、人物が優れていると認められる者	エクセレントスチューデント賞
	学部の単年度（1、2、3年）において、各学科でエクセレントスチューデント賞に準ずる学業成績優秀者で、人物が優れていると認められる者	リマークブルスチューデント賞
	学部のカレッジマイスタープログラムにおいて、定められた条件を満足し、特に優秀であると認められる者	カレッジマイスターエクセレント賞
	学部のカレッジマイスタープログラムにおいて、定められた条件を満足したと認められる者	カレッジマイスター賞
	学部卒業時において、英語科目で特に優秀な成績を挙げたと認められる者	英語学習サポートセンター長賞
学生生活面	課外活動において、特に優秀な成績を挙げたと認められる者（国体、世界選手権等出場、リーグ戦ランク昇格、公式試合（対抗戦等）優勝、オリンピック強化選手選出等）	学生支援部長賞
	社会活動において、特に顕著な功績を残し、社会的に高い評価を受けたと認められる者（ボランティア、NPO活動、人命救助等）	学生支援部長賞

学内ネットワークの利用について

本学には、各種の情報システムがあり、学内ネットワークに接続してメールやポータルサイトを利用することができます。

NITネットアカウント

入学時に配布した「NITネットアカウント」のNITネットIDと初期パスワード（変更必須）を卒業まで使用します。

この「NITネットアカウント」で利用できる情報システムは下記です。

- ① 電子メール
- ② 大学ポータルサイト（日本工大サポータル）
- ③ 学内Wi-Fi
- ④ Microsoft 365（Teamsなど）

※初期パスワードは自由に変更できます。

（初ログイン後、必ず初期パスワードを変更してください。また、12桁以上で英数記号組合せの類推されにくいものを使用して下さい。）

※パスワードは通帳の暗証番号に相当するものですので、絶対に人に教えないで下さい。

電子メール

Microsoft 365 のメールサービスを利用しています。

固有のメールアドレスを所有し、卒業まで使用できます。

二段階認証

学外で本学のメールサービスやMicrosoft 365を利用する時は、セキュリティ強化の為、「NITネットアカウント」のNITネットIDとパスワードに加えて、一度限り有効な「ワンタイムパスワード」を用いる二段階認証方式を導入しています。

利用開始には「ワンタイムパスワード」を受信する「NITネットアカウント」のメールアドレス以外のメールアドレスを事前に学内から登録する必要があります。

「ワンタイムパスワード」の登録方法：<https://sso.nit.ac.jp/user/> へ接続してを設定して下さい。



学内Wi-Fi

学内にWi-Fiのアクセスポイントが整備されており、ご自身のノートパソコン・スマートフォンを学内ネットワークに接続できます。

無償で利用できるソフトウェア

下記のソフトウェアを包括契約しており、本学学生は無償で使用できます。

- ① Microsoft Office
- ② TREND MICROウィルスバスター

学園ネットワークサポートデスク

学内ネットワークに関する専門のサポートデスク（問合せ窓口）が1号館（本館）1階の157室内にあります。取扱い時間は平日の9:00～17:00です。

問合せ先 ① メールアドレス：nitnet@nit.ac.jp

② Web(Forms)：<https://forms.office.com/r/iNZ5vrS17V>

<ご利用上の注意>

- ・自動で簡単な回答や受付は送付されますが、対応や回答は受付時間内に手動で行います。
- ・お問い合わせへの回答はメールで行いますので、必ず受信できるメールアドレスをご利用下さい。



LCセンターの利用について

LCセンターは豊富な図書・文献を備えた学術施設、インターネット、AVシステム等が整った情報施設、そして、授業やゼミ、クラブ活動など日常的な交流の場として、多目的に使用されるコミュニティ施設です。

利用する際は、利用方法や注意事項をよく理解しましょう。また、不明な点は2階カウンター担当者に相談して下さい。

入 館

●利用できる者

学部学生、大学院学生、研究員、研究生、科目等履修生、本学卒業生、本学教職員、その他センター長が許可した者。

●開館時間

月曜～土曜 9：00～20：30（授業期間）

9：00～17：00（上記以外）

※変更となる場合があります。LCセンターHPで確認して下さい。

●休館日

日曜日、祝祭日、学園創立記念日、その他臨時に休館する場合があります。

利用上の注意

- 入館には学生証が必要です。忘れないで下さい。
- 図書施設内では静粛にし、携帯電話での通話や飲食等はしないで下さい。
- LCセンター内はすべて禁煙です。
- 掲示に注意し、職員の指示に従って下さい。
- 図書は大切に扱って下さい。

館内案内

●1階

館内案内（サイネージ）

タッチパネル式のデジタルサイネージで、館内の案内、およびイベントの告知をしています。

雑誌ライブラリー

和・洋雑誌や国内の主要新聞、英字新聞および中国・タイの各国語新聞が配架されています。

ギャラリー

学内のさまざまな展示に活用されています。本学の教職員が顧問を務める学生団体も利用できます。

LCセンターのホームページより申込書をダウンロード、記入し、2階カウンターに提出して下さい。

映像学習コーナー

ブルーレイ・DVDなどの視聴ができます。

保存書庫（開架式）

製本雑誌や和・洋図書、修士論文などが配架されています。

第1・2・3ゼミ室

グループでの勉強等に利用できます。（予約不要）

利用時には、ゼミ室（第1・2）入口のボードに利用時間などを書き込んで下さい。

マルチメディア教室

授業や各種イベントを行います。

オープンスペース

LCセンター内で唯一の飲食可能エリアです。

※別途、外部業者運営に委託して営業するカフェ・レストラン「アルテリーベ」が併設されています。

●2階

カウンター

図書の貸出・返却・各種申込やレファレンスを行います。不明な点があれば、カウンター担当者に相談して下さい。

書架（開架式）

参考図書（辞書・辞典類・JISハンドブック）、後援会文庫、文庫・新書、資格・環境関連、指定図書などがあります。

● 3～8階

書架（開架式）

一般図書の他、産業技術史関連図書、学位論文、日本工業大学研究報告、年鑑・白書、本学教員著作、JIS本体などが配架されています。

* 書架から出した図書は、自分で書架に戻さずに返本台に置いて下さい。

● 9階

貴重図書を保管（閉架式）しています。閲覧希望の場合はカウンター担当者に相談して下さい。

所蔵資料の利用

● 資料の検索

資料の検索は、OPACまたは、スマートフォン用アプリ「Ufinity」で行います。館内にあるOPAC専用端末もしくは、スマートフォン、携帯電話、LCセンターHPからでも利用することができます。操作方法は、OPAC備付のマニュアルを、「Ufinity」はLCセンターHPか館内配布のマニュアルを参考にして下さい。

● 電子資料の閲覧

従来からある冊子体の資料の他、電子資料をLCセンターHPから閲覧することができます。

・ eBook

eBookとは、印刷された書籍の電子版です。電子ブック、電子書籍とも言われます。

学内ネットワークに接続されたパソコンであれば、どのパソコンからでも閲覧できます。また、学内で登録することで、学外でも閲覧できます。電子化されているため、本文内容のキーワード検索や複数資料の横断検索が可能です。

・ 電子ジャーナル

電子ジャーナルとは、Web上で読むことのできる雑誌のことです。

インターネットを通じて、学術雑誌などの目次・抄録（要約）・論文本文などを閲覧できます。

● 日本工業大学学術情報リポジトリ

本学の研究成果、学内刊行物等を電子ファイルで保存・公開する「電子書庫」です。「博士論文」とその要旨、「日本工業大学研究報告」「青塔」などをWeb上で閲覧できます。

● データベース

LCセンターHPから下記データベースで情報の検索・閲覧ができます。ご利用には学内LAN接続が必要です。

名称	特徴
	「JDreamⅢ」は科学技術や医学・薬学関係の国内外文献情報を検索し、外国語で書かれた論文の抄録を日本語で閲覧できます。学協会誌、会議・論文集、予稿集、企業技報、公共資料など約6,000万件の文献情報を収録しています。
	「JapanKnowledge Lib」は約50種類の辞事典、叢書、雑誌を検索できる国内最大級の辞書・事典サイトです。基本検索はすべての辞事典を横断検索できます。また、詳細（個別）検索では各辞事典に応じたオリジナルな絞り込み機能（ファセット）をご利用いただけます。
	「朝日新聞クロスサーチ」は朝日新聞の記事データベースです。1879年の創刊から現在に至るまでの朝日新聞紙面を収録しており、Web上での記事検索・閲覧ができます。また、週刊誌等の記事検索・閲覧や「知恵蔵」「人物データベース」なども利用できます。
	「日経テレコン21」は日本経済新聞の記事データベースです。日本経済新聞をはじめとした日経各紙、企業情報、統計データをご覧いただけます。記事検索のほか、業種・所在地・資本金などによる企業検索、人事情報検索など多様な検索方法があります。サイトを英語に切り換えることで、主要な日経各紙の英訳版などの検索・閲覧も可能です。
	「理科年表プレミアム」は国立天文台が編纂し、大正14年（1925）から最新年度版までの自然科学の全分野を網羅したデータベースです。「暦部、天文部、気象部、物理/化学部、地学部、生物部、環境部」の図表データが収録されています。データはダウンロードして、表計算ソフトなどで編集・加工できます。

一 覧	化学書資料館	「化学書資料館」は国内で出版された化学書を統合的に検索し、閲覧することができるサイトです。日本化学会の編集による専門書・便覧・辞典が147冊、約83,300ページ相当の情報が収録されています。
--------	---------------	--

他にも、CiNii Articles（論文の検索・閲覧）、CiNii Books（全国の大学図書館蔵書検索）など無料のデータベースがあります。詳細は、LCセンターHPを参照して下さい。

●国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、送信サービス参加図書館の館内で、画像の閲覧と複写ができるサービスです。2階カウンター内の専用端末で閲覧できます。国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」利用申込書に記入の上、カウンターへ提出して下さい。

利用サービス

●貸出・返却

貸出には2階カウンターにある自動貸出機を利用して下さい。貸出手続きには学生証が必要となります。返却は、図書をカウンターに提出して下さい。

なお、貸出冊数・期間は利用者によって異なります。

学部1～3年生・留学生別科学生・科目等履修生・研究生	5冊以内	14日
学部4年生・大学院学生・特別研究員	10冊以内	30日
専任教育職員	10冊以内	30日
その他の職員	4冊以内	30日
本学卒業生（工友会）	2冊以内	14日

また、禁帯出資料や雑誌（製本含む）、ブルーレイ、DVDなどの視聴覚資料は貸出できませんので注意して下さい。

*長期休暇中は、貸出期間が長くなります。

●注意事項

- 返却期限日の過ぎた資料があると、返却されるまで貸出・予約等ができません。
- 返却期限日を過ぎると、一定日数貸出ができなくなります。
- 図書の「また貸し」や、学生証の貸し借りはしないで下さい。
- 無断持ち出しはやめて下さい。
- 出入り口にはBDS（Book Detection System）が設置されており、貸出手続きが済んでいない資料や禁帯出の資料が通るとブザーになります。

●予約図書の申込

借りたい図書が貸出中の場合、予約することができます。貸出予約申込書に記入の上、カウンターへ提出して下さい。

●図書の購入希望

希望する図書がある場合、希望図書購入申込書に記入の上、カウンターへ提出して下さい。購入の可否については、2階コピー機横に掲示します。

●「マイライブラリ」サービス

図書館の情報に関する個人のページで、学内外からアクセス可能です。
LCセンターHPから貸出状況や履歴、返却期限日などを確認することができます。
利用には登録が必要です。マイライブラリ申請書に記入の上、カウンターへ提出して下さい。

●A V（視聴覚）設備の利用

ブルーレイ、DVDなどの視聴覚資料は1階にある映像学習コーナーで利用できます。

●複写サービス

コピー機は、1階・2階・4階・に設置されています。

LCセンターで所蔵している資料をコピーする場合は、著作権法に触れるような違法コピーはしないで下さい。著作権法の詳細は、コピー機に掲示されています。

●プリンターサービス

ご自分で作成した資料をコピーする場合は、USBに保存後、1階学習コーナー、および2階に設置のコピー機をご利用下さい。

●LCセンターHP

HPでは、開館カレンダーやLCセンターからのお知らせを見ることができ、OPAC、各種データベース、電子資料が利用可能です。

日本工業大学LCセンター図書館 <https://library.nit.ac.jp>

●刊行物

LCセンターでは、「LCセンター利用案内」「LCセンターガイド」（利用方法等の案内）「青塔」「LCセンターニューズレター 息抜きの散歩道」を発行しています。

●イベント

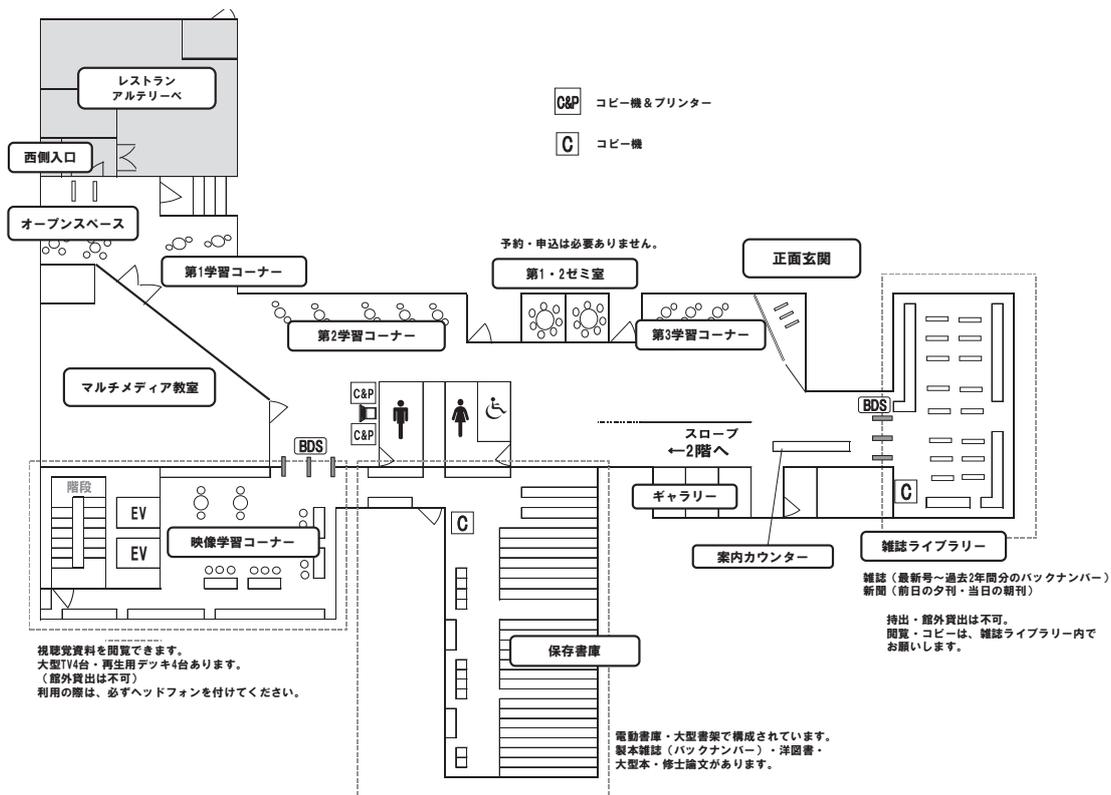
館内オープンスペースにて年2回「ライブラリカフェ」を開催しています。本学教員を講師にお迎えし、研究のエピソードや裏話を交えたトークとコーヒーブレイクで、気軽に先生と会話ができます。

図書や文献の探し方・使い方、その他利用についてわからないことがありましたら、カウンター担当者に相談して下さい。

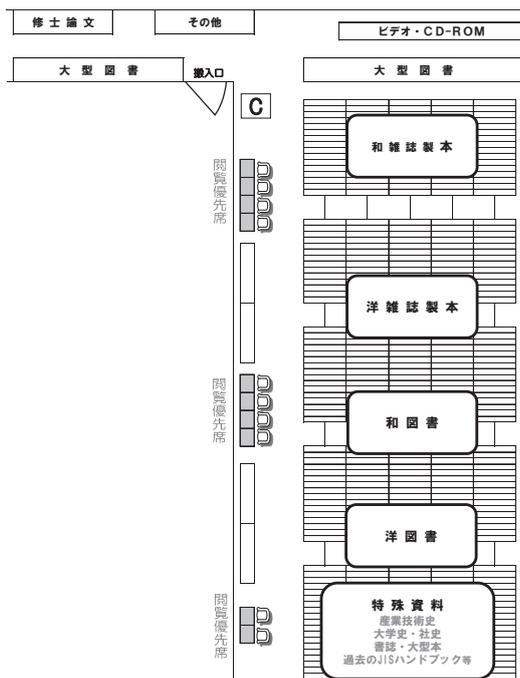
※LCセンターの利用サービスは、変更になることがあります。随時LCセンターHPでお知らせしますので、確認して下さい。

各階案内図

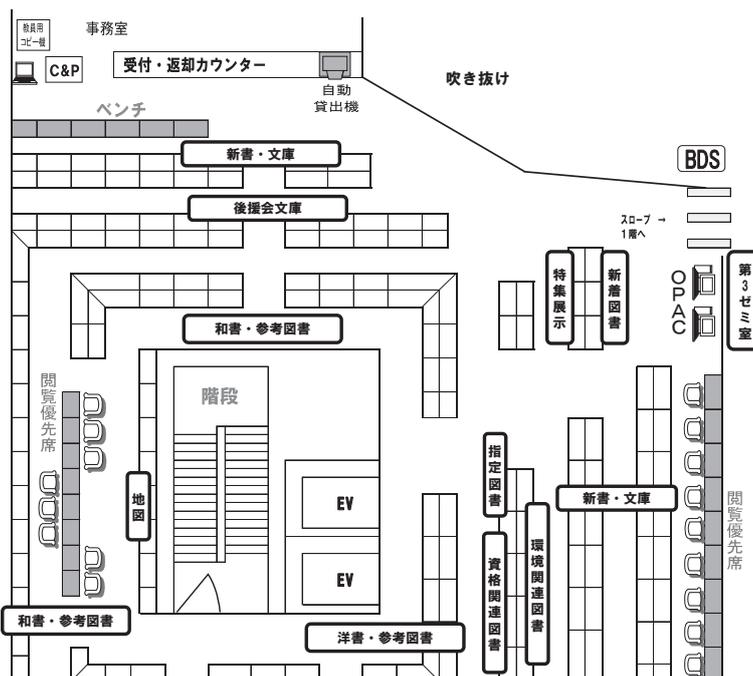
< 1 階 >



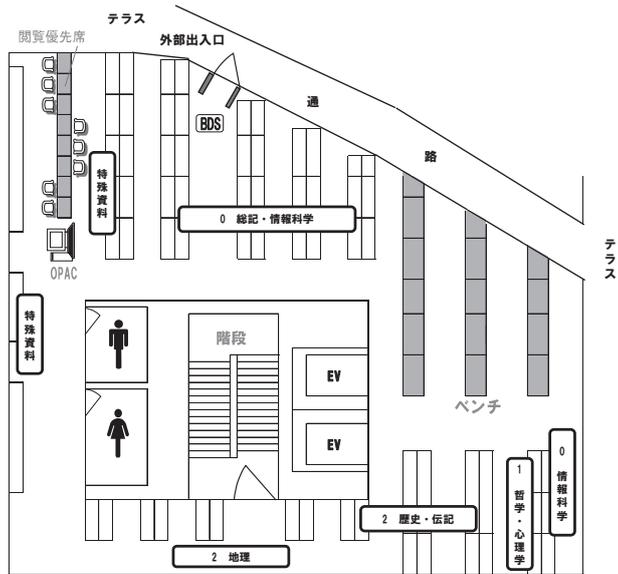
< 保存書庫 >



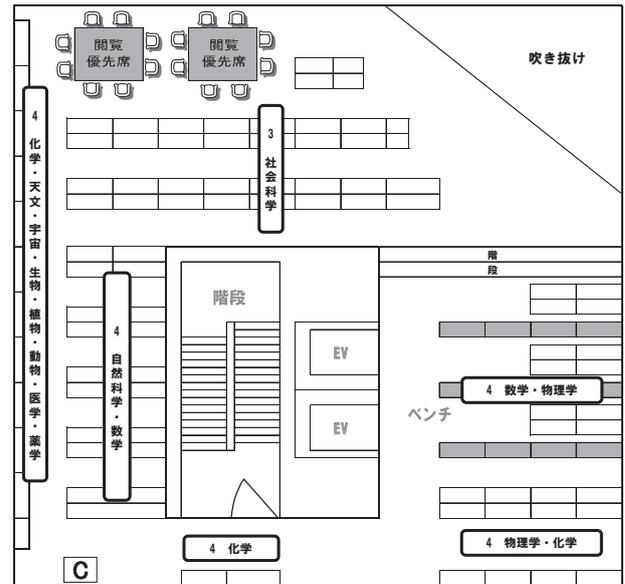
< 2 階 >



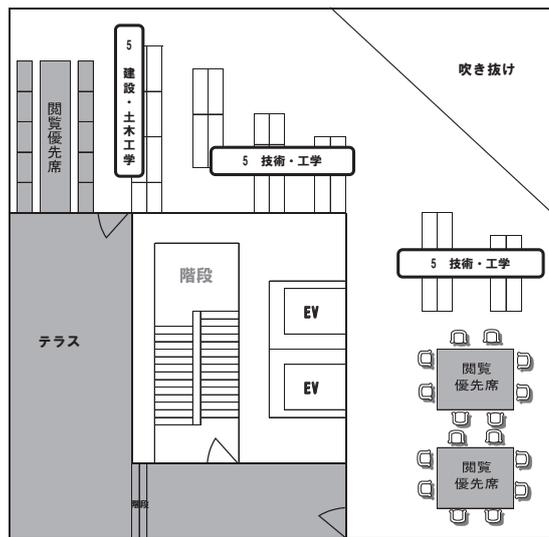
< 3階 >



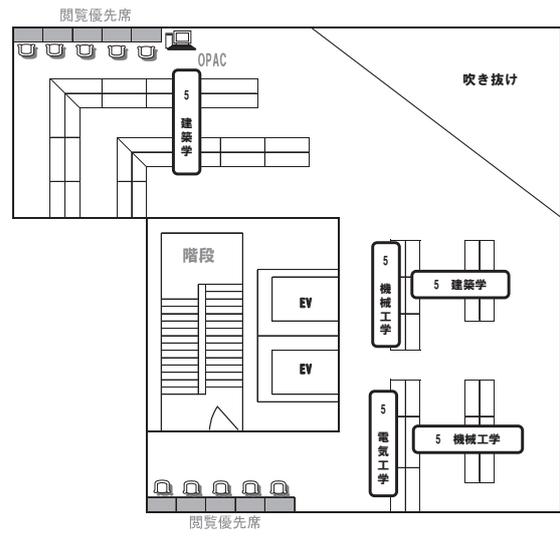
< 4階 >



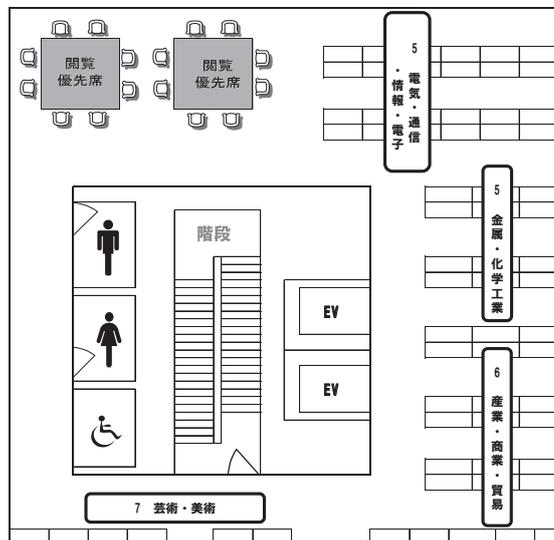
< 5階 >



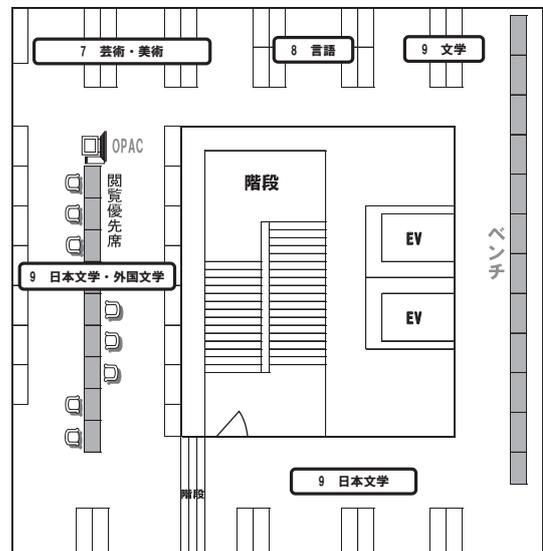
< 6階 >



< 7階 >



< 8階 >



学生生活の手引

外国人留学生のためのインフォメーション

☆日本に滞在するための注意事項

留学生にとって、とても大切なことが書かれています。

難かしい日本語もあるので、わからない時は「学生支援課まで相談」してください。

在留資格

留学生として日本の大学に入学するためには、在留資格が「留学」となっていなければなりません。大学に進学する時は、在留資格を「留学」に変更しておく必要があります。

留学生が、日本工業大学を除籍や退学になった場合には、ただちに帰国しなければなりません。帰国しない時は、不法滞在者となります。

在留カード

在留カードは、中長期在留者に対し、上陸許可や、在留資格の変更許可、在留期間の更新許可などの在留に係る許可に伴って交付されるものです。

住居地の（変更）届出

出入国港において在留カードが交付された方は、住居地を定めてから14日以内に、在留カードを持参の上、住居地の市区町村の窓口でその住居地を法務大臣に届け出てください。

引越しをした方は、変更後の住居地に移転した日から14日以内に、在留カードを持参の上、移転先の市区町村の窓口でその住居地を提出をしてください。学生支援課にも届け出なければなりません。（携帯）電話番号の変更も同様に学生支援課に届け出なければなりません。

住居地以外の（変更）届出

氏名、生年月日、性別、国籍・地域を変更したときは、14日以内に地方出入国在留管理官署（入管）で法務大臣に届け出なければなりません。旅券、写真及び在留カードを持参してください。学生支援課にも届け出なければなりません。

「在留カード」を紛失したときは

紛失してから14日以内に地方出入国在留管理官署（入管）へ再交付を申請しなければなりません。申請の際には、在留カードを持参する代わりに警察署で発行される「遺失届受理証明書」（もしくは、その受理番号）を持参してください。

在留期間の更新

留学生の在留資格「留学」の在留期間は、最長4年3月です。在留期間が4年未満の場合、本学在学中に在留期間の更新をする必要が生じるので、覚えておいてください。

【登録のための提出書類】

- ① 在留期間更新許可申請書
- ② 在学証明書
- ③ 成績証明書
- ④ パスポート
- ⑤ 在留カード
- ⑥ 経費支弁者の証明書類（前回の更新時からのもので、預金通帳、送金証明書等のコピー）
- ⑦ 手数料納付書（4,000円の印紙を貼付）

みなし再入国許可

有効な旅券及び在留カードを所持する外国人の方が、出国する際、出国後1年以内に本邦での活動を継続するために再入国する場合は、原則として再入国許可を受ける必要がありません。出国する際に、必ず在留カードを提示してください。

☆在留期間更新等の申請取次

本学では、在留期間の更新、資格外活動許可（在留期間更新と同時に申請する場合に限る）につきまして、留学生の代わ

りに、学生支援課職員が在留申請オンラインシステムにより、申請取次を実施しています。希望者は学生支援課に申し出てください。なお、留学生本人が申請に行く場合は、学生証を持参してください。

在留資格の更新に当たって最も重要なことは、留学生の本分である学業に取り組み、所定の単位を修得していることです。在留資格を更新したら、必ず学生支援課に届け出てください。

アルバイト

外国人留學生がアルバイトをするときは、資格外活動の許可が必要です。許可があってもアルバイト時間には制限があります。違反しますと、日本から退去強制および罰則の対象になります。次のことについては十分認識しておいてください。

◆資格外活動許可書

アルバイトをするためには、「資格外活動許可書」が必要です。資格外活動許可申請書を出入国在留管理局（入管）に提出して、許可書を受けることとなります。資格外活動許可書は、学生支援課に提示してください。

◆アルバイト時間

アルバイトは1週28時間以内。ただし、長期休業中は1日8時間以内。

風俗営業や性風俗特殊営業の店や会社でのアルバイトは禁止されています。

学生支援課に申し込みがあったアルバイト情報は、**学生支援課の掲示板に掲示**されます。

☆医療・保険について

健康管理

外国人留學生は、母国の文化や習慣と異なる日本で生活していくためには、何よりも健康であることが必要です。健康には十分留意しましょう。大学には、次のような施設があります。

◆保健室

体育館の脇に、「健康管理センター」があり、その中に保健室があります。保健室には、看護師が常駐しています。軽微なケガや初期の風邪程度なら治療ができますし、健康相談にも応じています。そのほかにも、毎週水曜日（午後3時～5時）に医師による健康相談も行っています。（医師の都合により変更になる場合があります。毎月掲示をしますので、確認してください。）無料ですので、気軽に利用してください。

◆健康診断

外国人留學生は、大学が行う定期健康診断を、1年に1回必ず受けてください。春入学の学生は3月末に、秋入学の学生は9月末に実施しています。春季・夏季休暇前に詳細な日程を掲示しています。注意事項も含めて掲示を確認の上、受診してください。受診出来なかった場合は、健康管理センターにご相談ください。この定期健康診断は無料です。奨学金などを申請するときや日本で就職試験を受けるときに、「健康診断書」が必要となる場合があります。定期健康診断を受けない場合は、留學生本人が直接医療機関等に行き受診しなければならず、高額な料金を負担することとなります。

国民健康保険

日本に在留中に、病気やケガをして医療機関で治療を受けた場合、高額な医療費を自己負担しなければなりません。医療費の負担を軽くするためには、「国民健康保険」に加入してください。日本に中長期在留者として滞在する外国人は、加入が義務づけられています。「国民健康保険」に加入すると、医療機関で治療を受けた場合に本人が支払う費用は、治療総額の30%ですみます。

本学では、別途傷害保険に一括加入していますので、ケガをしたときは、学生支援課に申し出てください。

◆国民健康保険に加入するには

居住する地域の役所の「国民健康保険担当課」に行き、申し込んでください。国民健康保険に加入するためには、保険料を支払う必要があります。

◆保険料の減免申請

前年度に日本での所得が少ない場合、納付先の役所で減免申請をすると、保険料が減額される場合があります。

毎年1月下旬に、国民健康保険証に記載されている住所宛に、次年度用所得証明用紙が送られてきます。それに必要事項を記入して、期日までに市役所又は役場に返送してください。この手続きを忘れると、次年度の保険料に留学生割引が適用されなくなり、保険料が高くなります。万一期日までに書類を送付し忘れた場合は、保険証を持って居住地の市役所又は役場に行き、必要な修正を行ってください。

☆経済支援について

私費外国人留学生授業料減免奨学金制度

私費外国人留学生授業料減免奨学金（授業料減免奨学金）の制度は、私費外国人留学生（留学生）のうち、学業、人物ともに優れ、経済的理由により就学が困難な者に対し授業料を減免し、経済的負担を軽減することによって、学修活動の充実を図ることを目的としています。減免される額は、入学の時から1ヶ年以内として200,000円を上限とします。

授業料減免奨学金を希望する人は、指定された期間内に授業料減免奨学金の申請をする必要があります。授業料減免奨学金の申請窓口は、学生支援課です。

◆春季入学の場合

入学時の春学期の始めに授業料減免奨学金申請のための手続きを行います。

申請にあたっては、「私費外国人留学生授業料減免奨学金申請書」の提出のほかに、パスポート・在留カード・資格外活動許可書の他、学生支援課が指定する書類を提出します。

申請後、学内の委員会で審査を行い、授業料減免者を決定します。

春学期の減免奨学金分は、秋学期の学費へ充当します。

◆秋季入学の場合

入学時の秋学期の始めに、授業料減免奨学金申請のための手続きを行います。

申請にあたっては、「私費外国人留学生授業料減免奨学金申請書」の提出のほかに、パスポート・在留カード・資格外活動許可書の他、学生支援課が指定する書類を提出します。

申請後、学内の委員会で審査を行い、授業料減免者を決定します。

入学時の学費の納入にあたっては、秋学期分の学費全額を納入してもらいますが、授業料減免奨学金決定者には、秋学期分の100,000円を返還します。次年度春学期は、授業料が減免されます。

◆授業料減免が適用されないケース

次のいずれかに該当した場合は、授業料減免奨学金は適用されません。

- ① 傷病などのため、成業の見込みがないと認められたとき。
- ② 長期間にわたり欠席し、学業継続の意思がないと認められたとき。
- ③ 学業成績または性行不良であると認められたとき。
- ④ 学則に定める懲戒事項に該当したとき。
- ⑤ その他減免奨学生として不適格と認められたとき。

外国人留学生のための奨学金

学生支援課では、外国人留学生のために各種の奨学金を紹介しています。募集要項等を学生支援課の留学生専用掲示板に掲示します。主な奨学金は、次のとおりです。

<留学生受入れ促進プログラム>文部科学省外国人留学生学習奨励費（2021年度実績）

1. 特別追加採用

- ① 応募資格 学業・人物ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難である者
- ② 支給期間 2021年10月（6か月）
- ③ 給付月額 学 部 48,000円
大学院 48,000円
- ④ 採用実績 学 部 3名
- ⑤ 募集期間 9月

<ロータリー米山記念奨学金>（2021年度実績）

- ① 応募資格 日本の大学に在籍する外国人留学生で学部3年以上、大学院博士前期課程、同後期課程2年以上に在籍の者で、奨学会の規約を遵守できる者
- ② 支給期間 課程終了の2年間まで
- ③ 支給金額 学 部 100,000円（月額）
大学院 140,000円（月額）
- ④ 採用実績 大学院 1名
- ⑤ 募集期間 8月下旬から9月下旬

上記以外の奨学金についても、大学に募集があった時点で、掲示板で通知します。

住 居

新しい住居を探したいときや現在の住居からほかの住居へ移りたいときは、大学内にある株式会社NITクリエイト・不動産部へ行き、探すのが便利です。

入居時には、家賃・共益金のほかに礼金、敷金がかかるのが、一般的です。

◆留学生住宅総合補償制度

民間の住宅を賃貸するときは、連帯保証人が必要となります。その保証人に迷惑がかからないようにするため、また、火災などで損害を被ったときのための補償制度です。少ない保険料（1年間 4,000円、2年間 8,000円）で加入でき、安心して留学生活を送ることができます。

就職支援について

学生諸君が卒業後それぞれの希望する職業につけるか否かは、人生を左右する重要なことです。よって、本学では、就職支援委員会を設け、各学科の教員と連絡を密にし学生諸君の就職活動に万全を期して支援します。

就職支援課の業務

就職支援課では、下記のような業務を行っています。

- (1) 渉外業務
 - 採用依頼、求人書類の発送・受理、採否通知の処理
 - 企業の採用担当者との情報交換、求人企業の新規開拓
 - 学外加盟団体等との会議
- (2) 相談・指導業務
 - 就職相談にあたっての指導・助言
 - 就職支援ガイダンス、適性検査等の実施
 - 保護者のための就職ガイダンスおよび就職相談会の実施
 - 「求人NAVI」に関すること
 - 「業界・業種セミナー」・「業界・インターンシップセミナー」の開催
 - 「学内合同企業説明会」・「学内個別企業説明会」の開催
 - 進路希望の登録確認、進路報告の登録確認・集計、活動体験記の登録確認
- (3) 斡旋業務
 - 就職先の紹介、斡旋
- (4) 出版業務
 - 就職活動の手引き、テキストブック
 - 求人ガイド、後援会会員の皆様へ
- (5) その他
 - 就職・進路関連データの集計及び関係官公庁への報告
 - 就職支援委員会の開催

就職支援課の利用について

就職支援課は、1号館2Fにあります。主に企業に関する各種の情報を収集・整理し学生諸君が企業を選択するための便宜を図っています。学年を問わず資料を閲覧したり、インターネットを利用して本学の求人企業情報の検索などもできます。就職に関する相談も随時受付けていますので気軽に利用してください。

本学の就職支援システム「求人NAVI」は学生諸君の就職活動に関する手続きをはじめ、本学に寄せられた1万2千社以上の企業・求人情報の検索など、様々な角度から就職活動を支援できるシステムです。利用に関するお問い合わせは就職支援課窓口までお越しください。

就職支援課からの要望

入学早々の諸君にとって、就職に関してのことはまだ痛切に感じられないと思いますが、ここ数年、諸君を取り巻く就職環境は年々変化しています。就職支援課では、就職活動に支障をきたさないように、学部3年生、大学院1年生を対象に「就職支援ガイダンス」を実施しています。内容は、より実践に近づけ充実したものにするための“企業研究”“自己分析”“筆記試験対策”“面接”等、活動の流れに沿った講座です。必ず出席して内定を勝ち取ってください。

また、卒業生が多数勤務している企業や就職支援課より諸君へ薦めたい企業等を学内に招き、「学内合同企業説明会」や、教室・就職活動サポート室において「個別の企業説明・選考会」を実施しています。この説明会への参加企業は600社以上であり人事担当者との直接話のできるまたとない機会です。毎年就職者の約4割が参加した企業に就職しています。

さらに、ハローワークと連携をとり、週1回、学卒ジョブサポーターによる就職相談を実施しており、Uターン希望者に地元の「求人企業情報」の提供も行っています。

本学学生のために沢山の求人登録があります。この求人票は「ぜひ、日本工業大学の学生を採用したい」という採用意欲の高い企業です。これらの企業の求人内容は、自宅からでも「求人NAVI」を利用して、希望する勤務地や業種などの条件を絞ることによりスピーディーに確認することができます。

今後の就職活動をするにあたり、大いに就職支援課を利用してください。

外郭団体について

NITクリエイト

株式会社NITクリエイトは、学校法人日本工業大学を筆頭に、日本工業大学後援会、日本工業大学工友会及び東工日駒同窓会が株主となり構成されており、「大学の教職員」、「学生の父母」、「卒業生」の会社として大学の発展とともに成長してきました。

学生のキャンパスライフの向上支援を目指し日々業務に取り組んでいます。

食堂部門

ダイニングホール（1000席） 定食類、丼物、うどん・そば・ラーメン、寿司（テナント）など
 キッチン&カフェトレビ（150席） 定食類、パスタ、ピザ、ドリア、グラタン、デザート類など
 スチューデントホール（240席） カレーライスなど
 焼き立てパンコーナー 焼き立てパン、ソフトクリームなど

購買部門（コンビニ）

おにぎり、弁当、パン、菓子、飲料、文具・事務用品、模造紙・ケント紙、製図用品、コピーサービス、書籍（テナント）など

アパートのあっせん

学生のアパート・下宿探しをお手伝いします。大学周辺の豊富な物件をもっており、学生の希望に応じてアパート・下宿等をあっせんします。

損害保険の取扱い

学生に関する学生団体傷害総合保険の取扱いをしています。ほかの損害保険も扱っています。

資格取得支援

自動車運転免許をはじめ2級建築士、宅地建物取引士、施工管理技士等資格取得のための様々な支援・アドバイスを行っています。

日本工業大学工友会

一般社団法人日本工業大学工友会は大学の同窓会組織で、卒業生相互の連携と親睦を図るとともに、母校の発展に貢献することを目的として設立されています。

現在、全国に約41,700人の会員がおり、学内に7の学科支部、国内外に27の地域支部があります。支部の無い地域についても、順次設立を行っていきます。

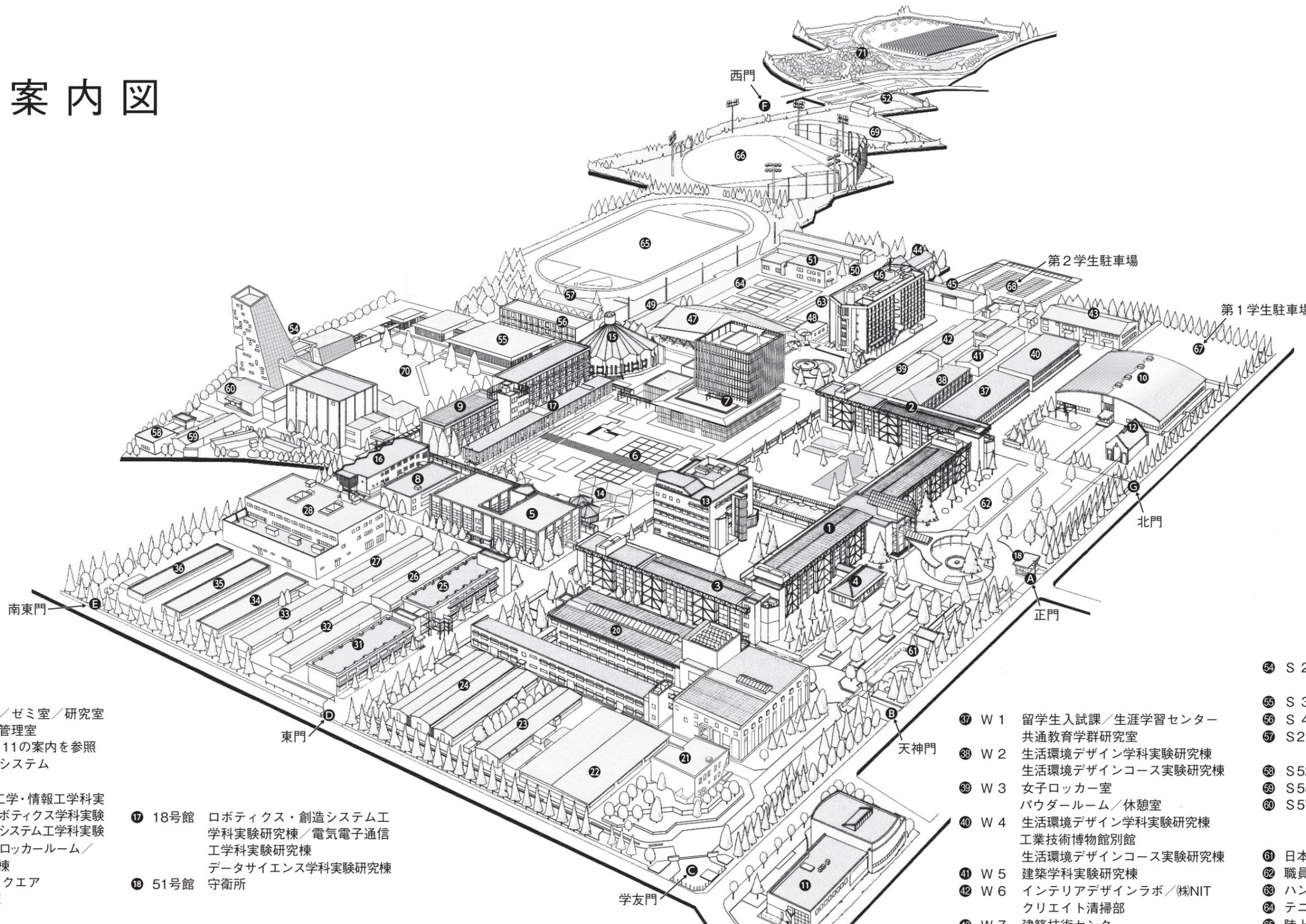
学科支部一覧：機械工学科、ものづくり環境学科、創造システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、建築学科、生活環境デザイン学科

地域支部一覧：栃木県、神奈川県、静岡県、千葉県、岩手県、愛知県、沖縄県、広島県、山口県、青森県、長野県、秋田県、山形県、愛媛県、香川県、徳島県、高知県、埼玉県、福島県、大阪府、兵庫県、岡山県、山陰（鳥取県、島根県）、群馬県、大分県、茨城県、バンコク（タイ）

また、工友会の事業としては、奨学金の給付や部活動・クラブ活動への援助金の支給、卒業式での記念品の贈呈等、在学生（準会員）に対してバックアップを行っております。その他、毎年、大学との共催でホームカミングデーを実施しています。

上記支援に関するお問い合わせ等、工友会事務局は本館中央の階段を上った3階にありますので、お気軽にお越し下さい。

学内案内図



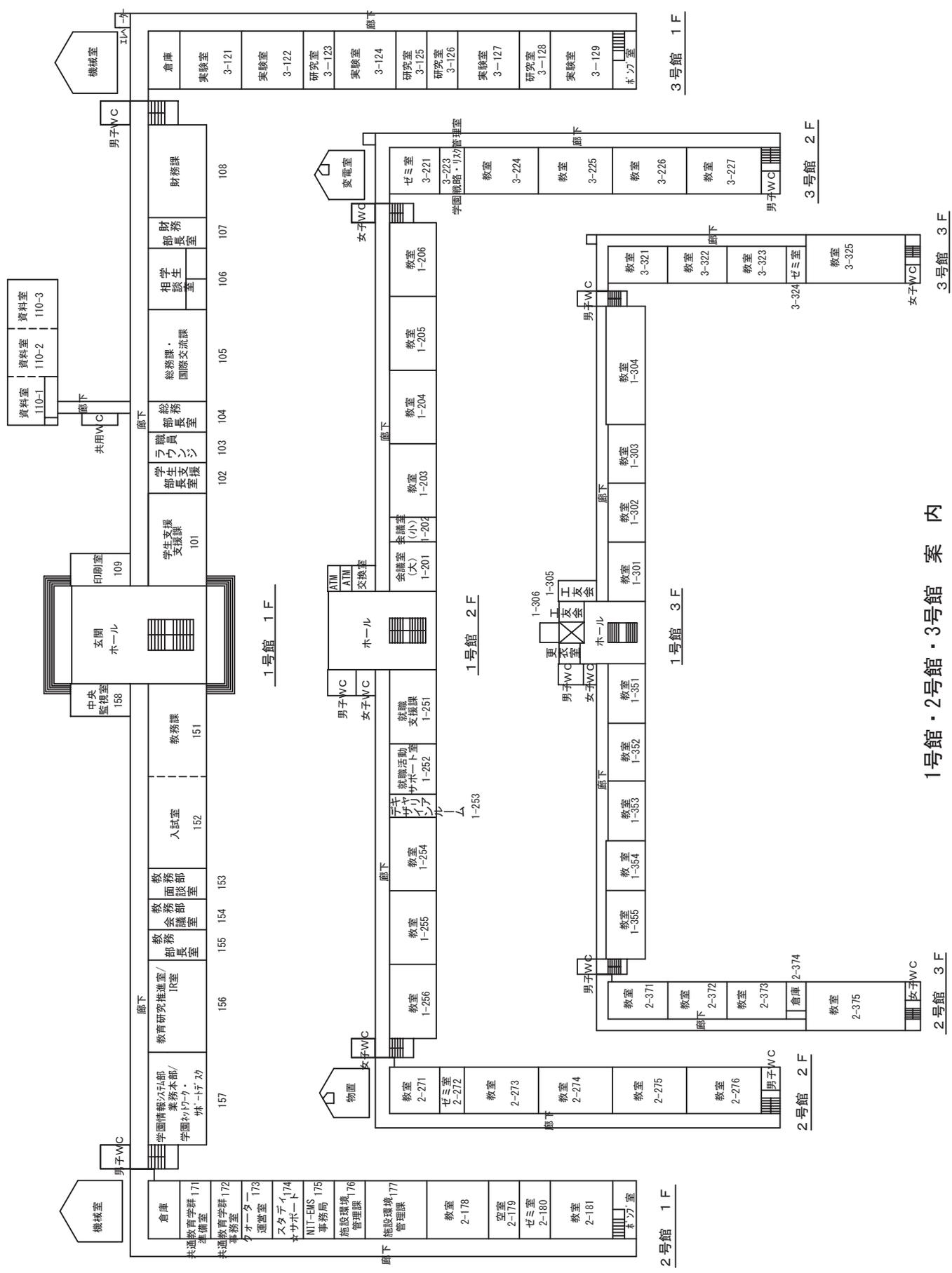
- 1 1号館 本館：教室／ゼミ室／研究室
／各事務課管理室
- 2 2号館 ※詳細はP111の案内を参照
- 3 3号館 太陽光発電システム
- 4 1-1号館 資料室
- 5 4号館 情報メディア工学・情報工学科実験研究棟／ロボティクス学科実験研究棟／創造システム工学科実験研究棟／男子ロッカールーム／共通教育学群棟
- 6 セントラルスクエア
- 7 5号館 多目的講義棟
- 8 8号館
- 9 9号館 電気電子通信工学科実験研究棟
データサイエンス学科実験研究棟
応用化学科実験研究棟
- 10 11号館 工業技術博物館
- 11 12号館 学友会館：N.I.Tホール／会議室／宿泊室
- 12 13号館 蒸気機関車(動態)展示館
- 13 14号館 情報メディア工学・情報工学科実験研究棟
データサイエンス学科実験研究棟
- 14 15号館 スチューデントテラス
(スチューデントサービスデスク、キッチン&カフェ、テレビ)
- 15 16号館 スチューデントホール：多目的ホール／防音スタジオ／軽食堂
- 16 17号館 先端材料技術研究センター

- 17 18号館 ロボティクス・創造システム工学科実験研究棟／電気電子通信工学科実験研究棟
データサイエンス学科実験研究棟
- 18 51号館 守衛所
- 20 E 1 機械工学科・応用化学科
機械実工学教育センター
データサイエンス学科実験研究棟
- 21 E 8 産学連携起業教育センター
- 22 E 9 スチューデントラボ(ものづくり工房)／技術科教育実習室(中学校教諭一種免許「技術」)
- 23 E 10 機械工学科実験研究棟
- 24 E 11 機械工学科実験研究棟
- 25 E 21 ロボティクス学科実験研究棟
創造システム工学科実験研究棟
- 26 E 22 創造システム工学科実験研究棟
電気電子通信工学科実験研究棟
ロボティクス学科実験研究棟
- 27 E 23 電気電子通信工学科実験研究棟

- 28 E 24 応用化学科・物理実験研究棟
- 31 E 27 ロボティクス・創造システム工学科実験研究棟
- 32 E 28 機械工学科実験研究棟(日エテクノ)
- 33 E 29 機械工学科実験研究棟(日エテクノ)
- 34 E 30 応用化学・創造システム工学科実験研究棟
- 35 E 31 創造システム工学科実験研究棟
応用化学科実験研究棟
- 36 E 32 電気電子通信工学科実験研究棟

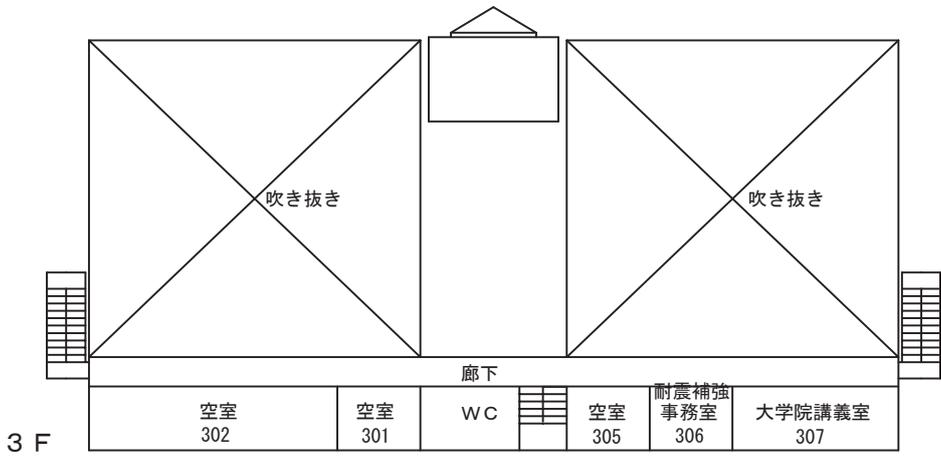
- 37 W 1 留学生入試課／生涯学習センター
共通教育学群研究室
- 38 W 2 生活環境デザイン学科実験研究棟
生活環境デザインコース実験研究棟
- 39 W 3 女子ロッカー室
パウダールーム／休憩室
- 40 W 4 生活環境デザイン学科実験研究棟
工業技術博物館別館
生活環境デザインコース実験研究棟
- 41 W 5 建築学科実験研究棟
- 42 W 6 インテリアデザインラボ／(株)NIT
クリエイティブ清掃部
- 43 W 7 建築技術センター
- 44 W 8 ゲストハウス
- 45 W 9 施設環境管理棟
- 46 W 10 建築学科実験研究棟
建築コース実験研究棟
生活環境デザイン学科実験研究棟
生活環境デザインコース実験研究棟
- 47 W 21 体育館：アリーナ／トレーニングルーム／シャワー室
- 48 W 21-1 健康管理センター(保健室)
- 49 W 22 武道場(柔道・剣道・空手・少林寺拳法)
- 50 W 23 倉庫棟
- 51 W 24 鋳造実験研究棟
- 52 W 58 弓道場

- 54 S 2 LCセンター(図書館)、レストラン
アルテリベー
- 55 S 3 ダイニングホール
- 56 S 4 クラブ棟
- 57 S 21 合宿棟：ミーティングルーム／宿泊室／浴室
- 58 S 52 学生自治会倉庫
- 59 S 55 廃棄物集積所
- 60 S 57 大学倉庫
- 61 日本工業大学天満宮
- 62 職員駐車場
- 63 ハンドボールコート
- 64 テニスコート
- 65 陸上競技場(サッカー・ラグビー場)
- 66 野球場
- 67 第1学生駐車場
- 68 第2学生駐車場
- 69 アーチェリー場
- 70 さくらプラザ
- 71 ヒートアイランド実験施設(スケールモデル)／多目的運動広場(予定)
- A 正門
- B 天神門
- C 学友門
- D 東門
- E 南東門
- F 西門
- G 北門

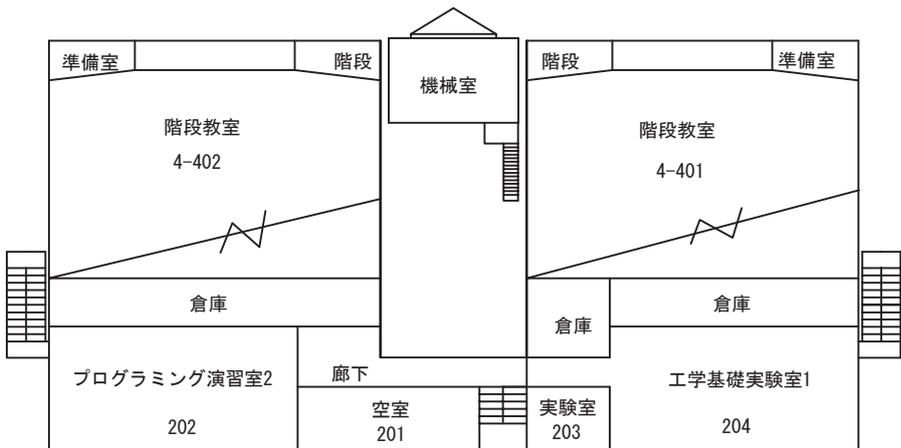


4号館 案内

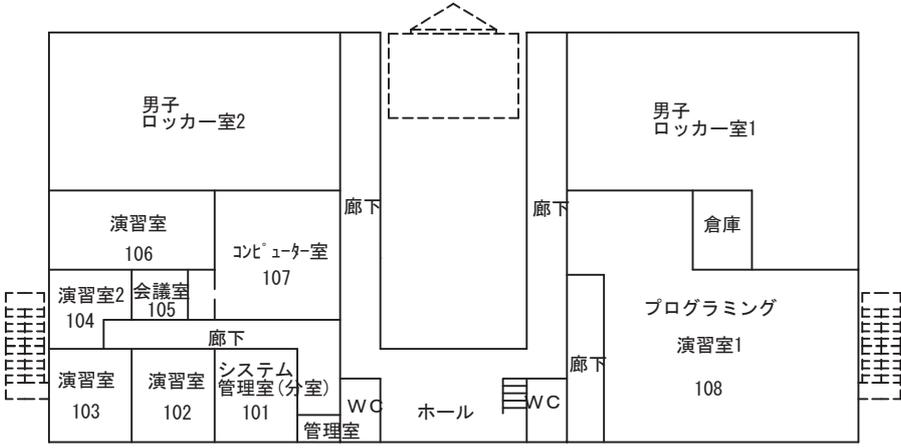
情報メディア工学科実験研究棟
 ロボティクス学科実験研究棟
 創造システム工学科実験研究棟
 情報工学科実験研究棟
 共通教育学群棟、男子ロッカー室



3 F



2 F



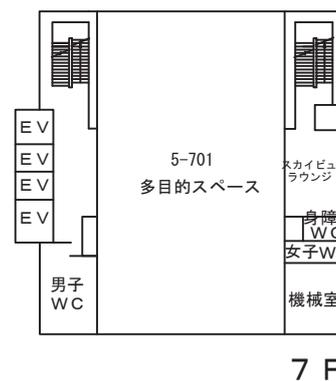
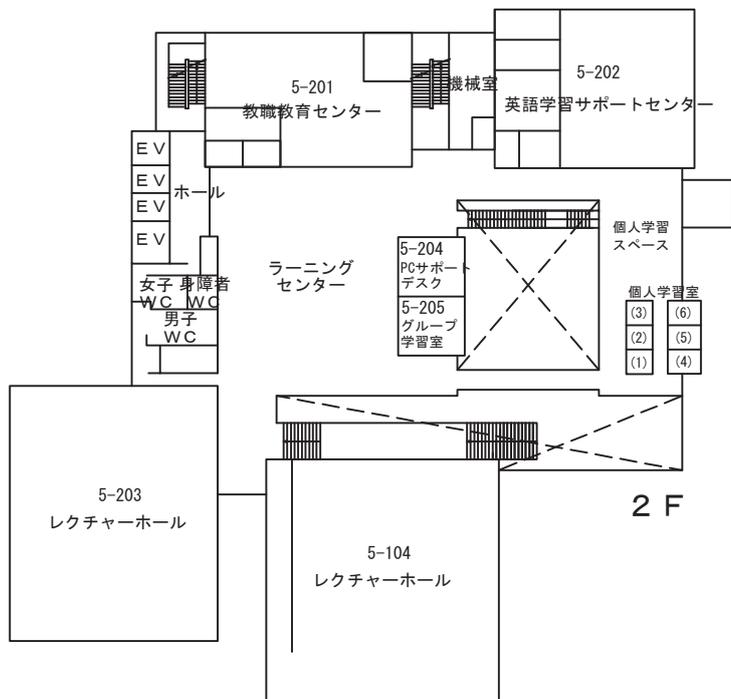
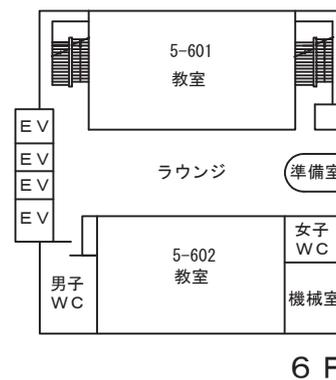
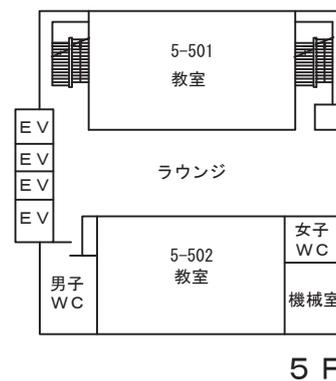
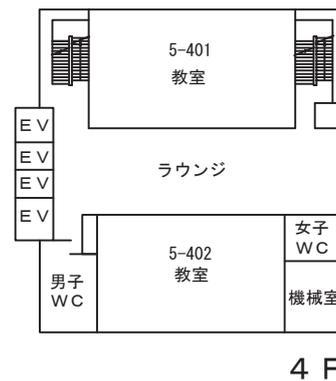
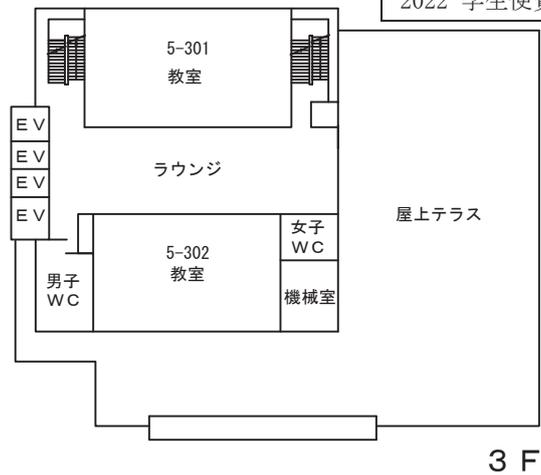
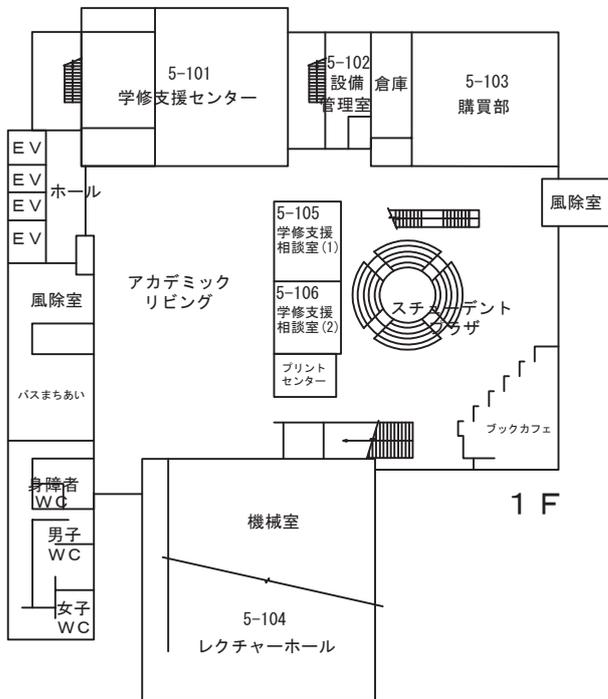
1 F

至 南門

至 天神門

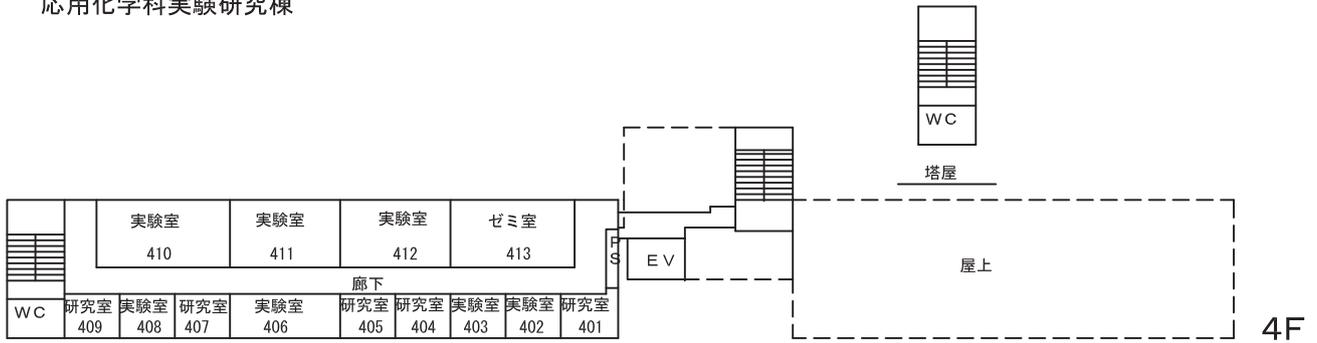
5号館 案内

多目的講義棟
 学修支援センター、英語学習サポートセンター
 教職教育センター、教室、購買部他

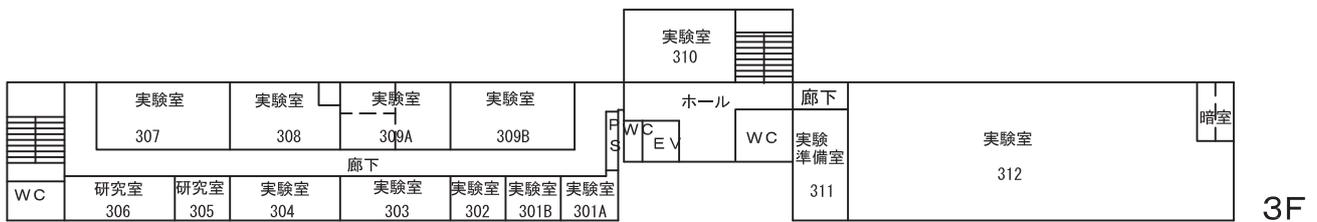


9号館 案内

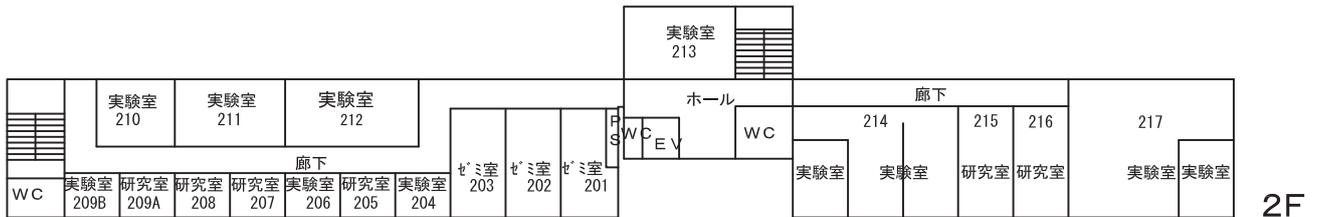
電気電子通信工学科実験研究棟
 データサイエンス学科実験研究棟
 応用化学科実験研究棟



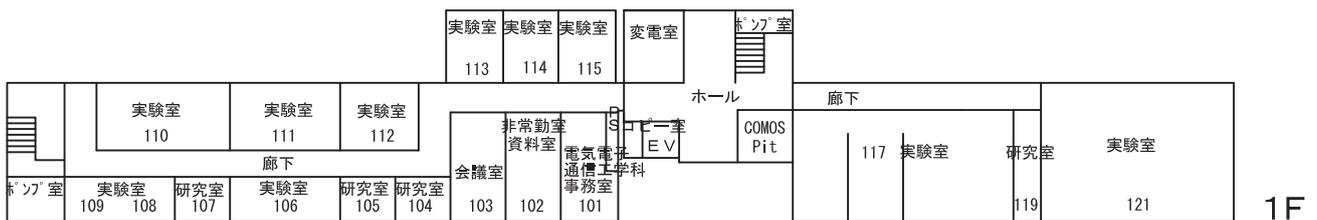
4F



3F



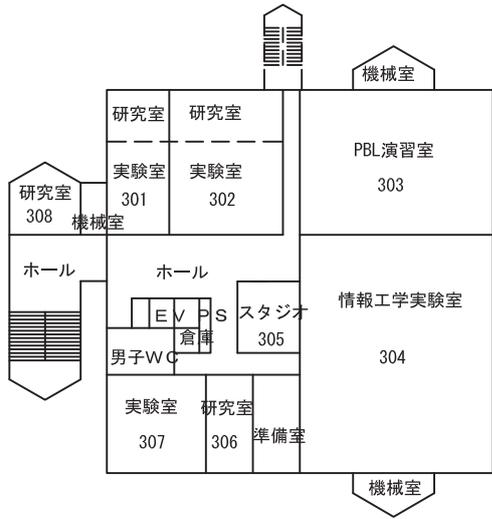
2F



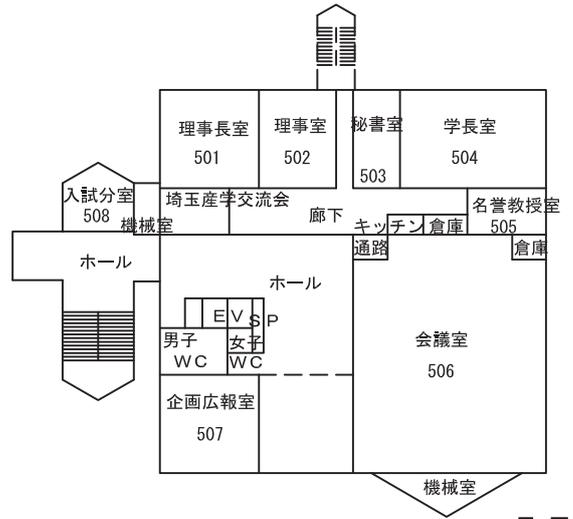
1F

14号館 案内

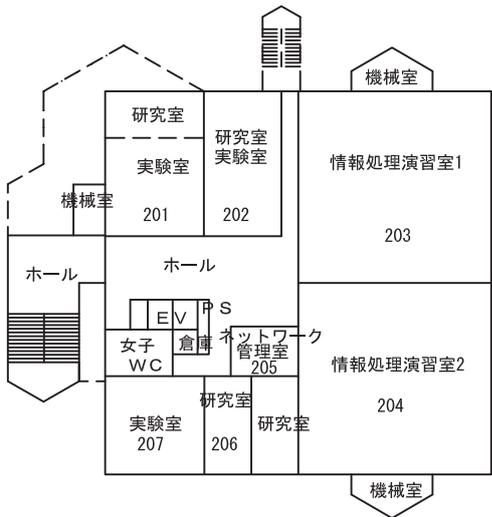
情報メディア工学科実験研究棟
 データサイエンス学科実験研究棟
 情報工学科実験研究棟



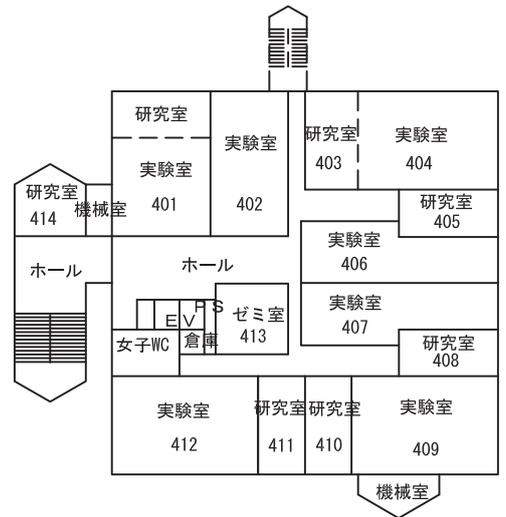
3 F



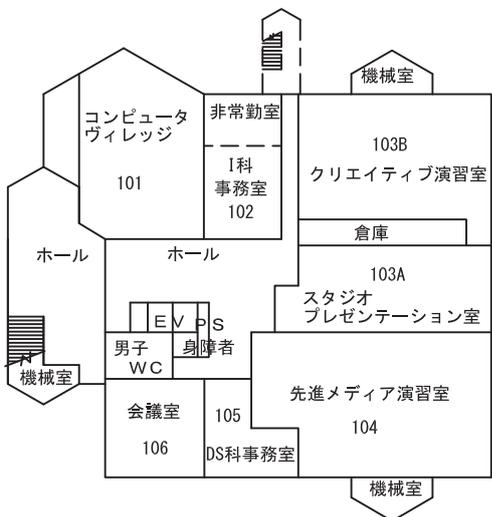
5 F



2 F



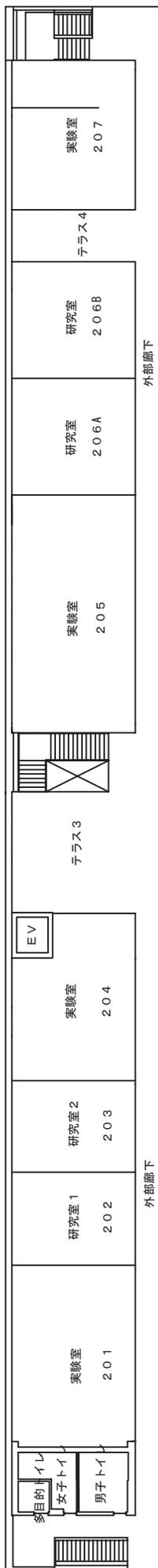
4 F



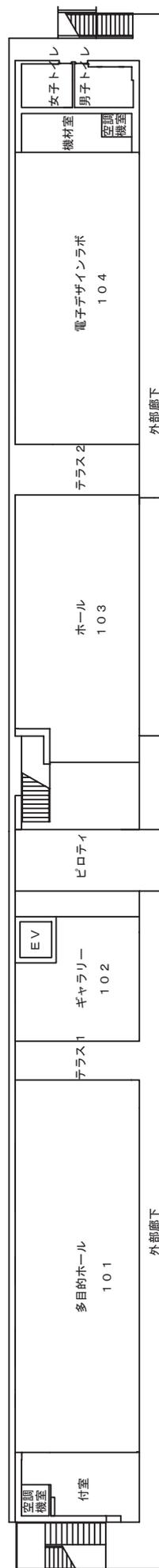
1 F

18号館 案内

- ロボティクス学科実験研究棟
- 電気電子通信工学科実験研究棟
- 情報メディア工学科、データサイエンス工学科実験研究棟
- 創造システム工学科実験研究棟
- 電気電子工学科実験研究棟



2F平面図

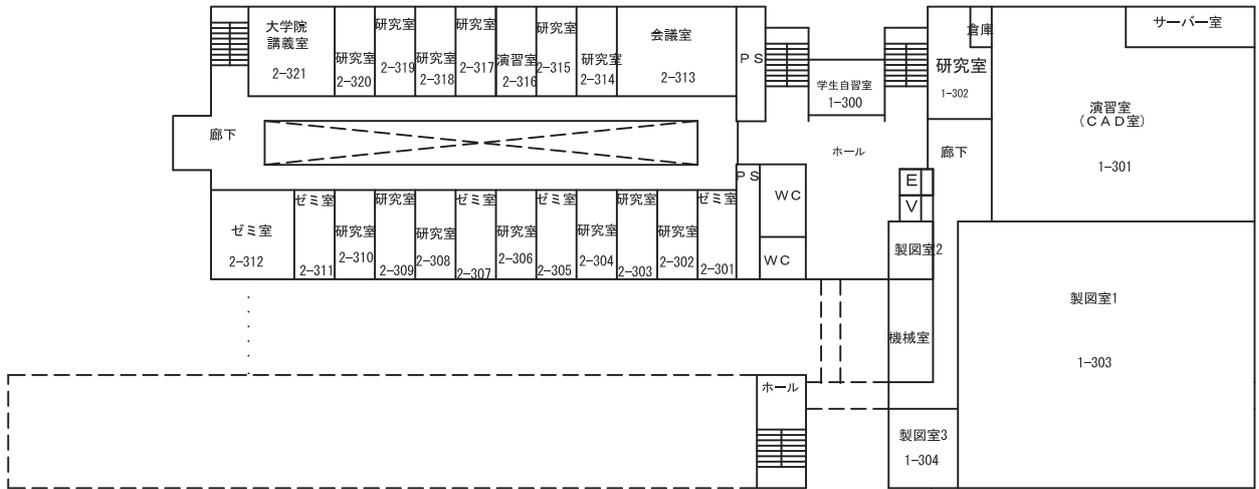


1F平面図

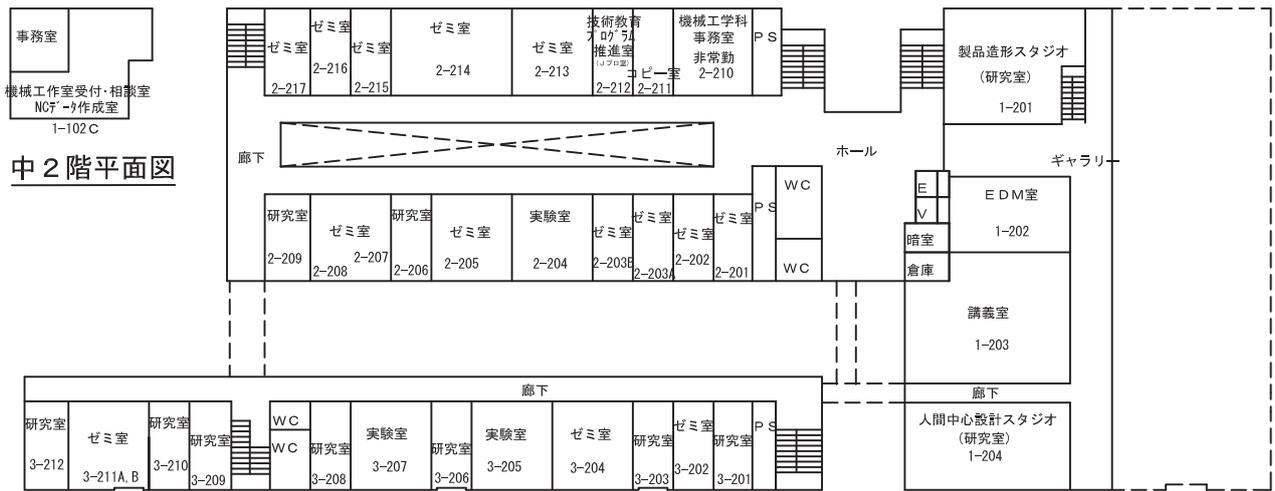
E1棟 案内

2022 学生便覧

機械工学科実験研究棟
 応用化学科実験研究棟
 情報メディア工学科、データサイエンス学科実験研究棟
 機械実工学教育センター

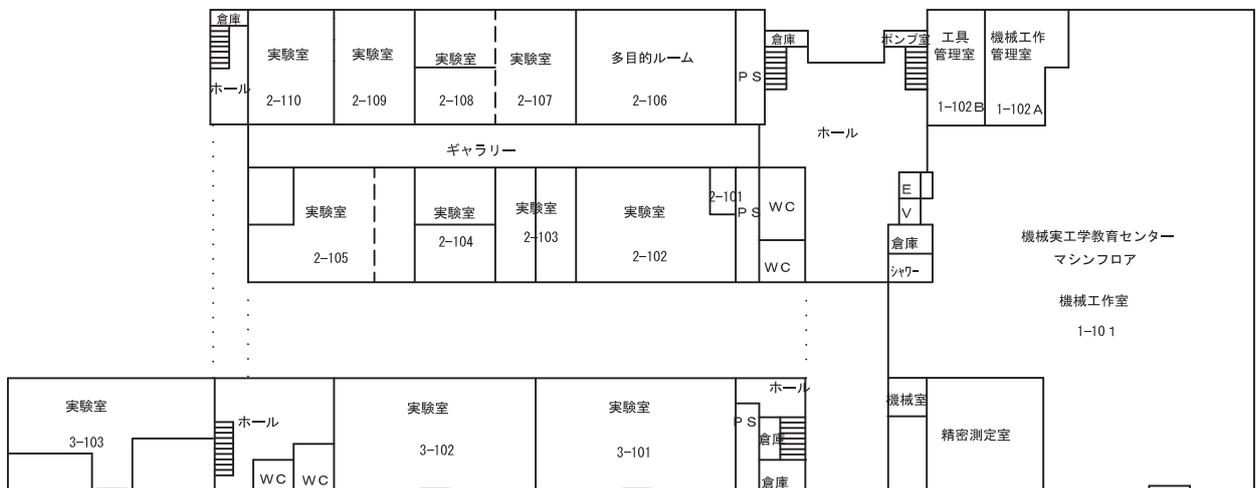


3階平面図



中2階平面図

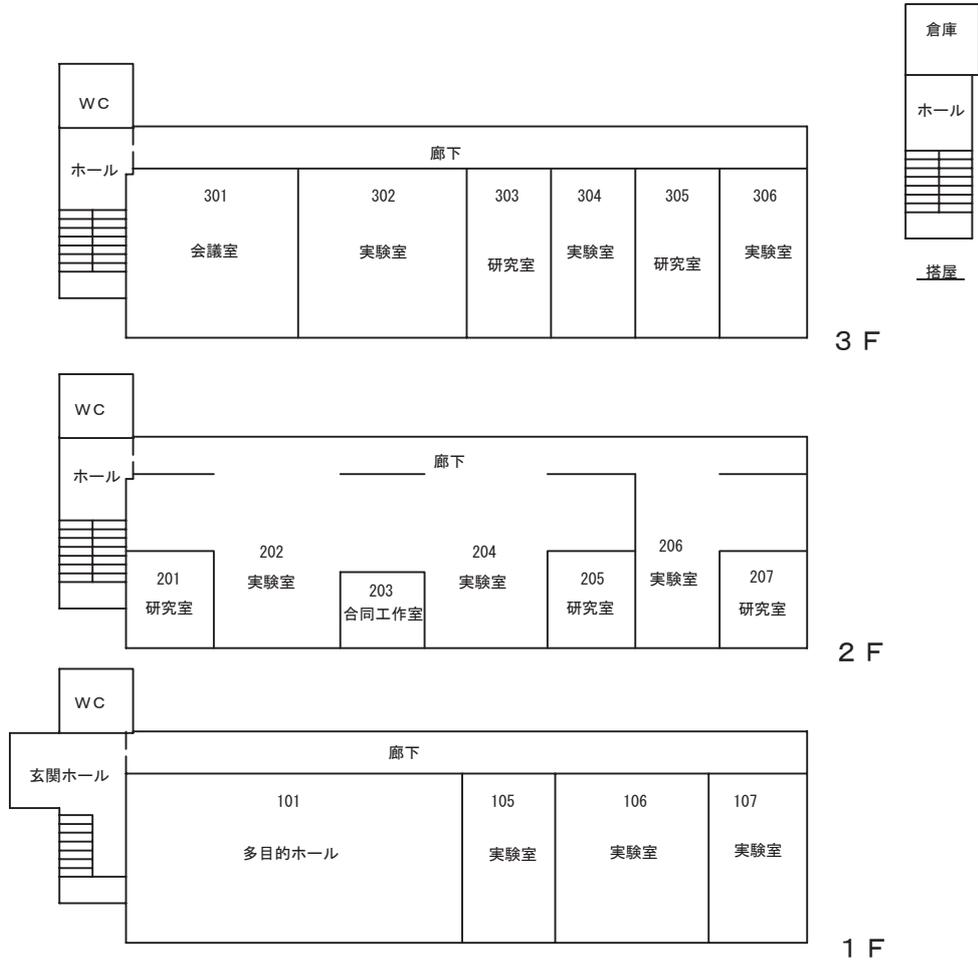
2階平面図



1階平面図

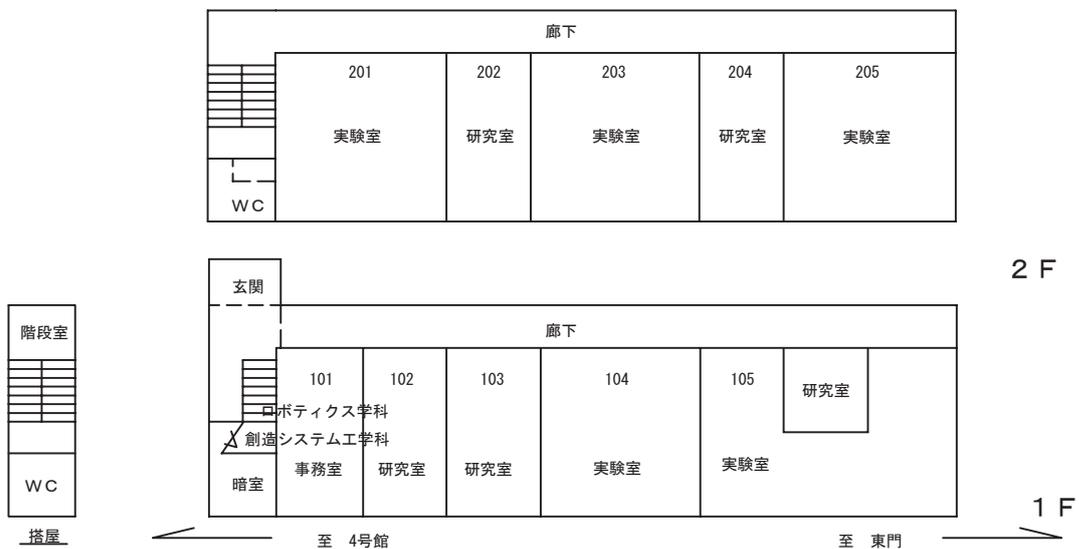
E 2 1 棟 案内

ロボティクス学科実験研究棟
創造システム工学科実験研究棟



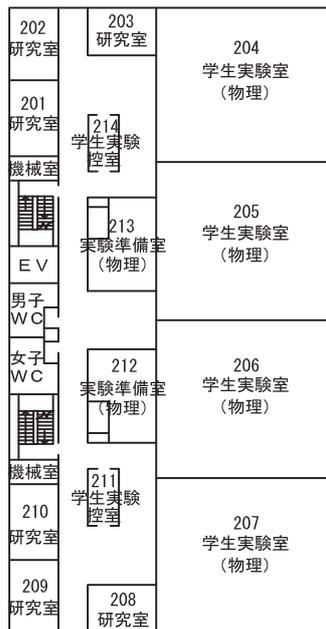
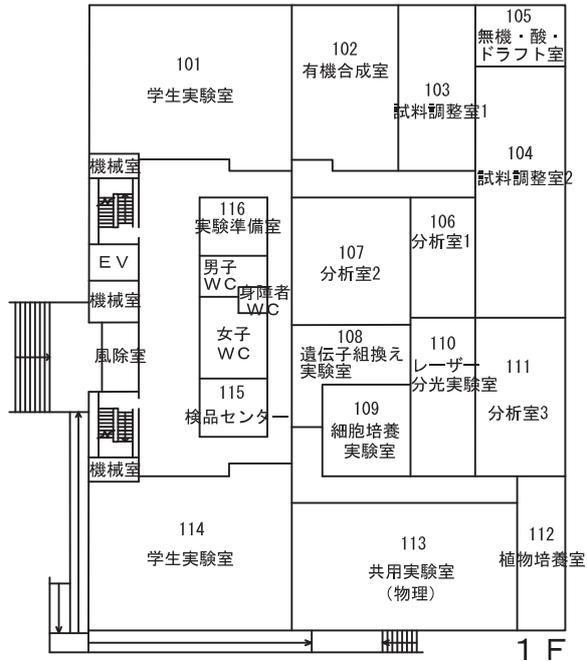
E 2 7 棟 案内

ロボティクス学科実験研究棟
創造システム工学科実験研究棟

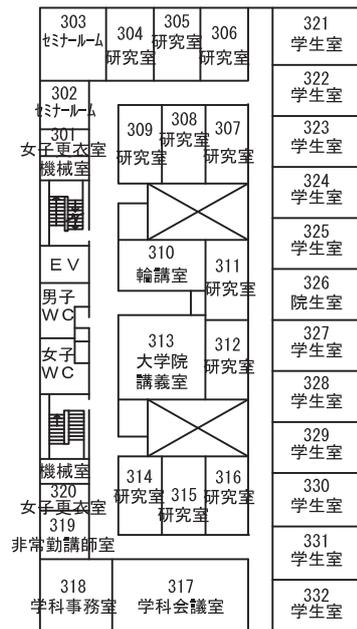


E 2 4 棟 案 内

応用化学棟
 研究室、実験室、検品センター
 学生実験室、学科事務室他
 物理実験研究棟



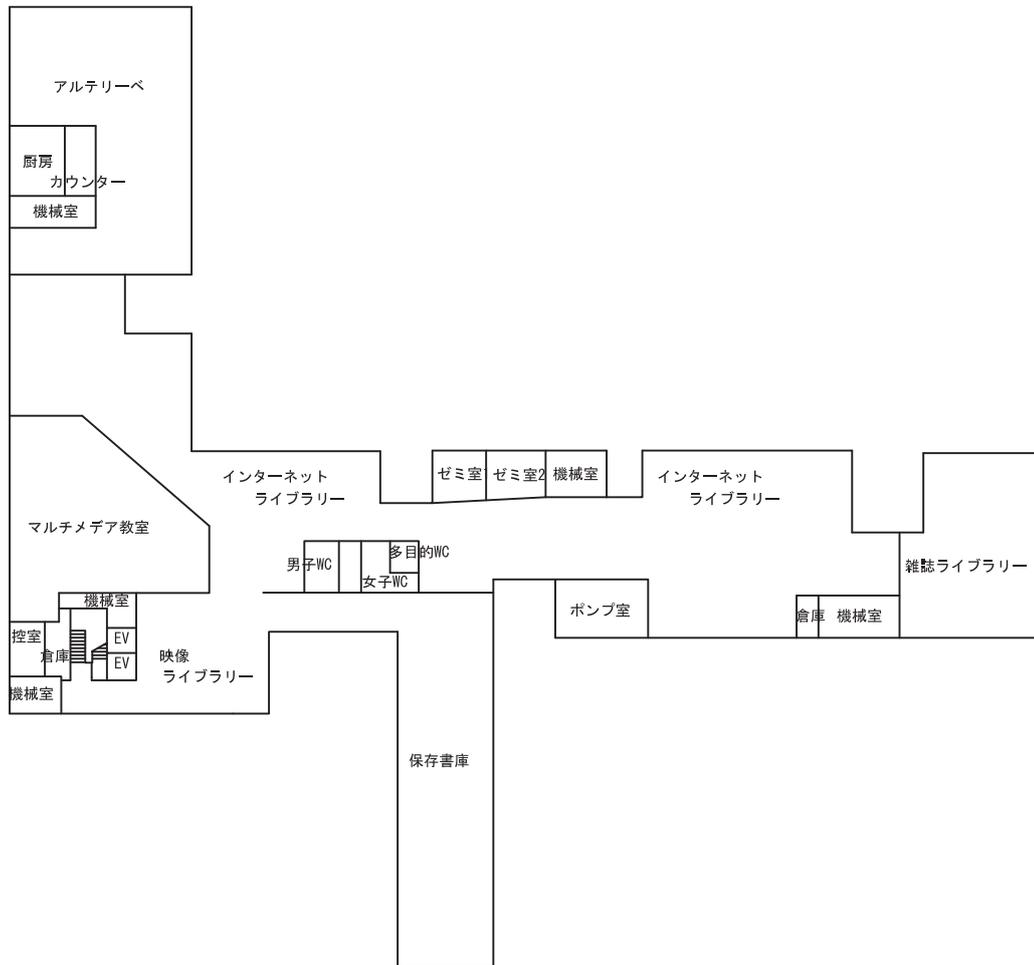
2 F



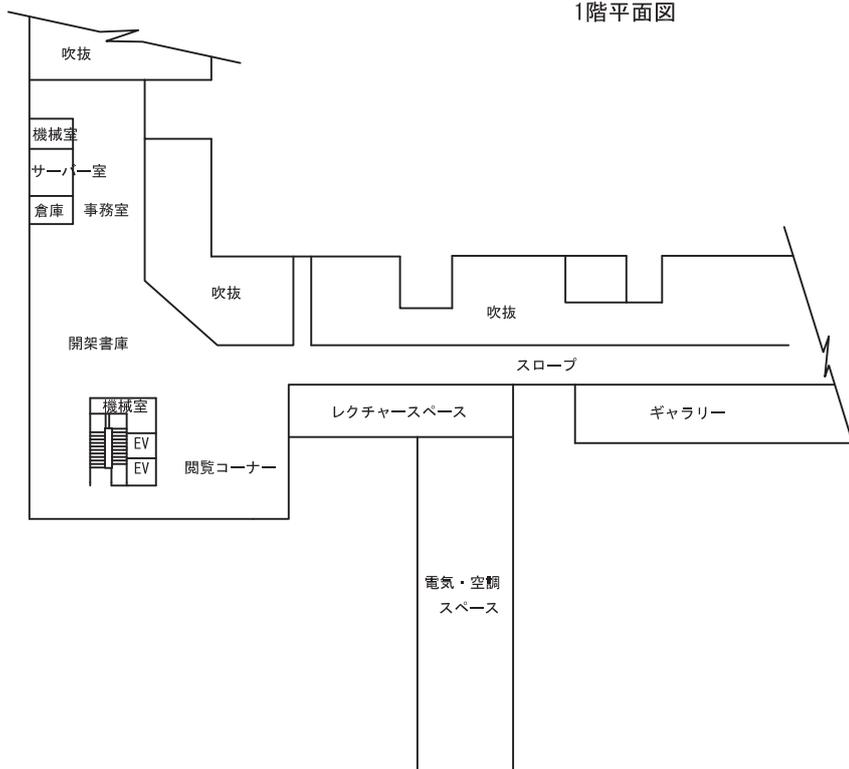
3 F

S 2 棟 LCセンター

(図書館・情報複合施設)



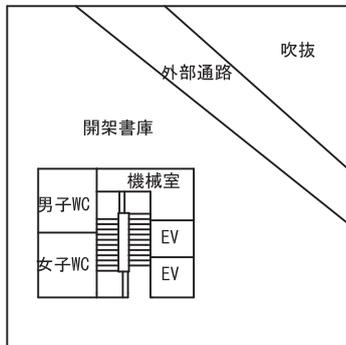
1階平面図



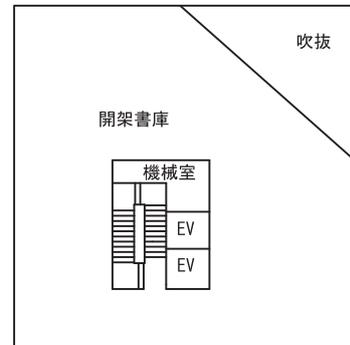
2階平面図

S2棟 LCセンター3~9階

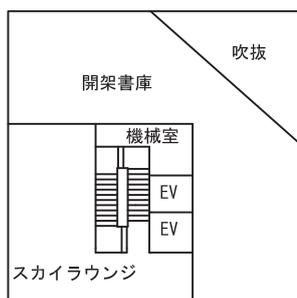
(図書館・情報複合施設)



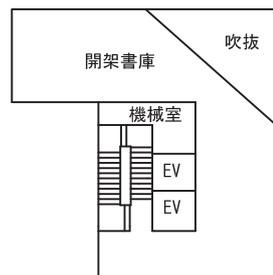
3階



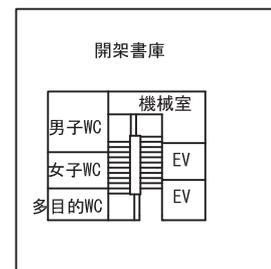
4階



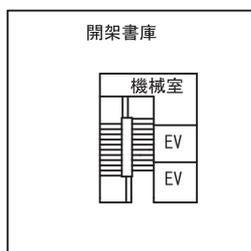
5階



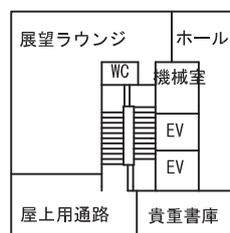
6階



7階



8階



9階



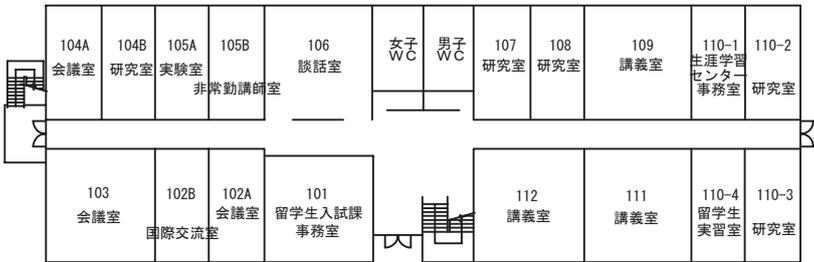
R階

W1棟 案内

共通教育学群研究室
共通教育学群会議室
留学生入試課/生涯学習センター



2 F



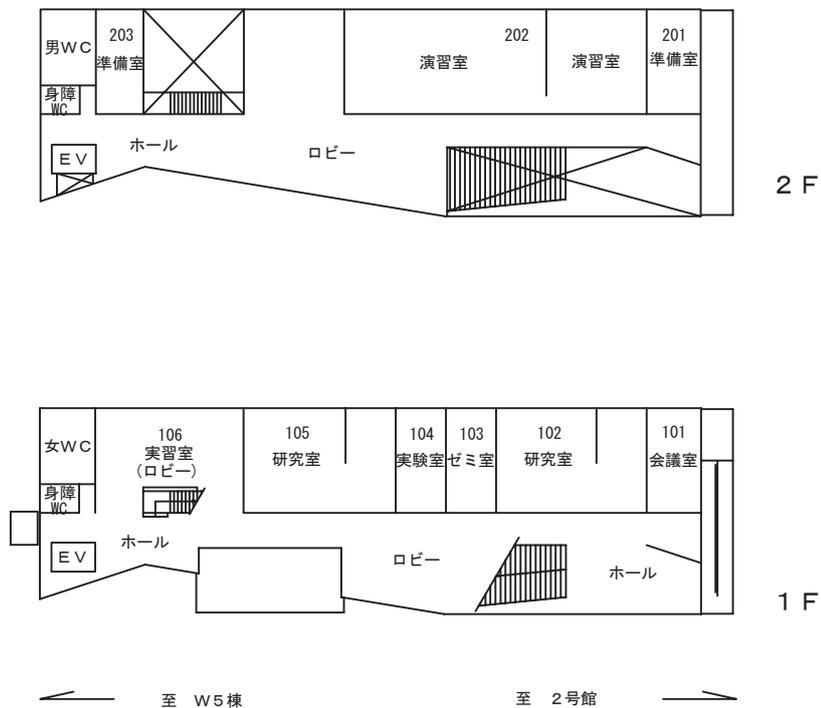
1 F

至 2号館

至 W4棟

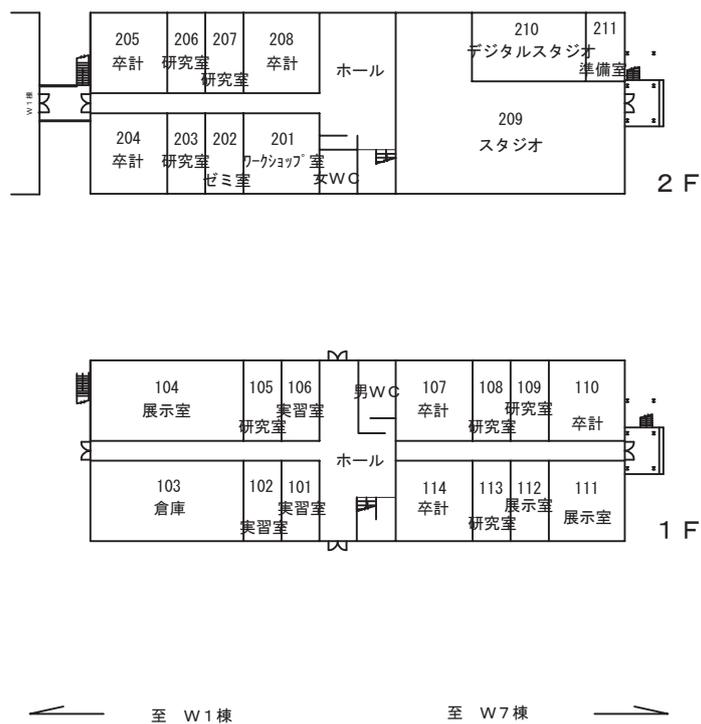
W2棟 案内

建築学科 生活環境デザインコース実験研究棟
生活環境デザイン学科実験研究棟



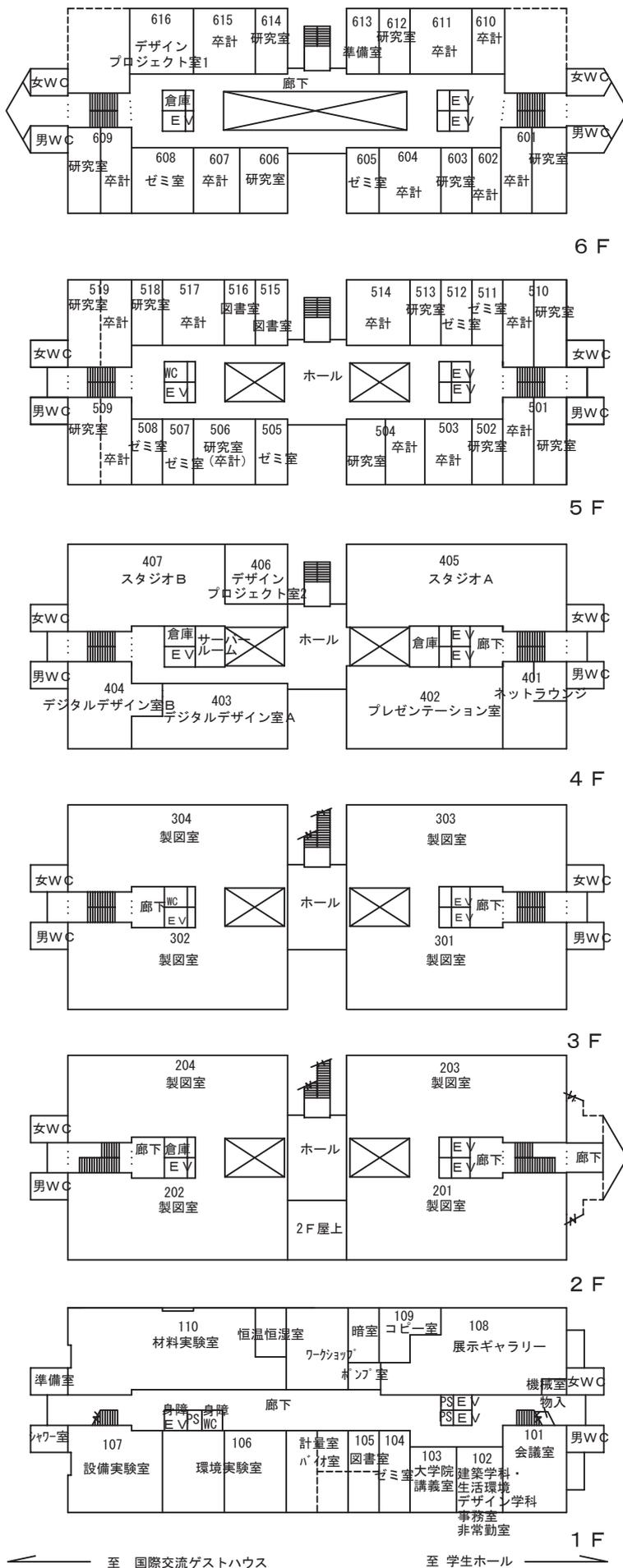
W4棟 案内

建築学科 生活環境デザインコース実験研究棟
生活環境デザイン学科実験研究棟
工業技術博物館(別館)



W10棟 案内

建築学科 建築コース実験研究棟
 建築学科 生活環境デザインコース実験研究棟
 建築学科実験研究棟



日本工業大学大学院 学生便覧

令和4年度版

令和4年4月1日発行

発行者 日本工業大学

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町

学園台4丁目1番地

TEL 0480 (34) 4 1 1 1 (代)

<https://www.nit.ac.jp>

この冊子は修了まで大切に保存してください。

学籍番号

氏名

